

79-267

文學博士 井上 賴國 著

國漢新辭典

東京 大倉書店發行

44.3.3
内交

凡 例

一本書は現代の通用語は勿論廣く行はるる國書、漢籍及び中等教育程度の讀本中の難語、熟語、古語、方言、成句、故事及び科學上の語に至る迄蒐集採録して遺漏なからんことを力め、これに的確明快なる解釋を與へ更にその下に同義語を擧げて、讀書の便に供すると共に作文の棄さなさんことを期せり。

一從來の辭書の多くは、稍教育ある者にあらざれば索引に困難を感じるの憾ありき。これ一は現代の發音と歴史的假字遺との差異より生ずる不便と、一は漢字の音又は訓を知らざるに由つて生ずる不便との存するが爲めなり。故に本書は、發音と總畫との二索引を卷首に排置して、この不便と缺點とを除がんことを計れり。茲に始めて、所要の語を何れの方面より求むるも、些の遺憾なきを得べきなり。

一發音索引は略、文部省所定の發音法に準據せり。總畫索引は又簡單なる總畫漢和字典としての用をも兼ねることを得せしめたり。

一本書は、ある一語が、品詞を異にするために、從來各別に記載せられた

ること、徒に紙数を増加し、且つ索引に煩しきを知り、凡て是れ等を
 一語の下に収めて、品詞は白字を以て、その間に顯はしたり。又名詞よ
 り變じて動詞となれる漢語には、名詞の下に、變化に要する假名と、白
 字にて顯はしたる品詞を示して、併せ收めたり。これ漢語の名詞が
 動詞となる場合は唯一にして、決して紛るることなければなり。
 一同一字或は同一語にして、其意義異りたる者には、一三等の記號を用
 ゐて、之を區別し、又字音は、漢字の右傍に單線を施し、之を分明にせり。
 一巻末に掲げたる、枕詞より、そがかかるべき語を見出すものと、或る語
 より、その枕詞を見出すものは、これ亦讀書と作文との二様の便に
 供せんとする目的に出でたるものなり。
 一本書編纂に就ては多大の注意と熱心とを以て、誤謬遺漏等なからん
 ことを期したり。されど猶ほ不完不備の點少なからざらん。それ等は
 他日發見するに隨ひ、更に訂正を加へて、益す完備せしむべし。
 一本書の成る主として波多野錄治郎神崎一作二君の盡力に頼るもの
 多し。茲に一言してその勞を謝す。

明治四十四年一月十五日

著者しるす

國語發音表

アイ	あひ	アオムキ	あむき	アジワウ	あぢはふ	預
アイ	あひ	アオムク	あむく	アズカリ	あづかり	預
アイ	あひ	アオリ	あふり	アズカル	あづかる	預
アイ	あひ	アオル	あふる	アズク	あづく	預
アイ	あひ	アガウ	あがふ	アズサ	あづさ	梓
アイ	あひ	アガナイ	あがなひ	アズチ	あづち	射
アイ	あひ	アガナウ	あがなふ	アタイ	あたひ	價
アイ	あひ	アギタウ	あぎたふ	アタウ	あたふ	能
アイシラフ	あひしらふ	アキナイ	あきなひ	ンタエ	あたへ	與
アイ	あひ	アキナウ	あきなふ	アズナイノ	あづなひの	直
アイダ	あひだ	アゲツライ	あげつらひ	ツミ	つみ	合
アウ	あふ	アゲツラウ	あげつらふ	アツカイ	あつかひ	彗
アウスク	あふぬく	アサウ	あさふ	アツラウ	あつらふ	抜
アウムク	あふのく	アサウ	あさふ	アツカウ	あつかふ	談
アウムク	あふむく	アザナウ	あざなふ	アララウ	あつらへ	抜
アエ	あへ	アザナワル	あざなはる	アテガイ	あてがひ	罪
アオ	あを	アジ	あぢ	アテガウ	あてがふ	宛
アオ	あを	アシナエグ	あしなへぐ	アナナイ	あななひ	宛
アオイ	あふひ	アシナエ	あしなへ	アナナウ	あななふ	行
アオグ	あふぐ	アシラエ	あしらへ	アマサエ	あまさへ	剝
アオノク	あをのく	アシラウ	あしらふ	アマナウ	あまなふ	剝
アオノケ	あをのけ	アジワイ	あぢはひ	アマネウス	あまねはす	遍

仰仰扇葵襖青壘仰仰仰合間藍 逢間相合

味遇接跛跛蹇糾糾糾淺論論庇商噉贖贖煽煽仰仰者

遍剝扶 宛宛罪抜談抜合彗 直能價射梓預預預味

カウ カウ カイログ カイナ カイコ カイコ カイ カイ カイ カイ カイ
カウ カウ カイログ カイナ カイコ カイコ カイ カイ カイ カイ カイ
カウ カウ カイログ カイナ カイコ カイコ カイ カイ カイ カイ カイ

カ

折尾拜御終終女 峽買飼匙貝蠶卵腕 飼變

カウ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ
カウ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ
カウ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ カエ

買變樞歸返近辨返歸反 蛙肯顔蕭燃抱抱係係

カガヨウ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ
カガヨウ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ
カガヨウ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ カカワ

耀瘵係係隱園園芳隱炎陽 園園柏葉黃鎚被負數蠶

カ

七

オサエ オサキ オサシ オサス オサナ オサナシ
オサエ オサキ オサシ オサス オサナ オサナシ
オサエ オサキ オサシ オサス オサナ オサナシ

押兎飯食幼幼治納收修納收修納收修納收

オシウ オシエ オシミ オシム オシム オシム
オシウ オシエ オシミ オシム オシム オシム
オシウ オシエ オシミ オシム オシム オシム

教教惜惜愛章食嘸懶襲襲遲教歴穩遠復復現夫男織

オトナイ オトナウ オトリ オドリ オドリ オドリ
オトナイ オトナウ オトリ オドリ オドリ オドリ
オトナイ オトナウ オトリ オドリ オドリ オドリ

訪訪囘踊衰衰斧自叫思思思思親瘵樞居居折折

カ

六

タワル
たはる
戯

チ

チイサシ
チカイ
チカウ
チガイ
チガウ
チガハ
チジカム
チジク
チジミ
チジム
チシル
チワウ
チヨウ
チヨウズ
チヨウナ
チラウ

小契契違違違縮縮縮縮縮縮縮幸蝶手斧散

ツ

ツイ
ツイエ
ツイヤス
ツイユ
ツイユ
ツイエ
ツカイ
ツカイ
ツガイ
ツカウ
ツカウ
ツカウ
ツカエ
ツカエ
ツカエヤツル
ツカマウ
ツカマウ
ツクエ
ツクズク
ツグノイ
ツグノウ
ツクバイ
ツクパウ

終費費費費費費費費杖使番使使支仕番支仕提机熱償償踴踴

ツクロイ
ツクロウ
ツズシル
ツズ
ツズキ
ツズク
ツズマル
ツズマル
ツズミ
ツズム
ツズラ
ツズラカ
ツズリ
ツズル
ツズシロウ
ツタウ
ツタエ
ツタエ
ツタワリ
ツタワリ
ツタワル
ツチカイ
ツチカウ
ツツカエ

緒緒十續續約約約葛圓綴綴傳傳傳傳傳

テ

ト

ツドイ
ツドウ
ツマズク
ツワモノ
ツワリ
ツワル
ツワル
テツダイ
テツダウ
テズツ
トイ
トイ
トウ
トウトシ
トウトシ
トウトシ
トウトミ
トウトム
トウバリ

集集蹶兵擇擇熱手手拙問桶問尊尊尊尊尊賜

トウバル
トウブ
トウブ
トウブ
トウメ
トオ
トオ
トオ
トオシ
トオシ
トオス
トオム
トオリ
トオル
トキワ
トコウ
トコシエ
トコシナエ
トコトワ
トコフ
トシ

賜賜賜給食專遠十遠通通通通通通通盤盤常常閉

トツ
トズ
トズ
トズク
トドコオリ
トドコオル
トドノエ
トトノウ
トナヒ
トナヘ
トナウ
トナウ
トナウ
トブライ
トブライ
トブラウ
トブラウ
トムライ
トムライ
トムラウ
トムラウ
トモエ

綴閉綴屈滯滯調調稱稱唱唱稱唱詢甲訪甲訪吊訪吊訪巴

テ
ト

ネライ	ネズ	ネジレ	ネジル	ネジク	ネジ	ネキラフ	ネギライ	ネガワク	ネガワシ	ネガウ	ネガイ	ヌイ	ヌウ	ヌグイ	ヌグウ	ヌナワ	子	ヌ		
ねらひ	ねらひ	ねづ	ねぢれ	ねぢる	ねぢく	ねぢ	ねぎらひ	ねがはく	ねがはし	ねがふ	ねがひ	ぬい	ぬふ	ぬぐひ	ぬぐふ	ぬなは				
狙	狙	撰	撰	撰	拗	擣	擣	願	願	願	願	蕙	拭	拭	縫	縫				
ハジライ	ハジ	ハカラウ	ハカライ	ハエキ	ハエ	ハウ	ハイル	ハイ	ハイ	ハイ	ハイ	ノゴイ	ノゴウ	ノタマイ	ノタマウ	ノタマワク	ノトウブ	ハ	ノ	
はじらひ	はぢ	はからふ	はからひ	はへき	はへ	はふ	はふる	はひ	はひ	はひ	はひ	のどひ	のごふ	のたまひ	のたまふ	のたまはく	のたうぶ			
含羞	恥	計	計	穰	蠅	延	這	斷	這	蠅	灰	宣	宣	宣	宣	拭	拭			
ヒジ	ヒキイル	ヒカウ	ヒカエ	ヒオムシ	ヒイラギ	ヒイナ	ヒイズ	ハラエ	ハラウ	ハライ	ハズレ	ハズル	ハズス	ハズカシム	ハズカシメ	ハズカシム	ハズカシム	ハジラウ	ヒ	ハ
ひぢ	ひきゐる	ひかへ	ひかへ	ひをむし	ひひらぎ	ひいな	ひいづ	はらへ	はらふ	はらひ	はづれ	はづる	はづす	はづかしむ	はづかしめ	はづかしむ	はづかしむ	はじらふ		
肘	率	控	控	蛭	椋	雛	秀	穢	拂	拂	外	外	外	解	辱	辱	恥	恥	含羞	

ヌ
ホ
ノ
ハ
ヒ

一七

ナガラエ	ナカライ	ナオル	ナオリ	ナオス	ナオシ	ナオザル	ナオザリ	ナオ	ナオ	ナエ	ナウ	ナウ	ナイ	トモナイ	トモナウ	トラウ	トラエ	トラワル	トラワレ	ナ	ナニ																		
なからへ	なからひ	なほる	なほり	なほす	なほし	なほざる	なほざり	なほ	なほ	なへ	なふ	なふ	なぬ	なむなひ	なむなふ	ならふ	ならへ	ならはふ	ならはれ																				
存命	交際	直	直	直	直	等閑	等閑	直	猶	苗	綯	萎	地震	囚	穢	執	執	伴	伴																				
ニイシ	ニイ	ナワ	ナラウス	ナラウ	ナライ	ナライ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ナラウ	ニ	ニ																		
にひし	にひ	なは	ならはす	ならふ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ	ならひ																				
新	新	繩	習	習	倣	習	倣	汝	白癩	鯨	準	準	滯	齋	昵	昵	膾	流	存命	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	
ニワトコ	ニワタズミ	ニワトリ	ニワカ	ニワ	ニラマウ	ニナウ	ニナイ	ニギワス	ニギワシ	ニギワウ	ニギワイ	ニカワ	ニオワス	ニオワシ	ニオヤカ	ニオウ	ニオイ	ニオイ	ニエ	にたご	にたごみ	にはどり	にはか	には	にらまふ	になふ	にぎはす	にぎはし	にぎはふ	にぎはひ	にかは	にほはす	にほはし	にほやか	にほふ	にほひ	にほ	にえ	
接骨木	濼	雞	俄	庭	瞰	擔	擔	賑	賑	賑	賑	膠	匂	匂	匂	臭	臭	臭	鳴	贊																			

ナニ

一六

國語發音索引終

ロ
ワ

ロウガワシ
ロウズ
ロウタシ
ワ
ワキマウ
ワキマエ
ワズカ

亂領隣 辨辨僅

ワズライ
ワズラウ
ワズラワシ
ワズライ
ワタライ
ワタラウ
ワラ
ワライ
ワラウ

煩煩煩 渡渡原 笑笑

ワラジ
ワラウ
ワラワ
ワラワシ
ワラワヤミ

草鞋 童妾 可笑 瘡

モヨオス
モライ
モラウ
ヤ
ヤオ
ヤシナイ
ヤシナウ
ヤスライ
ヤスラウ
ヤトイ
ヤトウ
ヤマイ
ヤモウ
ヤヨイ
ヤラウ
ヤワシ
ヤワス
ヤワラ
ヤワラカ
ヤワラダ

催賞賞 養養休 休履履 病病 癩癩 遺和和 柔術 和和

ユイ
ユイ
ユウ
ユウ
ユエ
ユオイカ
ユオウ
ユズリ
ユズル
ユズロウ
ユマウ
ユマワル
ユワタ
ヨイ
ヨウヤク
ヨウヨウ
ヨオロ
ヨコタウ

結履人 結木綿 故寬 疏讓讓讓 齋齋 絞纈 背漸漸 臆橫

ヨジクル
ヨジル
ヨズ
ヨソイ
ヨソウ
ヨソウ
ヨソウ
ヨソオウ
ヨソオウ
ヨソオシ
ヨソウ
ヨバイ
ヨバワル
ヨロイ
ヨロウ
ヨロウ
ヨロズ
ヨリ
ヨリ
ヨリ
ヨロイ

拗換 攀裝 比寄 裝裝 嚴喚 婚喚 鏡具 擷申 萬夜半 世齡

ヤ
ユ
ヨ

ユ

二〇

一一

畫 引 索 引

【一畫】

一 ひこ、ひこつ
乙 木こ、きのこ

【二畫】

丁 テイ、よはる、チヤウ
七 な、シチ、なな
九 こ、キウ、このつ

二 ふた、ふたつ

人 シン、ニン

入 シ、入る、いる、ニフ

八 ハヤ、ハチ、ヤフ

兀 キつくゑ、神さま

刀 なた、カチ

力 リチ、リキ、リキキ、リヨク

匕 ヒ、カヒ、サヒ

ト トラ、ウラナヒ

十 シウ、ソ

又 イ、イマ

乃 ナ、ナハチ、ダイ

了 レウ、ル

父 カイ

【三畫】

三 サミ、ミツ

上 アハ、アヘ、アハミ、アハミ

下 カタ、カチ、カチ、カチ

丈 丈、タ、タ、タ

丸 マル、マル、マル

乞 コツ、コツ

久 コツ、コツ

也 ナリ、ナリ

亡 ナシ、ナシ

兀 コツ、コツ

凡 凡、ハン、ハン

双 ニ、シ、シ

勺 セキ、シヤク

千 セン

口 コウ、ク

土 ト、チ

士 シ、シ

夕 セキ、セキ

大 ダイ、ダイ

女 メ、メ

子 シ、シ

又 サ、サ

寸 スン

小 セウ、セウ

尸 シ、シ

山 サン、セン

川 セン

工 コウ

己 ケ、ケ

己 ケ、ケ

巳 シ、シ

巾 キン、キン

干 カン

弋 ケ、ケ

弓 キウ、キウ

才 サイ

氏 シ、シ

子 ゲツ

丑 チウ、チウ

【四畫】

(一畫)(二畫)(三畫)

(一)(四畫)

(四畫)

不 フ、 あらす	丹 タン	乏 ボウ うち	中 チュウ あたる ちユウ	予 ヨ われ	云 ウン いふ、 うんか	互 ゴ かたみ、 たがひ	亢 カウ いっ	五 ゴ いっ	井 セイ い	什 シフ ニ	仁 ジン ニ	仆 フ たふれ	仄 フク ほのか
及 キヨフ たよび、 しく、 たよほす	友 イウ かへる、 かへし、 かへす、 タン	反 ハン かへる、 かへし、 タン	内 ナイ ナイ	仇 キウ ナイ	今 キン いま、 いんま、 コン	介 カイ はさまる、 はさむ、 はさむ	元 ゲン グワン	允 イン グワン	公 コウ きみ	六 ロク りつ	冗 ジュウ りつ	凶 キョウ マ	
分 ブン わかつ、 わかち、 フン	刈 カキ かき、 かき、 かき	切 セツ サイレ	匹 ヒキ ヒツ	勾 コウ ヒツ	句 コウ ヒツ	勿 モツ モチ	化 カ ケ	升 シヨウ ケ	午 ウ ケ	厄 ヤク ケ	壬 ジン ケ	天 テン ケ	太 タイ ケ
夫 フ つま、 をひき、 をひき、 をひき	天 テン エウ	孔 コウ コウ	少 セウ セウ	尤 ユウ ユウ	尹 イン イン	尺 セキ セキ	屯 トン トン	巴 ハ ハ	幻 ゲン ゲン	廿 ジヤク ジヤク	引 イン イン	心 シン シン	戸 コ コ
戈 ゴ ヨク	手 テ テ	支 シ シ	文 ブン ブン	斗 トウ トウ	斤 キン キン	方 ハウ ハウ	爪 サウ サウ	日 ニチ ニチ	日 ニチ ニチ	月 ゲツ ゲツ	木 ボク ボク	欠 ケツ ケツ	止 シ シ

二

(五畫)

受 ウケ うけ	毋 ボ ボ	比 ヒ くらべ、 くらぶ	毛 モウ モウ	氏 シ シ	父 フ フ	水 スイ スイ	火 カ カ	帛 ボク ボク	片 ヘン ヘン	牙 ガ ガ	牛 ウシ ウシ	夂 シ シ	犬 ケン ケン	王 ワウ ワウ
且 シヤク シヤク	世 セイ セイ	丘 キウ ク	乍 シヤク シヤク	丙 ヘイ ヘイ	主 シュ シュ	井 シヨウ シヨウ	乎 カ カ	仕 シ シ	他 タ タ	付 ツク ツク	令 レイ レイ	代 ダイ ダイ	以 イ イ	
佐 サ サ	兄 ケイ ケイ	例 レイ レイ	冬 トウ トウ	仙 セン セン	凸 ツツ ツツ	凹 アウ アウ	冊 サフ サフ	出 シュツ シュツ	功 コウ コウ	刊 カン カン	加 カ カ	包 ハウ ハウ	北 キョク キョク	
勿 ボ ボ	半 ハン ハン	占 セン セン	卉 キ キ	卵 ラン ラン	卵 ラン ラン	卵 ラン ラン	去 キョ キョ	召 セウ セウ	台 ダイ ダイ	只 シ シ	叫 ケウ ケウ	叩 コウ コウ	叶 ケフ ケフ	古 コ コ
叱 シツ シツ	吹 フイ フイ	右 ウ ウ	司 シ シ	旬 ジュン ジュン	可 カ カ	埴 シ シ	史 シ シ	囚 シ シ	仔 シ シ	四 シ シ	外 ガイ ガイ	失 シツ シツ	城 シ シ	尼 ニ ニ

三

(五畫)

尻	しり、あしき	孕	はらむ、はらみ	左	ひだり、め	巧	たくみ、たくむ	布	ぬい、しく	市	いち、こ	風	かぜ、かざり	平	ひら、たひら、ひらけ、たひらぐ	幼	わらわ、こぼれ	弘	ひろ、ひろむ	弗	ふ、ふる	打	うち、うちつ	汁	じゆ、みぎ	汀	てい、みぎ
---	--------	---	---------	---	-------	---	---------	---	-------	---	------	---	--------	---	-----------------	---	---------	---	--------	---	------	---	--------	---	-------	---	-------

犯	ハカス、ボシ	虞	つちのえ	斥	セキ	且	あした	未	ひだり、ひつじ	必	かならず	末	うら、マツ	水	みづ、マツ	札	さつ、ただし	正	ただし、ただし	母	はは、モ	民	たみ、ヒヨウ	氷	こほり、ひ
---	--------	---	------	---	----	---	-----	---	---------	---	------	---	-------	---	-------	---	--------	---	---------	---	------	---	--------	---	-------

永	ながし、なが	迂	すべり	玄	げん	玉	たま	瓜	かぼ、がらん	甘	あま、あまし	生	なま、うまれ	用	もちあ、もちある	田	でん、よるひ	甲	か、よろひ	由	よし、よる
---	--------	---	-----	---	----	---	----	---	--------	---	--------	---	--------	---	----------	---	--------	---	-------	---	-------

申	まをす、まをす	疋	びき、むら	白	しろ、まをす	皮	かわ、まをす	皿	へい、ま	目	め、ま	矛	ぼ、ま	矢	や、ま	石	いし、ま	示	しめし、しめす	禾	こ、ま	穴	あな、ま	立	たち、ま	丕	へい、ま
---	---------	---	-------	---	--------	---	--------	---	------	---	-----	---	-----	---	-----	---	------	---	---------	---	-----	---	------	---	------	---	------

四 (六畫)

互	あひたつ	丞	じやう	交	まじり、まじり	亥	がい	亦	また、また	企	くわだつ	仰	たほせ、あほけ	仲	なかつ	任	まかす	件	けん、くだん	伏	ふく、ふさる	伉	かう
---	------	---	-----	---	---------	---	----	---	-------	---	------	---	---------	---	-----	---	-----	---	--------	---	--------	---	----

(六畫)

伐	はく、はらむ	伍	ご、ご	伎	ぎ、ぎ	休	やすみ、やすむ	伊	い、い	兆	てう、しるし	充	あつ、あて	先	せん、さき	兕	きやう	光	ひかる、ひかり	全	ぜん、まつたし	共	きやう、また	舟	ふね、ふね	冰	こほり、ひ	冴	さゆ
---	--------	---	-----	---	-----	---	---------	---	-----	---	--------	---	-------	---	-------	---	-----	---	---------	---	---------	---	--------	---	-------	---	-------	---	----

冲	ちゆう、たごる	劣	れつ、たごる	刑	けい、ギヤウ	列	れつ、つらぬ	匠	しやう、たごる	匡	きやう、たごる	劦	はね、たごる	印	いん、しるし	危	あやふし	吃	きつ、さむり	各	かく、あふ	合	あひ、あふ	吉	きち、きち	吊	びやう、きち
---	---------	---	--------	---	--------	---	--------	---	---------	---	---------	---	--------	---	--------	---	------	---	--------	---	-------	---	-------	---	-------	---	--------

吋	いん、ち	同	どう、な	名	な、みやう	后	こう、きさき	吏	り、はく	吐	つ、はく	吁	こ、むかひ	向	むき、むかひ	回	まはる、まわ	因	ちなみ、よる	圯	い、よる	埒	ち、よる	圭	けい、よる
---	------	---	------	---	-------	---	--------	---	------	---	------	---	-------	---	--------	---	--------	---	--------	---	------	---	------	---	-------

在	あり、い	地	ち、ま	庄	しやう、ま	多	た、ま	夙	しゆく、ま	夷	い、ま	奸	かん、ま	如	じよ、ま	好	こう、ま	妃	ひ、ま	妾	せう、ま	字	じ、ま	存	ぞん、ま	宇	う、ま	宅	たく、ま
---	------	---	-----	---	-------	---	-----	---	-------	---	-----	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	------	---	-----	---	------	---	-----	---	------

五

守	まもる、もる	安	やすみ、やすむ	寺	てら、あはれ	屹	きつ、ま	尖	せん、ま	州	しゆう、ま	帆	はん、ま	式	しき、ま	年	ねん、ま	夸	くわ、ま	弛	ち、ま	付	つ、ま	忙	まい、ま	扛	かう、ま
---	--------	---	---------	---	--------	---	------	---	------	---	-------	---	------	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----	---	------	---	------

(六畫)

托 タク 托セテ
扨 カンセ
扣 ひかへ、ひかふ
汎 あまねし
汗 あんせ
汚 よこれ、よす、
汝 なれ、なんぢ、
池 いけ、
戊 じゆつ
戎 じゆつ、つはもの
收 じゆつ、たさまる
旨 シバシバ、
早 はやし、はやむ、
曳 ひく
旭 あさひ

旬 シユシ
旬 わた、めがね、
旬 まがら、めがら、
旬 まがら、めがら、
曲 まがら、
有 アイワ、
朱 シユキ
朶 シユキ
机 キツク
朽 くつ、
朽 くつ、
朴 ぼく、
次 つぎ、
此 シユキ、
死 シユキ、
江 カエ、
沙 セキ、
灰 クワイ

牝 ヒメ、
牟 ム、
肋 あはち、
肌 キダ、
艾 カイ、
辻 ツジ、
込 こみ、
込 こむ、
竹 タケ、
米 コメ、
糸 イト、
羊 ヤウ、
羽 ウ、
老 ラウ、
考 コウ、
而 シカシ

耳 シミ、
肉 ニク、
臣 シン、
自 シ、
至 シ、
白 キウ、
舌 ジツ、
良 ズン、
舟 シユ、
色 シユ、
風 ナギ、
血 ケツ、
行 ケツ、
衣 イ

六 (七畫)

西 セイ
亨 カウ
串 クシ
余 ヨレ
伴 ハン
伸 シン
伯 ハク
伽 カ
似 シ
似 シ
佃 テン
但 タン
伶 テン
伺 シカガヒ
位 位

(七畫)

低 テクシ
佐 サツ、
估 コウ
何 ナニ、
侘 わび、
住 ズマ、
佛 ぶつ、
作 ツクリ、
伋 イツ
佞 ねい、
克 コク、
免 マン、
兵 へイ、
况 ケウ

冷 レイ
冶 ヤ
初 シユ
判 ハン、
刪 サン、
別 べつ、
利 リキ、
努 ツツ、
助 シユ、
切 ケツ、
卵 タン、
吞 トン、
君 クン

吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、
吝 リン、

吹 フク、
吻 フン、
困 コン、
坐 サ、
坂 サカ、
均 キン、
坊 バウ、
坎 カン、
坑 カウ、
壯 サウ、
夾 ケツ、
妊 ニン、
妓 キ、
妖 エウ

七

妙 テウ
妨 バウ
孝 カウ
孝 カウ
宋 ソウ
妥 タウ
完 カン
宏 カウ
尖 シ
彪 ヒウ
巡 シユン
尾 ビウ
尿 ニウ
局 クウ
庇 ヒ

(七畫)

岐 ギ ちまた
 巫 フ かななぎ、みこ
 希 キ まれ、こひねふ
 庇 ヒ ひさし、かはふ
 床 シヤウ シヤウ、ゆか
 序 シヨ シヨ、ついで、ついで
 延 の のは、のぶ、
 延 エン エン、はふ、
 弄 ラウ ラウ、いらふ
 弟 テイ テイ、ダイ
 形 ケイ なた、かたち、
 役 ヤク ヤク、えだつ、
 彷彿 フウ フウ、エキ
 快 クワイ クワイ、よし

扮 フン いてたち
 扭 テウ てかし、てかせ
 扶 フ あななふ
 扱 サツ あつ、あつかふ
 批 ヒ ひつ
 技 ギ ぎ
 拵 ベン ベン
 拵 ケツ ケツ、こじる
 抑 ヨク ヨク、そま
 抑 ヨク ヨク、そま
 抓 ツウ ツウ、つまむ
 投 トウ トウ、なぐ
 抗 カウ カウ、はむかふ
 折 セツ セツ、をれ、
 扼 ヤク ヤク

抄 セウ せう、すくふ
 汲 キフ キフ、すくふ
 決 ケツ ケツ、きむ
 沃 ヨク ヨク、きむ
 沈 チン チン、しん
 没 ボツ ボツ、もつ
 沐 モク モク、しん
 沖 チウ チウ、しん
 沙 シャ シャ、すな
 汽 キ キ
 沛 ハイ ハイ
 泛 ヘン ヘン、くみ
 狂 キヤウ キヤウ、くるみ
 狎 チン チン
 邦 ハク ハク

那 ナ ナ、なんぞ
 邪 ジャ ジャ、しんま
 阮 ゲン ゲン
 阱 セイ セイ、しあな
 防 フ フ、ふせぎ、ふせぎ
 阪 ハン ハン、同じ
 忌 キ キ、いむ
 忍 ニン ニン、しのび、
 志 シ シ、しるす、しるす
 忘 ワウ ワウ、わすれ
 成 セイ セイ、なる、なる
 我 ガ ガ、われ
 戒 カイ カイ、いましむ
 改 カイ カイ、あらたまる

八

攻 コウ コウ、たさむ
 旱 カン カン、ひでり
 更 カウ カウ、さら
 李 リ リ、もも
 東 トウ トウ、つかね、つかね
 杏 キヤウ キヤウ、もも
 柁 サツ サツ、またぶり
 杉 サン サン、サギ
 村 ソン ソン、すけり
 材 サイ サイ、ざい
 杓 シヤク シヤク、さく
 杖 シヤウ シヤウ、つえ
 棧 ケン ケン、ヨク
 杜 ト ト、トリ
 柚 ソウ ソウ、ソマ

(七畫)

步 フ フ、あゆみ
 每 マイ マイ、つね、つね
 求 ク ク、もとむ、もとむ
 承 カウ カウ、うけつ、うけつ
 灸 キウ キウ、いご
 災 サイ サイ、わざはひ
 灼 シヤク シヤク、いやく
 牢 ラウ ラウ、をり
 牡 ボウ ボウ、をり
 肖 セウ セウ、にる
 肘 チウ チウ、ひぢ
 肚 ト ト、はら
 肝 カン カン、かき
 芋 ウ ウ、いも
 芍 シヤク シヤク

芝 シ シ、しほ
 芒 マウ マウ、すき、のげ
 迪 テイ テイ、たさる
 迂 ウ ウ、まはり
 迄 キツ キツ、まで
 迅 シン シン、はじめ、はじめ
 甫 フ フ、はじめ、はじめ
 男 ナン ナン、をんこ
 町 チウ チウ、まち
 疔 チウ チウ、かぶる、はげ、
 秃 トク トク、かぶる、はげ、
 秀 シウ シウ、ひいづ
 私 シ シ、わたくし、わたくし
 究 キウ キウ、きまめ
 系 ケイ ケイ、すぢ
 糺 キウ キウ、ただし、ただし

頁 リヤウ リヤウ、や
 見 ケン ケン、みゆ、
 角 カク カク、かくれ、
 言 ゲン ゲン、ことば、ことば
 谷 コク コク、ヤ
 豆 トウ トウ、まめ、
 豕 シ シ、ぶた
 貝 バイ バイ、かい
 赤 セキ セキ、あか
 足 ソク ソク、あし、
 身 シン シン、みづから
 車 シャ シャ、くるま
 辛 シン シン、からし
 辰 シン シン

邑 イフ イフ
 酉 ウ ウ、イウ
 里 リ リ、さき
 乳 ニウ ニウ、ちち
 乖 クワイ クワイ、そむく
 事 ジ ジ、こと、つかふ、
 些 サ サ、わづか
 亞 ア ア、つぐ
 享 キヤウ キヤウ、うかう
 京 キヤウ キヤウ、みやこ
 來 ライ ライ、きたる、きたる
 佩 ハイ ハイ、たぶ
 伴 バン バン、りはる、りはる
 佳 カ カ、よし

(八畫)

借 キツ キツ
 僂 テウ テウ
 併 ヘイ ヘイ、あはす、しかし
 使 シ シ、つかひ、つかふ、
 侏 シュ シュ
 修 シウ シウ、たごり
 例 レイ レイ、たごり、たごり
 侍 シ シ、はべり、はべり
 侃 カン カン、なほし
 供 コウ コウ、ごも、ごも
 佩 カン カン、いよる
 依 イ イ、よる
 佼 カウ カウ、かほよし
 兒 ニ ニ、ちこ

九

(八畫)

店 テン	庖 ハウ	底 テイ	幸 カミ	帑 チツ	帙 サウ	帖 デウ	帔 ヒ	帛 ハク	岫 シウ	岫 シウ	岸 ガン	岬 カミ	岳 ガク	岩 ガン
テミ	ハウ	テイ	カミ	チツ	サウ	デウ	ヒ	ハク	シウ	シウ	ガン	カミ	ガク	ガン
ミセ	ウ	イ	キ	ツ	ウ	ウ	セ	キ	ウ	ウ	シ	サ	ケ	ン

怯 キヨ	怪 ク	性 シヤウ	怡 サイ	怖 フ	快 アウ	征 セイ	往 ワウ	彼 ヒ	弩 ダ	弧 コ	附 フ	弦 ゲン	府 フ	庚 カウ
キヨ	ク	シヤウ	サイ	フ	アウ	セイ	ワウ	ヒ	ダ	コ	フ	ゲン	フ	カウ
キヨ	ク	シヤウ	サイ	フ	アウ	セイ	ワウ	ヒ	ダ	コ	フ	ゲン	フ	カウ

拍 ハク	拉 ラ	拊 フ	拈 ニ	拂 フ	抽 チウ	抵 テイ	抱 ハク	拆 タク	披 ヒ	拂 フ	伶 レイ	惚 コウ	恍 キヤウ
ハク	ラ	フ	ニ	フ	チウ	テイ	ハク	タク	ヒ	フ	レイ	コウ	キヤウ
ハク	ラ	フ	ニ	フ	チウ	テイ	ハク	タク	ヒ	フ	レイ	コウ	キヤウ

泊 ハク	沸 フ	河 カ	沮 ソ	洙 マ	拒 キヨ	拔 バツ	押 ア	招 セウ	拐 カイ	拙 セツ	拘 コウ	拗 エウ	担 タ	拓 タク
ハク	フ	カ	ソ	マ	キヨ	バツ	ア	セウ	カイ	セツ	コウ	エウ	タ	タク
ハク	フ	カ	ソ	マ	キヨ	バツ	ア	セウ	カイ	セツ	コウ	エウ	タ	タク

狎 カフ	涉 ゲン	沿 エン	注 チウ	泥 ヂ	泣 キ	泡 ハ	波 ハ	法 ハ	滑 カン	況 キヤウ	沾 コ	治 チ	沼 ウ	油 ユ
カフ	ゲン	エン	チウ	ヂ	キ	ハ	ハ	ハ	カン	キヤウ	コ	チ	ウ	ユ
カフ	ゲン	エン	チウ	ヂ	キ	ハ	ハ	ハ	カン	キヤウ	コ	チ	ウ	ユ

一一

(八畫)

刺 シ	刺 セ	刷 サ	制 セイ	刳 コ	到 タウ	刮 ク	券 ケン	函 カン	凭 ヒヨウ	典 テン	具 グ	其 キ	兩 リ	兔 ト
シ	セ	サ	セイ	コ	タウ	ク	ケン	カン	ヒヨウ	テン	グ	キ	リ	ト
シ	セ	サ	セイ	コ	タウ	ク	ケン	カン	ヒヨウ	テン	グ	キ	リ	ト

味 ミ	呪 シ	周 シュ	受 ジュ	取 シユ	叔 シユク	卸 キヤク	卷 ケ	卦 ケ	卓 タク	卑 ヒ	協 ケフ	卒 ソツ	効 カウ	刻 キ
ミ	シ	シュ	ジュ	シユ	シユク	キヤク	ケ	ケ	タク	ヒ	ケフ	ソツ	カウ	キ
ミ	シ	シュ	ジュ	シユ	シユク	キヤク	ケ	ケ	タク	ヒ	ケフ	ソツ	カウ	キ

坤 コン	固 コ	囿 ケイ	咎 ゴ	嗽 ド	和 クワ	呵 カ	啞 キヨ	咄 ト	咀 ソ	命 メイ	呼 コ	呻 シン
コン	コ	ケイ	ゴ	ド	クワ	カ	キヨ	ト	ソ	メイ	コ	シン
コン	コ	ケイ	ゴ	ド	クワ	カ	キヨ	ト	ソ	メイ	コ	シン

姓 セイ	姑 コ	始 シ	姉 シ	妾 サ	妻 サイ	妹 メイ	姪 ト	奉 ホウ	奄 エン	奈 ナ	奇 キ	夜 ヤ	坦 タン
セイ	コ	シ	シ	サ	サイ	メイ	ト	ホウ	エン	ナ	キ	ヤ	タン
セイ	コ	シ	シ	サ	サイ	メイ	ト	ホウ	エン	ナ	キ	ヤ	タン

岡 カウ	屈 ク	屈 ク	居 キ	尙 シヤウ	宜 ギ	宛 エン	定 テイ	宙 チウ	官 クワン	宗 ソウ	孤 コ	季 キ	孟 マウ	委 ウ
カウ	ク	ク	キ	シヤウ	ギ	エン	テイ	チウ	クワン	ソウ	コ	キ	マウ	ウ
カウ	ク	ク	キ	シヤウ	ギ	エン	テイ	チウ	クワン	ソウ	コ	キ	マウ	ウ

一一

(八畫)

狐 コキツネ
 獒 ヒ
 狗 クイ
 狙 ねらひ、ねらふ、
 狛 ハク
 邯 カン
 邱 テイシキ
 陀 ダ
 阿 ア
 附 フツキ、つけ
 忝 テン
 忠 チユウ
 念 ネン
 忽 コツ
 忿 フイカ

或 ワク
 辰 レイ
 房 バウ
 所 ショウ
 承 シヤウ
 放 ハウ
 政 セイ
 斧 ツツキ
 於 オ
 旺 ワウ
 昆 コン
 昊 ハウ
 昇 シヤウ
 昌 シヤウ

昏 コン
 明 メイ
 易 ヤウ
 昔 シヤク
 朋 ホウ
 果 クワ
 東 トウ
 杵 ショ
 板 ハン
 柿 シキ
 杯 ハイ
 枇 ビ
 柄 トツ
 枉 マウ

梓 わく
 析 セキ
 科 ト
 枕 チン
 林 リン
 枚 バイ
 枝 シ
 抗 カウ
 枳 シヤウ
 松 シヤウ
 欣 キン
 武 プ
 毒 ドク
 殍 ボツ
 笔 マウ
 杳 エウ

沓 タク
 炊 カシ
 炎 エン
 炙 キウ
 炒 セウ
 争 サウ
 爬 ハカ
 版 ハン
 牧 マク
 物 モツ
 状 シヤウ
 玩 グワン
 肯 コウ
 肩 ケン
 股 コウ
 青 セウ

肢 シ
 着 カ
 肥 ヒ
 肥 ヒ
 肫 トク
 肫 トク
 肫 トク
 肺 ハイ
 芟 セン
 芥 カ
 芥 カ
 芬 フ
 花 ク
 芳 ハウ
 芭 バ
 芸 ウン
 芥 キン
 芽 ガ

苻 フ
 芙 フ
 迎 ガイ
 近 キン
 返 カ
 迎 ガイ
 的 テキ
 疝 セン
 疾 キウ
 肝 カン
 盲 バウ
 直 ナ
 知 チ
 社 シヤ

祁 キ
 乘 ヘイ
 空 ク
 糾 キウ
 穹 キウ
 岡 マウ
 臥 グ
 舍 シヤ
 虎 コ
 虱 シラミ
 衫 シヤン
 表 ハウ
 軋 アツ
 采 サイ
 金 キン

長 ナガ
 門 マン
 阜 フ
 佳 ケ
 雨 ウ
 青 セイ
 非 フ
 並 ナ
 乘 セン
 亭 テイ
 亮 リヤウ
 侮 プ
 侯 コウ
 洪 リ

便 ベン
 係 ケイ
 促 ツク
 俄 ガ
 俊 シユン
 俊 シユン
 俏 シヤウ
 俗 シヤク
 俚 リ
 保 ホ
 俛 フ
 信 シン
 僕 マ
 僮 ヨウ

(九畫)

倭 アイ
 倭 アイ
 冠 かんむり、かむり、
 胃 バウ
 廻 ソまいた
 到 ケイ
 刺 ラ、
 前 さき、
 勃 ぼつ、
 勇 いさむ、いさまし
 勉 チヨク
 勉 ベツ

勁 つよし
 匍 ほらほふ
 南 みなみ、みんなみ
 卸 すなはち、やがて
 厚 かつし、あつ
 叙 シヨブ
 叛 はん、
 吞 シはかる
 咫 シあた
 成 かな、
 哀 かなし、
 品 ホシ、
 哉 かな、
 啞 シはふ、くはへ
 咽 シセン、むせ

呱 コ
 咳 がき、
 哄 かい、
 咲 さく、
 呻 シ
 型 ケイ
 塚 コウ、ク
 垣 エン
 奎 ケイ
 奏 そう、
 契 ケイ
 奕 エキ
 奔 ほん、
 衰 シ、
 威 シ

姦 ケン
 姪 ケン
 姪 テツ
 姨 エイ
 姥 ラウ
 姦 ケン
 姪 ケン
 姪 テツ
 姨 エイ
 姥 ラウ
 姦 ケン
 姪 ケン
 姪 テツ
 姨 エイ
 姥 ラウ
 姦 ケン
 姪 ケン
 姪 テツ
 姨 エイ
 姥 ラウ

屋 ヤク
 屍 シカ
 屏 へい
 峙 シ
 巷 カウ
 帝 テイ
 帥 スイ
 幽 イウ
 尿 シ
 度 デ
 廻 ケン
 建 ケン
 泉 エン
 彈 シ

彦 ゲン
 待 タイ
 徇 シユン
 律 リツ、
 後 あご、
 恒 コツ、
 協 ケフ、
 恍 ケフ、
 恂 ケフ、
 恂 ケフ、
 恪 カク、
 悒 ムシ、
 悒 ムシ、
 怡 アダカ
 悒 ムシ

括 クク
 校 ケウ
 拷 ケウ
 拱 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ
 拊 コウ

洋 ヤウ
 溶 ソウ
 洒 シヤ
 洗 セン
 洛 ラク
 洞 トウ
 洩 エイ
 洩 エイ
 洩 エイ
 洩 エイ
 洩 エイ
 洩 エイ
 洩 エイ

耶 ヤ
 郊 コウ
 阿 ウア
 降 ケウ
 降 ケウ
 限 ケン
 怒 ドウ
 怖 ホウ
 性 シヤ
 思 シ
 念 エン
 急 ケイ
 怨 エン
 恭 ケン
 扁 ベン
 属 ケイ

拜 ヤ
 至 シ
 故 ケ
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク
 斫 シヤク

赤 ひやうしき タク
 柚 ヲフ
 柘 ツツミ
 柑 カン
 柏 ハク
 柅 カシ
 柄 ハウ
 枹 ハウ
 柳 カシ
 枳 キ
 枯 コカレ
 某 コカレ
 查 サカガ
 柔 ヤ
 染 セン

杵 ヲフ
 柱 キ
 柯 カ
 柩 キ
 証 マ
 柞 ヲフ
 段 ヲフ
 泉 セン

胛 カ
 胛 カ
 胎 タイ
 背 ハイ
 胃 タウ
 胃 タウ
 珍 チン

苞 ハウ
 胝 テイ
 胡 ナ
 胤 テイ
 苗 ベ
 苦 タ
 苗 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ

英 エ
 苜 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ
 苜 ベ

疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ
 疥 カイ

砌 セイ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ
 砥 ヒ

竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン
 竿 カン

駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク
 駟 シク

乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ
 乘 シヨウ

倉	修	倭	俱	倅	俯	俸	倍	倒	候	俯	倚	借	值
サウ	シユ、シユウ、ス	ハハ	グモ	ヘウ	フ	ホウ	バイ	タカ	コウ	俯	イ	シヤク	チ
くら	さむ、かさまる、ス	ハハ	グモ	たはら	うつぶく、うつぶき	ホウ	ますます	さかさ、たふる、	さふらふ、さむらふ	俯	イ	シヤク	チ

倦	倩	倫	倅	兼	凋	凌	凄	凍	涼	割	別	剛	劓
ケン	セン	リン	ワ	ケン	テウ	リ	セイ	トウ	リヤウ	バイ	テキ	ゴウ	ハク
うんず	せん、つらら	リン	ワ	ケン	テウ	リ	セイ	トウ	リヤウ	バイ	テキ	ゴウ	ハク

匪	冥	原	叟	唄	唐	員	哲	唇	哭	哢	唳	哽	嗒
ヒ	メイ	ゲン	ソウ	ウタ	タウ	カク	テツ	シン	コク	ラウ	セウ	カウ	カウ
ヒ	メイ	ゲン	ソウ	ウタ	タウ	カク	テツ	シン	コク	ラウ	セウ	カウ	カウ

唆	圃	垂	埋	城	埃	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒	埒
ソウ	ホ	チ	マイ	シヤウ	アイ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
ソウ	ホ	チ	マイ	シヤウ	アイ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ

娛	孫	娥	宮	宰	害	宴	宵	家	震	容	射	辱	屑	展	展
ゴ	ソ	ガ	キ	サイ	ガイ	エン	セウ	カ	シン	ヨウ	シヤウ	シヤウ	セフ	テ	テ
ゴ	ソ	ガ	キ	サイ	ガイ	エン	セウ	カ	シン	ヨウ	シヤウ	シヤウ	セフ	テ	テ

島	峯	峽	峽	差	師	席	座	庫	庭	弱	徐	徑	徒	恚
タシマ	ホウ	カフ	ガ	サ	シ	セキ	マ	コ	テイ	ヨ	シヤク	ケイ	タ	イ
タシマ	ホウ	カフ	ガ	サ	シ	セキ	マ	コ	テイ	ヨ	シヤク	ケイ	タ	イ

悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌	悌
テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ
テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ

挽	採	採	採	採	採	採	採	採	採	採	採	採	採	採
バン	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ
バン	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ	サイ

澌	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓	涓
テイ	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン
テイ	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン	ケン

除	恐	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚	恚
ヂョク	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ
ヂョク	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ	キヨウ

(十畫)

旅 リヨビ
晏 アン
晃 カガヤク
時 シ
晒 セイ
書 シヨ
朔 サク
栢 キヨウ
榮 ケツ
桑 サク
粟 リク
栗 リク
案 アン
框 カマ
校 カウ
株 シカ

桶 シ
核 カク
栲 カウ
栽 サイ
桔 ケツ
根 コン
格 キヤク
栢 カウ
桂 ケイ
桃 タウ
桐 トウ
榧 セン
梅 セン
桧 セン
栲 カウ

殺 サツ
殉 シユン
殊 シユ
殷 イン
氣 ゲ
泰 タイ
烈 レツ
烏 ウ
烙 ラク
烟 エン
特 トク
珠 シユ
珮 ハイ
脊 セキ
脗 ラク
胸 ドウ

胸 キヨウ
能 ノウ
餅 アイ
脊 ケフ
脂 シ
脇 ケフ
脆 キ
脈 ミヤク
班 ハン
茫 バウ
齒 サイ
齒 ウ
茗 メイ
菌 イン
茶 チヤ

葺 シヨウ
荊 ケイ
草 サウ
茹 ヨ
荏 シン
荒 アラシ
迷 マイ
道 ツ
迹 セキ
迥 ハル
退 タイ
送 ソウ
逃 タウ
逆 サカ

(十畫)

留 リウ
畔 ハン
畝 ホ
畜 チユク
島 タ
春 ホン
疲 ツカレ
疝 ソ
疾 シツ
疱 ハウ
疼 トウ
痲 カサ
病 ヤマヒ
疥 カン
症 シヤウ

盈 エイ
益 エキ
疴 ク
盥 ワン
眞 シン
眼 ミン
眩 ゲン
矩 ク
砥 テイ
破 ハ
疋 ヘン
砧 チン
砲 ハウ
崇 シヤウ

祐 イウ
秘 ヒ
祖 ヨ
祚 シ
祗 シ
祝 シユク
神 シン
祠 シ
秦 シン
租 ソ
秤 ヘイ
秩 チツ
秣 マツ
窳 ユウ
窄 サク

站 タン
良 ワナ
祖 タン
袖 シウ
袍 ハウ
被 カウ
袖 シウ
笄 イン
笄 イン
笄 イン
笄 イン
笄 イン
笄 イン
粉 フン

素 ス
索 サク
紋 モン
納 ナフ
組 チウ
純 シン
紕 シ
紙 シヤ
級 シ
紙 シ
紉 シ
紉 シ
紉 シ
紉 シ
翅 シ

傳 かしづき、あつた
 傍 かたはら、そば
 備 つふさ、そなへ、そなふ
 傲 かならふ
 凱 ガイ
 割 わり、われ
 創 はじむ
 勞 いたづき、いたは
 勝 かち、まさる
 博 ひろし
 厭 いとひ、いと
 喜 よろこぶ、よろこぶ
 善 よし

廚 厨に同じ
 裏 うしなふ
 喬 ケウ
 啼 なく
 喉 のど
 喝 カツ
 啣 シヨク
 喘 セン
 噓 たごへ、たごふ
 蝶 テウ
 喚 ケウ
 喇 ラ
 喧 けん
 單 たん
 喃 なん
 唱 キ

喫 ケキム
 噉 ギョウ
 囓 アク
 喰 シヨク
 園 かこみ、かこむ
 堡 ホ
 堤 ツツミ
 堪 カン
 堰 エン
 報 はやくい、むくゆ
 場 シヤウ
 堺 カイ
 壺 コ
 壹 イチ
 塀 べい
 奠 テン

奢 シヤ
 婿 セイ
 媒 バイ
 媚 ヘツ
 媛 エン
 富 フ
 寂 シヤク
 寒 カン
 尊 ソン
 尋 シン
 就 ジウ
 處 ヂウ
 居 キ
 嵌 カン
 嵐 ラン

鳴 グウ
 巽 ソツ
 幫 ホウ
 帽 バウ
 幄 アク
 幅 フク
 幾 キ
 廂 シヤウ
 廁 シ
 絨 シイ
 強 キヤウ
 弼 ヒツ
 復 フク
 磔 セウ
 循 シユン

惰 なま
 憊 なやむ
 揣 セン
 描 ベウ
 揉 モウ
 提 テイ
 挿 サウ
 揚 ヤウ
 揖 イツ
 握 アク
 換 クワン
 揭 ケイ
 搏 ハク
 搦 シハク
 捏 キハク
 援 エン

渚 シヨク
 漚 イン
 渡 ワタ
 減 ゲン
 測 ソク
 渟 テイ
 渦 クワ
 溫 ウン
 港 コウ
 渴 カク
 游 ユウ
 渾 コン
 湊 ソウ
 湖 コ
 渠 キョ

港 タン
 湧 ヨウ
 湫 シウ
 湍 タン
 湯 タウ
 渝 ユ
 猿 エン
 猥 ワイ
 猩 シヤウ
 猪 チヨ
 猫 メウ
 猯 ベウ
 猴 コウ
 猶 ユウ
 都 ト
 陽 ヤウ

隊 タイ
 隅 グ
 隆 リウ
 隈 クワイ
 隍 クワウ
 階 カイ
 闕 クワン
 悲 ヒ
 惑 ワク
 惠 ケイ
 惡 アク
 愉 ユ
 惣 ソウ
 掌 シヤウ

載 ゲキ
 扉 ヒ
 掣 セキ
 敢 カン
 散 サン
 敦 トン
 斑 ハン
 斐 ヒ
 斯 シ
 普 フ
 景 ケイ
 晴 セイ
 晶 シヤウ
 智 チ
 曾 ソウ
 替 タイ

最 もごも、いご、
 サイ、あした
 朝 あした
 テウ、あした
 期 しごき、
 キ、そり、
 キ、イ
 棄 キツ
 キ、イ
 棘 キヨク
 シン、ヨク
 森 シン
 シン、ヨク
 梧 ハウ
 ハウ、いた
 棒 ポウ
 ホウ、いた
 根 チヤウ
 チヤウ、いた
 棟 トウ
 トウ、いた
 棟 トウ
 トウ、いた
 棧 サン
 サン、いた
 櫛 フン
 フン、いた
 櫛 フン
 フン、いた
 櫛 フン
 フン、いた

椅 イ
 椅、イ
 椋 リヤウ
 リヤウ、イ
 棹 さ
 さ、イ
 椎 シウ
 シウ、イ
 種 シヨク
 シヨク、イ
 極 ア
 ア、イ
 椒 セウ
 セウ、イ
 棋 キ
 キ、イ
 欺 キ
 キ、イ
 欺 キ
 キ、イ
 歎 クワン
 クワン、イ
 歎 クワン
 クワン、イ
 歎 クワン
 クワン、イ
 歎 クワン
 クワン、イ

焦 セウ
 セウ、イ
 然 セン
 セン、イ
 焙 ハウ
 ハウ、イ
 煨 キン
 キン、イ
 焯 ス
 ス、イ
 焚 フン
 フン、イ
 焔 エン
 エン、イ
 牌 ハイ
 ハイ、イ
 琴 キン
 キン、イ
 犀 サイ
 サイ、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ

脾 ヒ
 ヒ、イ
 睫 コ
 コ、イ
 腎 シン
 シン、イ
 琵琶 ビ
 ビ、イ
 琢 タク
 タク、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ
 犛 ホン
 ホン、イ

躑 ス
 ス、イ
 脹 ハル
 ハル、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ
 腋 チヤウ
 チヤウ、イ

蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ
 蕪 シ
 シ、イ

番 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ
 送 ベン
 ベン、イ

短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ
 短 タン
 タン、イ

童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ
 童 ドウ
 ドウ、イ

答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ
 答 タウ
 タウ、イ

緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ
 緒 ヲク
 ヲク、イ

蠅 カ
 カ、イ
 蛤 カ
 カ、イ
 蛟 カ
 カ、イ
 蛛 チ
 チ、イ
 蛙 ア
 ア、イ
 虚 キ
 キ、イ
 虚 キ
 キ、イ
 虚 キ
 キ、イ
 虚 キ
 キ、イ

蛭	衆	街	裁	裂	視	規	訴	詆	評	詔	註	詞	詠	象	貴
シツル	シユウ、シユ、ス	ガイ、シユウ、シユ、ス	サイ、シユウ、シユ、ス	レツ、シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	ソツ、シユ、ス	テ、シユ、ス	ヒヤ、シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス

紹	貫	買	貸	費	賀	貯	貽	貶	貼	超	越	跋	距	跋	跋
シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス

軸	軛	軛	酢	量	飲	釦	鈞	鈕	開	閑	間	間	雁	集
シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス

雇	雄	雅	霧	雲	韌	順	馭	須	項	黃	風	黑	馮	亂
シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス

僉	備	催	傲	債	傷	傳	僂	僵	傾	剽	僅	動	募	勢
シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス	シユ、ス

嗅	勦	嘔	嗚	嗜	嘖	嗟	噓	嗣	圖	塞	塗	塊	墻
キウ、ク	ソク、ク	カレ、カ	カレ、カ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ	シ、シ

塘	塚	塔	壘	塙	塙	塙	塙	塙	塙	塙	塙	塙	塙
タウ、ク	チウ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク	タフ、ク

嫌	幌	孳	廉	幹	廊	徭	徭	愧	憐	慎	慄	損	慍	擗	播
ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク	ケ、ク

搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗	搗
ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク	ツ、ク

滋	滌	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑	滑
シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク	シ、ク

爺 ヤヂ
想 ともふ、たもひ
隙 ゲキ
愁 シウ
隘 アイ
意 イ
愈 エイ
愚 グ
感 カン
愛 アイ
敬 ケイ
新 シン
暑 ショ
暇 カ
暖 ナ

會 クワイ
暈 ウン
業 ゲフ
暗 アン
椿 エン
楚 ソ
楊 ヤウ
楓 カフ
楠 ナン
棟 トウ
楡 ユ
檜 ナラ
楸 ナラ
楫 シ
檣 ナラ

楮 チョ
椰 ヤ
極 キ
楷 カイ
歲 サイ
殿 デン
毀 コイ
煎 セン
煮 シヤ
照 セウ
煉 レン
煤 キ
煤 キ
暖 ナ

煨 ワイ
煙 エン
煥 クワン
煖 カ
瑕 ケイ
瑛 ケイ
瑞 ツ
瑜 ユ
脛 セイ
膂 チツ
腫 シユ
腰 エウ
腿 タイ
腴 ナ

腺 セン
腹 フク
萩 ハギ
萬 マン
落 ラク
萱 ケン
葉 エフ
葎 ナラ
著 チョ
葛 カツ
荷 ナラ
苴 ナラ
葦 ナラ
蕒 ナラ

葆 ハウ
葭 カ
葬 ナラ
董 トウ
逼 フク
送 ス
遁 トン
遊 ナラ
過 ナラ
過 ナラ
過 ナラ
過 ナラ
運 ナラ
過 ナラ
遍 ナラ
道 ナラ

達 タツ
遠 ナラ
猷 ナラ
瓶 ナラ
管 ナラ
當 ナラ
畫 ナラ
暖 ナラ
瘰 ナラ
癩 ナラ
痺 ナラ
疴 ナラ
痲 ナラ
痿 ナラ
痿 ナラ

盥 ナラ
盞 ナラ
督 ナラ
睢 ナラ
睫 ナラ
睦 ナラ
睨 ナラ
矮 ナラ
碎 ナラ
碁 ナラ
碇 ナラ
碑 ナラ
禁 ナラ
祿 ナラ
禽 ナラ

礪 ナラ
稟 ナラ
豎 ナラ
稗 ナラ
稜 ナラ
稠 ナラ
稚 ナラ
稔 ナラ
罪 ナラ
罪 ナラ
罫 ナラ
置 ナラ
稗 ナラ
祿 ナラ
祿 ナラ
活 ナラ

縶 ナラ
寬 ナラ
筵 ナラ
梁 ナラ
絹 ナラ
糧 ナラ
經 ナラ
紹 ナラ
緜 ナラ
縵 ナラ
縵 ナラ
縵 ナラ
縵 ナラ
縵 ナラ
縵 ナラ

(十三畫)

群 (むれ、むらがり)
 勇 (ゆう、ゆうこ)
 聖 (せい、せいじり、せいじる)
 肅 (しゅく、しゅくしむ)
 聘 (へい、へいご)
 解 (かい、はいしけ、はいせぬ)
 蜀 (しよく)
 蛟 (せい、もねけ、からがら)
 虞 (よ、たのしむ)
 蜂 (ちゅう、はち)
 號 (ごう、さけぶ、さげび)
 蜺 (び、けん)
 蝮 (びゅう、しや)
 蟻 (ぎ、ひをしむ)
 蟻 (ぎ、はまぐり)

蟬 (せみ)
 蟻 (ぎ)
 虻 (むし)
 蜂 (ちゅう)
 詭 (ぎ)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)
 解 (かい)

詩 (し)
 詭 (ぎ)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)
 詠 (えい)

跡 (せき)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)
 跨 (か)

酪 (らく)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)
 鉤 (こう)

三六

(十三畫)

靖 (せい)
 葦 (あし)
 雍 (ゆう)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)
 頤 (ぎ)

僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)

僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)

僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)

僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)
 僂 (りゅう)

(十四畫)

三七

層	履	嶙	幡	幟	幣	幢	廚	廟	廛	廢	弊	彈
ワカ カ ネ	リ ク ツ フ モ	リン の ハ リ	ハン の ハ リ	シ キ セ フ	ヘ イ ミ テ ダ ラ	ド ワ	チ ウ タ マ ヤ	タ マ ヤ	テ ミ セ	ハ シ ス タ レ	ヘ ツ ヒ ツ フ イ ウ	ダ ン
シヨウ	エカ ケ	チヨウ	の リ	ゴ ハ ル	ニ ク ミ ニ ク シ	ア ハ レ ホ ウ シ モ	ハ タ リ ハ タ リ	セ ウ	ア ハ レ ホ ウ シ モ	ア ハ レ ホ ウ シ モ	マ ス ル	タ ワ シ
燃	撞	撤	撥	撫	播	撮	擗	擗	擗	擗	擗	擗
ネ ン	ド ウ	テ ツ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ	ハ ネ カ シ
チヨウ	カ タ ニ	シ カ タ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ	ハ タ ラ フ
感	慰	慶	慶	慶	慶	慶	慶	慶	慶	慶	慶	慶
カ ン	イ タ シ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ	ケ イ
ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク	ナ ガ ク

概	槽	樂	攀	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞	樞
カ イ	サ ン	ラ ク	ハ ン	シ ヤ ウ	キ ツ キ	チ ヨ	ロ カ タ	ロ カ タ	ロ カ タ	ロ カ タ	ロ カ タ	ロ カ タ
シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ	シ ヤ ウ
シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ	シヨウ
熱	燥	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪	蕪
ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ
ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ
熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱	熱
ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ
ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ	ア ツ
暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹	暹
チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ
チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ	チ モ シ

鴉 ア からす	鯨 ア かます	藪 フ すま	藪 は つた	鳩 チ ン	磨 キ ま	黎 ア カ	齒 シ ハ	【十六畫】			
儒 シ ユ	僂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン	儂 シ ン

釧 ケ ン	劑 ザ イ	勳 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン	劔 ク ン
壇 ダ ン	壙 ヨ ウ	壁 ヘ キ	壘 コ ン	噴 フ ン	屏 ヘ イ	噤 ク ワイ	頓 ト ン	噉 ケ ン	噉 ケ ン	噉 ケ ン	噉 ケ ン

奮 フ ン	壘 キ ヤウ	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク	學 ガ ク
擒 キ ン	檢 ケン	擅 ダン	憾 カン	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ	懷 アウ

擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク	擇 タク
獨 ドク	獵 ノウ	濃 ノウ	澹 タン	濁 ダク	激 ゲキ	激 ゲキ	激 ゲキ	激 ゲキ	激 ゲキ	激 ゲキ	激 ゲキ

獺 ケン	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ	隨 ズ
噉 ト	歷 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ	曆 レキ

噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ	噉 ア イ
機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ	機 キ

檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ	檀 シ ユ
燔 ハン	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ	燦 レウ

燈 トウ	爛 カン	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ	膩 シ
藝 ウン	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ	蕉 セウ

駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス	駮 ス
磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ	磬 ケイ

釋 チ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ	磨 マ
福 キヨウ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ	罹 リ

(十七畫)

靛 エンガヘ
帳 テン
醜 シウ、みにくし
醜 カイ
鍊 ネル、わり
鍋 ナベ
鑄 クワ
鍛 タン
鍍 タン
鍍 タン
鍍 タン
鍍 タン
鍍 タン
鍍 タン
鍍 タン

閘 井
閘 井
霜 サウ
蘭 ラン
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ
霞 カサミ、カサミ

餒 スイ
駢 カン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン
駢 シユン

點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン
點 テン

斷 タツ
濾 リョ
爆 タキ
瀉 ヒガタ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ

(十八畫)

斷 タツ
濾 リョ
爆 タキ
瀉 ヒガタ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ
瀉 セキ

(十八畫)

燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン
燭 クン

襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク
襪 バク

繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ
繡 シウ

繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ
繞 キウ

謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン
謹 キン

(十八畫)

鑣 ロク
贊 ゼイ
醫 いくすし
醬 シシヨウ あへしほ
鱘 チ
蓋 リ
鏢 ケカマ
鎔 ヨク
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ
鎗 シヤウ、サ

(十九畫)

罟 ヨ
罟 ハナ
罟 ベン
罟 オナ
罟 チウ
罟 チ
罟 ネ
罟 ヨ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ

駟 キ
鯉 リ
鯉 コ
鯉 ヒ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ

五四

鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ

鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ

(十九畫)

獵 ラウ
瓊 ケイ
藝 ケイ
藥 ケイ
藤 レイ
藜 レイ
蘭 リン
藕 グ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ
藜 アカ

罟 ヨ
罟 ハナ
罟 ベン
罟 オナ
罟 チウ
罟 チ
罟 ネ
罟 ヨ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ
罟 ナ

駟 キ
鯉 リ
鯉 コ
鯉 ヒ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ
鯉 ナ

鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ

鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ
鯿 ナ

五五

(廿四畫)

鱗 いんぼ、うろこ
鱗 うろこ
鱗 鱗に同じ

鷺 しわし

鷹 ヨウカ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

鷗 イソ

(廿五畫)

鰩 はち
鰩 うなぎ
鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

六〇 (廿六畫)

鰩 なます、ふぐ
鰩 なます
鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

鰩 なます

畫引索引終

(廿七畫)

驥 キ
驥 キ
驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

(廿八畫)

驥 キ
驥 キ
驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

(廿九畫)

驥 キ
驥 キ
驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

(三十畫)

驥 キ
驥 キ
驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

驥 キ

國漢新辭典

文學博士 井上頼因 著

あ

あひ 五十音圖中阿行第一の音。喉音の一。口を上下に開くとき舌を下唇につけ、氣息を裏に漏れしめて發す。

あがる。めづ。二大切に思ふ。三樂しく思ふ。たもしく威
あひ かはらけの小さきもの。
あひ 唯。敵の名。あひの御敵。
あひ 唯。呼ばれたるにたふる聲。はい。
あひ 唯。かなしみて。
あひ 唯。氣の和きたる狀にいふ。
あひ 唯。情をかけてたつること。
あひ 唯。かなしきなり。
あひ 唯。かはらがること。
あひ 唯。好んでつたこと。
あひ 唯。かはらしく見ゆること。人づきの
あひ 唯。愛敬。
あひ 唯。一射の老いたるもの。二こもさあ
あひ 唯。を愛うけにしたるもの。三こもさあ
あひ 唯。その郷里を、大切にたもふこと。
あひ 唯。あいきやうにたなじ。
あひ 唯。みかのもちひにたなじ。
あひ 唯。俗に、あいくるしい。甚だかは
あひ 唯。花もあいらしい。
あひ 唯。はなを愛すること。
あひ 唯。あいにたなじ。
あひ 唯。めでたもあそぶこと。大切にても
あひ 唯。賞美。
あひ 唯。大切に、うやまひたふこと。

あひ 唯。あいらしい。花もあいらしい。はなを愛すること。あいにたなじ。めでたもあそぶこと。大切にてもあひ 唯。賞美。大切に、うやまひたふこと。

あ

あ

あ

あひま 愛護。愛して守護すること。
あひま 愛國。おののくにをたのむに思ふこと。
あひま 哀哭。かなしみなげくこと。「あひま」。
あひま 愛想。人づきのよきこと。もてなしの善いこと。
あひま 愛想盡。すげなく人をもてなすこと。
あひま 挨拶。一あしらひのこと。返答。二よろこび。返答。答禮。
あひま 挨拶人。あつかひてあしらひする人。
あひま 愛子。かはゆく思ふ子。「あひま」。
あひま 愛兒。あいにたれなご。「執着すること」。
あひま 愛執。佛敎の語。父子、又は、夫婦等の愛情に。
あひま 哀傷。かなしみなげくこと。
あひま 愛情。かはゆくおもふこと。
あひま 哀惜。死に惜みかなしむこと。
あひま 哀愴。あはれみたること。
あひま 愛洲。うらみくこと。
あひま 愛洲。英語Ice-cream, 牛乳、糖類をまじて凍らせたもの。氷菓。
あひま 哀請。情を訴へてあはれみをたのむこと。
あひま 愛惜。めてをせむこと。
あひま 愛愛。かはゆく思ふかけ。たもひもの。
あひま 愛然。一なまよき様にいふ。二木の茂りて

さかんなるさまにいふ。
あひま 愛染明王。「梵語」佛敎の語。明王の一。三月、六月にして頂に獅子面あるもの。
あひま 愛染王。佛敎の語。あひまの略。
あひま 愛想。あひまの略。
あひま 哀訴。精實をあかして願ひらるること。
あひま 愛情。愛する心、情じこと。
あひま 愛孫。かはゆくおもふまゝに愛すること。
あひま 愛戀。愛、慕なさのたなびく様。
あひま 哀悼。死をいたみかなしむこと。
あひま 無間隔。あひだなしのこと。
あひま 無間隔。あひだなしのこと。
あひま 朝所。あしたの日の音便。
あひま 朝所。あしたの日の音便。
あひま 愛着。佛敎の語。愛情にひかせること。
あひま 彼奴。あひまの音便。
あひま 哀痛。なげきたまふこと。
あひま 愛敬あり。かはゆけなり。



(うわやみんぜいあ)

のねには せてつらた せせしき こけくか わるういあ

あひま 山榴。木の名。幹葉花ともにつつじに似て、然もそれの如く長大ならず。四五月の頃淡紅の花を開く。
あひま 無間。あひまの音便。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無間頼。頼みかひなきたのみ。そらだのみ。
あひま 鯨身魚。魚の名。あひまの略。
あひま 生憎。あひまの略。
あひま 愛馬。愛して飼養する馬。
あひま 愛馬。愛して飼養する馬。
あひま 哀別。かなしみわかれ。(死に別れなご)。
あひま 愛別離苦。佛敎の語。したしみ愛する人の生きわかれ死にわかれなす苦み。
あひま 哀慕。したしみ音便。
あひま 哀慕。あひまの音便。
あひま 曖昧。うしろやまのこと。たしかならぬこと。
あひま 曖昧屋。煙草煙をかかへたく家。
あひま 哀怨。あはれみかなしむこと。
あひま 愛慕。あはれみかなしむこと。

あひま 愛慈。愛情の甚だ深き事。
あひま 哀樂。かなしみたのみのこと。「あひま」。
あひま 愛。俗に、あひまのこと。かはゆけ。可憐な事。
あひま 哀戀。あひまの音便。かはゆけ。
あひま 愛憐。あひまの音便。かはゆけ。
あひま 文理。あひまの音便。
あひま 彼此。かなたにた。かひの音便。
あひま 決決。水の流れの音便。
あひま 快快。こころがらすこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。
あひま 快快。なやみ苦しむこと。あひまの音便。

あひま 山榴。木の名。幹葉花ともにつつじに似て、然もそれの如く長大ならず。四五月の頃淡紅の花を開く。
あひま 無間。あひまの音便。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無間頼。頼みかひなきたのみ。そらだのみ。
あひま 鯨身魚。魚の名。あひまの略。
あひま 生憎。あひまの略。
あひま 愛馬。愛して飼養する馬。
あひま 哀別。かなしみわかれ。(死に別れなご)。
あひま 愛別離苦。佛敎の語。したしみ愛する人の生きわかれ死にわかれなす苦み。
あひま 哀慕。したしみ音便。
あひま 哀慕。あひまの音便。
あひま 曖昧。うしろやまのこと。たしかならぬこと。
あひま 曖昧屋。煙草煙をかかへたく家。
あひま 哀怨。あはれみかなしむこと。
あひま 愛慕。あはれみかなしむこと。

あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。
あひま 無愛。あひまなし。かはゆけなし。面白みなし。

をるわ られるりら よゆや もめんむみま ぼへふひは

あひい 図 奧秘。 たぐそこのひら。あうき。

あひい 図 鷓鴣。鳥の名。熱帯地方に産す。羽白く、嘴赤く、頭に毛冠あり。よく、人のこけを穿ち。

あひい 図 鷓鴣。貝の名。殻の形、あひいに似、色は、白くして、紫がかりたる模様あり。蓋、花柄なるにつくる。

あひい 図 鷓鴣返。一人よりいひかけられたる歌を、少し、語をかへて返答する。二人よりいひかけられたる語を、僅かに改め、又は、そのまゝ用ひて返答すること。三酒席にて、人よりさされたる蓋を、少し飲みて、返すこと。但し七度を限りし、そのうへは、せむこととなりし。



ひがむうあ

あひい 図 鷓鴣石。一帯に應じて、同じ響を發する性質ある。一種の石。二孔、石の一種。蓋の響に響に用ひる。

あひい 図 鷓鴣精。殺者の、こわいるを習はれたために、狂言のせりふを置き扱きたるもの。今の、筋書やうたのもの。

あひい 図 鷓鴣杯。あひいがひにて造られたる蓋。氣息のていり。呼吸。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 鷓鴣。佛敎の語。あは悲哀の聲。うんは憤怒の聲。

あひい 図 淡落。ふたふたの下部。

あひい 図 赤。血の色。くねなるいろ。二あかあづきの聲。女の聲。三あかこの聲。四鐵物。あかあづきの聲。

あひい 図 垢。汗、脂などの、塵埃によこれて、肌につきたるもの。二水中より生ずる苔、深なるの如きもの。「水あか」

あひい 図 關伽。佛に供ふる水。二佛に供ふる水を盛る器。三懸底にたまる水をいふ。ふなゆ。冷。船人の語。

あひい 図 酒。さけをいふ。見供の語。

あひい 図 明。あきらかに。最もあかるく。赤赤。

あひい 図 赤草毛。馬の毛色。あしげの、赤みを帯びたるもの。

あひい 図 赤小豆。あづきの一種。色の赤きもの。

あひい 図 赤粟。植物。あかみを帯びたる粟。

あひい 図 赤蟻。虫の名。蟻の一種。色赤きもの。

あひい 図 赤犬。魚の名。あかだしたにたなじ。

あひい 図 赤飯。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤甘。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あひい 図 赤。あづきめしにたなじ。「甘きもの」

あかぼの 赤腹。鳥の名。形、うぐみに似て、胸、腹は赤くして、背は青黒色なり。二鳥の名。いづくにたなじ。
あかはら 赤痢。リビヤにたなじ。
あかひ 赤贖。あかひにたなじ。
あかひ 赤蓑。一虫の名。あかひに入るにたなじ。
あかひ 赤引絲。脚衣を編るに用ゐる。青く光ある糸。
あかひ 赤鬚。一あかさひげ。二西洋人を嘲りていふ。三鳥の名。形、こまやりの如く、頭は青く、背は赤く、胸は腹は白く、腹は黒く、てうせん。
あかひ 赤翡翠。鳥の名。みづのひかりにたなじ。
あかひ 赤紫茸。茸の名。ひゆの一類。葉、葉共に、紫の色に似たり。
あかひ 赤明櫃。すて、茶櫃に用ゐるさよさひつ。
あかひ 赤紐。をみじろもに着くる、かぎりの糸。
あかひ 赤茸。茸の名。ひゆの一類。葉、葉共に、赤色なるもの。染料にす。
あかひ 赤斑。あか色のまだら。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。
あかひ 赤。あかひにたなじ。

あかひ 赤目。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。
あかひ 赤子。あかひにたなじ。

あかひ 赤子。あかひにたなじ。あかひ 赤子。あかひにたなじ。あかひ 赤子。あかひにたなじ。あかひ 赤子。あかひにたなじ。

あかみ 赤味噌。しるまめにて造る、赤味の味噌。
あかみ 赤御水。あかみのつにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。
あかみ 赤帯。あかひにたなじ。

あかみ 赤裳。赤色の裳。
あかみ 赤疱瘡。あかひにたなじ。
あかみ 赤物。被を行々時、罪のあかひにして出すもの。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。
あかみ 赤贖物。なでものつかりにたなじ。

あかみ 赤子。あかひにたなじ。あかみ 赤子。あかひにたなじ。あかみ 赤子。あかひにたなじ。あかみ 赤子。あかひにたなじ。

あからめ

あからめ 側見。わきみ。よそみ。あからめす 側見。急にかはる。あからめをぬ 紅顔嬢子。顔の赤みを帯びて、美しきをこめ。あからをぬ 赤船。赤くぬりたる舟。あけのそはふね。あかり 明光。光線のために、物の、明白に見ゆること。ひかり。光輝。二特に、こもしびに木なじ。三強をはらすための證據。説明。

あかり 上。一上の方に進むこと。二物事の、最終の點に達すること。三死ぬること。(魚、虫などの)四物を費りて得たる金貨。あかり 昇馬。はつうまにたなじ。あかり 昇降。あがる、たがる。のぼりたり。あかり 昇柿。果したる柿の實。あかり 昇 病みて死にたる聲。あがり。あがりかぎ 上胃。血類に盛あるかぎ。あがり 昇口。堂、又は、階段などにあがる入口。あがり 昇 燈籠。あがりかぎにたなじ。あがりかぎ 上坂。のぼりかぎにたなじ。あがりかぎ 上下。あがりたりにたなじ。二たかき、ひくき。高低。あかりき 明先。光線の入りくる方。

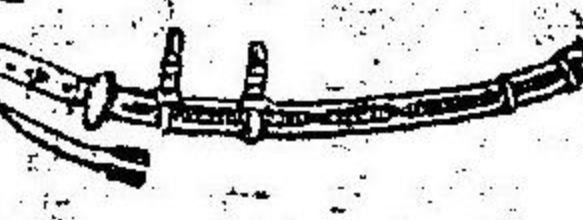


(あがりかぎ)

あかり

あかり 燈籠。罪人を入れたる籠。あかり 燈 明障子。光線をこらたりの障子。障子を、一重に張りたるもの。あかり 燈 上膳。食事を終りたるあこの膳。あかり 燈 儀刀。きしきを用ゐる太刀。あかり 燈 昇壇。高き處へあがるためにつくしたる壇。あかり 燈 上代。たほざかし。上古。あかり 燈 のびせ 上代人。あがりたる世の人。あかり 燈 のびせ 上代。あがりたるよにたなじ。あかり 燈 明取。部屋を明るくするために、日光をひきこめる所。あかり 燈 昇場。市中の空しきこと。市者のいかのほり。あかり 燈 昇場。一舟より、陸上に昇るべき場所。上陸。あかり 燈 一家の入口の調。二あらたに起したる事をいふ。東京の調。あかり 燈 明窓。あがりかぎのために設けたる窓。あかり 燈 供物。一参詣人が、神佛の前に奉るものを、神社寺院などにいふ。二飲食物の敬稱。あかり 燈 收獲。田畑などより收め獲たるもの。あかり 燈 不用にたりたるもの。ふるくなりたるもの。あかり 燈 櫓倉。罪人をはさる生屋。あがりかぎ。あかり 燈 揚屋敷。官に没收せられたる屋敷。

あかり 燈 儀刀。あかり 燈 昇壇。あかり 燈 上代。あかり 燈 のびせ 上代人。あかり 燈 のびせ 上代。あかり 燈 明取。あかり 燈 昇場。あかり 燈 一家の入口の調。あかり 燈 明窓。あかり 燈 供物。あかり 燈 收獲。あかり 燈 櫓倉。あかり 燈 揚屋敷。



(あかりかぎ)

あからめ 側見。わきみ。よそみ。あからめす 側見。急にかはる。あからめをぬ 紅顔嬢子。顔の赤みを帯びて、美しきをこめ。あからをぬ 赤船。赤くぬりたる舟。あけのそはふね。あかり 明光。光線のために、物の、明白に見ゆること。ひかり。光輝。二特に、こもしびに木なじ。三強をはらすための證據。説明。

あかり 燈籠。罪人を入れたる籠。あかり 燈 明障子。光線をこらたりの障子。障子を、一重に張りたるもの。あかり 燈 上膳。食事を終りたるあこの膳。あかり 燈 儀刀。きしきを用ゐる太刀。あかり 燈 昇壇。高き處へあがるためにつくしたる壇。あかり 燈 上代。たほざかし。上古。あかり 燈 のびせ 上代人。あがりたる世の人。あかり 燈 のびせ 上代。あがりたるよにたなじ。あかり 燈 明取。部屋を明るくするために、日光をひきこめる所。あかり 燈 昇場。市中の空しきこと。市者のいかのほり。あかり 燈 昇場。一舟より、陸上に昇るべき場所。上陸。あかり 燈 一家の入口の調。二あらたに起したる事をいふ。東京の調。あかり 燈 明窓。あがりかぎのために設けたる窓。あかり 燈 供物。一参詣人が、神佛の前に奉るものを、神社寺院などにいふ。二飲食物の敬稱。あかり 燈 收獲。田畑などより收め獲たるもの。あかり 燈 不用にたりたるもの。ふるくなりたるもの。あかり 燈 櫓倉。罪人をはさる生屋。あがりかぎ。あかり 燈 揚屋敷。官に没收せられたる屋敷。

あか

あか 關明。あかるくなる。赤くなる。あからむ。あか 山ぎは、すこしあかりて。あかる 關別。わかる別になじ。あかる 關上。一上の方に進む。高くなる。二まゐるにたなじ。三事終はる。成就す。止む。四神佛の前に、物がそなはる。五死ぬ。生活やむ。六黙す。七飲食し給ふ。八馬はねまはる。馬こびあがる。驛。あかる 關麻柱。あななびにたなじ。あかる 關明。俗にあかる。一あきらかなり。光さしてあり。二その道の事にはし。あかる 關明所。あかるきところ。あかる 關 果物、熟して、赤くなる。あかる 關 別別。各自に。わかれわかれに。あかる 關 赤猪。赤色のあらし。古事記「この山にあかみなるなり。あか 關 佛に供ふる水を汲みたる井戸。あか 關 赤繪。赤き繪の具を用ゐる繪。あか 關 赤烏帽子。物すきな人の稱。あか 關 赤蹄豆。あかき豆。あか 關 赤卒。虫の名。あかこは。あか 關 赤魚。形、鱗に似て、頭太く、目大きく、口廣くして、鱗細かなり。色、淡赤色にして、斑點あり。あか 關 阿加乎。動物。くらげの一種。状、茸の開きたるが如くにして、色、薄赤く、細長き数條の尾あり。

あか

あか 關 佛に供ふる水を汲みたる井戸。あか 關 赤繪。赤き繪の具を用ゐる繪。あか 關 赤烏帽子。物すきな人の稱。あか 關 赤蹄豆。あかき豆。あか 關 赤卒。虫の名。あかこは。あか 關 赤魚。形、鱗に似て、頭太く、目大きく、口廣くして、鱗細かなり。色、淡赤色にして、斑點あり。あか 關 阿加乎。動物。くらげの一種。状、茸の開きたるが如くにして、色、薄赤く、細長き数條の尾あり。あか 關 關明。あかるくなる。赤くなる。あからむ。あか 山ぎは、すこしあかりて。あかる 關別。わかる別になじ。あかる 關上。一上の方に進む。高くなる。二まゐるにたなじ。三事終はる。成就す。止む。四神佛の前に、物がそなはる。五死ぬ。生活やむ。六黙す。七飲食し給ふ。八馬はねまはる。馬こびあがる。驛。あかる 關麻柱。あななびにたなじ。あかる 關明。俗にあかる。一あきらかなり。光さしてあり。二その道の事にはし。あかる 關明所。あかるきところ。あかる 關 果物、熟して、赤くなる。あかる 關 別別。各自に。わかれわかれに。あかる 關 赤猪。赤色のあらし。古事記「この山にあかみなるなり。あか 關 佛に供ふる水を汲みたる井戸。あか 關 赤繪。赤き繪の具を用ゐる繪。あか 關 赤烏帽子。物すきな人の稱。あか 關 赤蹄豆。あかき豆。あか 關 赤卒。虫の名。あかこは。あか 關 赤魚。形、鱗に似て、頭太く、目大きく、口廣くして、鱗細かなり。色、淡赤色にして、斑點あり。あか 關 阿加乎。動物。くらげの一種。状、茸の開きたるが如くにして、色、薄赤く、細長き数條の尾あり。

あきかぜ

あきかぜをふかす 合吹秋風。もく雁ましかりし人の、我れをいこひ嫌ふ。
あきかたの 秋方。あきなる時。いすになりたる意味。
あきかたの 秋方。あきなる時。いすになりたる意味。

あき

あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。
あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。
あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。

あき

あきかたの 秋方。あきなる時。いすになりたる意味。
あきかたの 秋方。あきなる時。いすになりたる意味。
あきかたの 秋方。あきなる時。いすになりたる意味。

あき

あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。
あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。
あきたる 飽足。十分に足る。飽くほごまつ。

あきのつり 図 秋調。律の調子。秋の時候にかなへるもの。

あきのたり 図 秋垂穂。あきのたるほにたなじ。◎

あきのたる 図 秋垂穂。秋、稲のみのりて、垂るるもの。◎

あきのちも 図 秋除目。京官の除目。秋行はれしもの。◎

あきのつかめ 図 秋司召。あきのつかめにたなじ。◎

あきのきり 図 秋隣。秋に接近せる季候。即ち、夏、または、冬の稱。

あきのきり 図 秋止。秋のをはり。

あきのなな 図 秋七草。秋の頃に花咲く七つの草。即ち、秋、尾花、葉、女郎花、ふぢかま、なごころ、あさかな、はなの御。

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎

あきのなな 図 秋七。◎



(草七のきあ)

あきはら 図 明方。方位にいふ謂。あきを見よ。

あきはら 図 秋萩。草の名。はぎにたなじ。◎

あきはら 図 飽果。俗に、あきははてる。うみやうかたて様か。にたなじ。

あきはら 図 秋稗。草の名。ひねの一種。秋の末に熟す。

あきはら 図 商人。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人馬。商人の、商品などを運搬するに

あきはら 図 秋姫。田畑のなり物を守りたまふ神。

あきはら 図 秋二毛。秋、鷹の毛色の、古毛に、さしつけし

あきはら 図 明部屋。人の住みて居なへや。あきま。

あきはら 図 秋穂。秋のいなは。

あきはら 図 秋豆。植物。夏の田の稲の異名。◎

あきはら 図 秋待草。植物。夏の田の稲の異名。◎

あきはら 図 秋満。飽くほき満つ。充分にみつ。

あきはら 図 商人。あきこの音便。

あきはら 図 商人宿。商人の住み居る家。

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あき

あき

あき

あきのつり 図 秋調。秋らしく見ゆ。秋らしくなる。

あきのたり 図 秋垂穂。一外見には、通常の人の眼の如くにして、脱力のなき眼。そこひ。◎ 二少しも、文字を知らぬ者。

あきのたる 図 秋垂穂。あきなひものにたなじ。

あきのちも 図 秋除目。一物を入れてあらね。◎ 二不用の物。

あきのつかめ 図 秋司召。秋熟するもの。

あきのきり 図 秋隣。秋の山。

あきのきり 図 秋止。あきてある家。人の住みて居る家。

あきのなな 図 秋七草。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきのなな 図 秋七。あきらかなり。鮮かにてあり。

あきはら 図 明方。あけはらにたなじ。

あきはら 図 秋萩。あきはらにたなじ。

あきはら 図 飽果。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋稗。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人馬。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋姫。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋二毛。あきはらにたなじ。

あきはら 図 明部屋。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋穂。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋豆。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋待草。あきはらにたなじ。

あきはら 図 秋満。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきはらにたなじ。

あきはら 図 商人宿。あきうらにたなじ。◎

あひはら 揚燈籠。軒その他、竿の上などに釣りあぐる燈籠。

あひはら 揚鍋。あぶらけを製するに用ゐる鍋。「揚」とは「あぶ」の意。

あひはら 明荷。竹つづらの一類。旅行するときに用ゐる。

あひはら 明残。夜、いまだあけはてず。

あひはら 朱玉垣。神社等にある、朱ねりの垣。

あひはら 曉明星。あけ方、東の空に見ゆるあけはらし。金星。

あひはら 明擧告。いひあぐること。申しあぐること。

あひはら 揚羽。虫の名。あけはらしてふにたなじ。

あひはら 揚揚。船中の貨物を陸にあぐること。

あひはら 揚揚銭。あけはらして拂ふ手数料。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 開放。あけはらすこと。二しまりなき人を解らしていふ。

あひはら 揚煙。揚液の蒸る煙の類。

あひはら 蔞子。あけみ(閉身)の類。草の名。山野に生ずる蔓草。夏の初め、白、または淡紫色なる、三瓣の花を開きて、黄をむすぶ。葉は、瓜に似て、細長く、皮あつし。肉は食ふべし。通草。

あひはら 蔞子蔓。草の名。あけはらしたなじ。

あひはら 揚底。つぎあけはらして

あひはら 明雲雀。夜の明方に鳴くひばり。

あひはら 揚上聲。高くあけたるひんづら。

あひはら 揚開。俗に、あけひるげら。わしあけて、開くす。

あひはら 揚蓋。板の間の床を、蓋の如くに造り、その下に物を貯るやうに作りたるもの。あけいた。

あひはら 曙。明けの暈。夜の明け、ほのかにかかると時。

あひはら 曙草。草の名。櫻の異名。

あひはら 曙草。草の名。葉は、木ははらに似て三つの紋あり。秋、白くして、黄、または、黄の五瓣の花を開く。

あひはら 曙縞。あけはらしたなじ。縞を染め出したるもの。

あひはら 曙染。種々の色にて、曙の空の色に如く、縞縞くまじりて、縞かみに染めたる染色。



(りはけあ)



(ひけあ)

あひはら 揚燈籠 軒その他、竿の上などに釣りあぐる燈籠。

あひはら 總角。ふりわけがみを巻きあげて、左右に結びたる古の児供の髪結び方。

あひはら 上窓。つきあけ戸の造りにせざるまき。つきだみより美しくなること。

あひはら 揚饅頭。油にてあげたるまんぢ子。

あひはら 明六。曉の六つ時。今の午前六時にあたる。

あひはら 揚餅。油にてあげたる餅。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。

あひはら 揚物。登用。人をとりたててもちぬる。



(きまげあ)

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車。よりて遊藝の中、頭たるもの。京都島原の舞。

あひはら 揚屋花車 京都島原の舞

あさぎせんべい 朝顔煎餅。あさぎの花を、側面より見たるが如く、下の方を狭く、上の方を廣げたる形のせんべい。

あさぎぼろ 朝顔染。紺または紫なまにて、大形に染めたる染模様。元祿の頃流行せり。「あさぎ」の字より。

あさぎほり 朝顔形。凡てあさぎの花の形をしたあさぎほり朝顔焼。七夕の七種の一。

あさぎほり 朝顔焼。便所にすまつけて、男子の小便をする陶器。形、朝顔の花をたてに折半したるが如し。

あさぎみ 朝髪。朝、起き出でたる時のねみだれ髪。

あさぎみ 朝麻上下。麻布にて仕立てたるあさぎみ。徳川時代に、儀仗の時に着たるもの。

あさぎ 朝木の名。葉、圓くして、未熟り、春夏の頃、藤の花に似たる。皮を食す。實は、食用せず。

あさぎ 朝麻幹。麻の莖の皮を食すたるもの。をささぎ。

あさぎ 朝朝狩。朝早く狩するもの。

あさぎ 朝朝餉。朝の食事。あさぎし。二つあさぎの朝の朝餉。

あさぎ 朝朝餉。天皇のあさぎを、きしめたるもの。清凉殿の内にあり。「にて染めたる染色。

あさぎ 朝朝黄。黄色の、極めてうすきもの。かりやす草。

あさぎ 朝朝紫。薄きあめいろ。水いろのこき染色。二色、あさぎ、薄き紺色なるあさぎの色目。

あさぎ 朝朝悪木。「あさぎ(悪木)の種」のあさぎ材木。

あさぎ 朝朝浅氣。うすくみて、ひかへつにするもの。あさぎ。東京の語。

あさぎ 朝朝菊。草の名。高さ、五尺ばかりにして、葉は、細く、葉の如し。夏、葉の間に、赤紫色の花を開き、朝開きて、夕にしぼむ。

あさぎ 朝朝黄櫻。木の名。樹の二層。花は、一重にして、色は白けれども、葉の色の萌黄なるより、やや、濃黄を帯びたるが如く見ゆ。

あさぎ 朝朝北。朝ふく北風。

あさぎ 朝朝浅黄脚躰。木の名。つつじの一種。花は、あさぎなるもの。

あさぎ 朝朝麻衣。麻布にて仕立てたる衣服。あさぎも。

あさぎ 朝朝悪木刺木。あさぎ木の、こげまきもの。

あさぎ 朝朝朝浄。屋なまを、朝はきまよるもの。

あさぎ 朝朝朝霧。朝たつ霧。「朝霧くさして」。

あさぎ 朝朝朝霧草。草の名。かはらよもぎに似て、あさぎの朝霧草。葉から草。

あさぎ 朝朝朝草紙。すきかへしあさぎの、下層なるもの。たゞ、東京の語にて製す。すきかへし。「朝霧」の語。

あさぎ 朝朝朝海苔。元祿の頃、能登なるの好みし朝霧草の一種。あまのりの一種。薄く、すきて、乾したるもの。食用せず。今は、武蔵國川崎の海岸より獲つたるもの。昔は、淺草川より獲したり。

あさぎ 朝朝朝浅梔子。うすくみたるもの。染色。

あさぎ 朝朝朝浅靴。「古、蕨束をつくる時に用いたる靴。底を桐にて強く造り、外部を漆にて塗りたるもの。二西洋形の靴のあさぎの(長靴に對して)」。

あさぎのな ごとつた そせすしき こけきか 木ねういあ

あさぎ 朝朝朝。朝たつ雲。

あさぎ 朝朝朝曇。朝くもりの朝。

あさぎ 朝朝朝座。うらはしき座所。

あさぎ 朝朝朝倉山椒。木の名。さんせうの一種。葉、實、ともに、大きくして、木に、刺なく、辛味なし。但馬國養父郡朝倉村の産をよしむす。

あさぎ 朝朝朝明。あさぎの朝。

あさぎ 朝朝朝飯。朝の食事。あさぎし。

あさぎ 朝朝朝浅滅紫。濃き紫色をけして、うすくしたる染色。

あさぎ 朝朝朝明風。朝早く吹く風。

あさぎ 朝朝朝飯煙。あさぎを炊く時の煙。

あさぎ 朝朝朝煙。朝たつけ煙。

あさぎ 朝朝朝朝。あさぎの朝。そしるもの。

あさぎ 朝朝朝朝。二つあさぎの朝。二つあさぎの朝を連んで、氣をはらす。

あさぎ 朝朝朝朝。朝、霧を漕ぐもの。

あさぎ 朝朝朝朝。朝吹く朝。

あさぎ 朝朝朝朝水。朝はる水。

あさぎ 朝朝朝朝麻衣。あさぎにたなじ。

あさぎ 朝朝朝朝芥菜。草の名。葉は、水面に浮び、根は、水の底にあり。葉、莖、ともに、じゆんさいに似て、夏、五瓣の黄色なる花を開く。はなじゆんさい。莖菜。「説教」。

あさぎ 朝朝朝朝座。八講なるの時、朝つこむる勤行、または、

あさぎ 朝朝朝酒。朝飲む酒。

あさぎ 朝朝朝朝寒。朝のさむき時。

あさぎ 朝朝朝朝朝不去。あさぎの朝。毎朝。

あさぎ 朝朝朝朝朝去者。あさぎの朝。

あさぎ 朝朝朝朝朝浅。俗に、あさぎ。「深くなし。底近し。奥近し。二薄し。あはして。薄くなし。三うすく。ひんてし」。

あさぎ 朝朝朝朝朝時雨。朝ふるしぐれ。

あさぎ 朝朝朝朝朝浅篠原。廣うてあさぎの原。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝水。遺跡なるの、朝霧のこ。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝濕。朝、霧なるのため物の濡ひたるもの。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝霜。「朝たつ霜。二ころあさぎの朝霧」。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝不潤。ほさず。かわかさず。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝姿。朝たきてたる時のすがた。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝涼。夏の朝の、未だ暑くならざる朝。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝浅蘇枋。すはう色の薄きもの。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝浅瀨。瀨の浅きもの。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝浅田。泥深くなき田。底のあさぎ田。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝朝麻。鷹狩の朝。さきりやまたたなじ。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝朝發。朝のたびだち。「く、朝こまかし」。

あさぎ 朝朝朝朝朝朝朝浅茅。茅の名。たひかはの類。川に産して、口大きな茅の、未だ短くして、茂らぬもの。

あさぎのな ごとつた そせすしき こけきか 木ねういあ

あしたかのもも 図 足高蜘蛛。虫の名。あしたかぐもにたなじ。

あしたかき 図 鹹草。草の名。海邊に生ず。葉は、うさぎ似て、大きく厚し。莖より、黄色の汁を出す。夏、枝の梢に、白き花を開く。食用せず。あしたか。

あしたち 図 足立。あしたちちごころ。をり場所。

あしたつ 図 霞の異名なり。あしたつ。

あしたつ 図 葦鶴。鳥の名。たづにたなじ。

あしたつ 図 足駄造。足駄を造るを業とする人。

あしたさかり 図 朝鳥狩。あささがりにたなじ。

あしたさき 図 朝所。古、太政官の中にあしし一局。或は、入道院の一名なり。あしたさき。

あしたば 図 草の名。あしたばにたなじ。

あしたま 図 足玉。古、足の飾りとしてつけたる玉。

あしたまり 図 足駐。一行軍の途中にて、暫くふみ留まりて休息所。二轉じて、足をふみしむること。あしたまり。

あしたも 図 足駄焼。信樂焼の水さし。底に、足駄の形あまのの綱。

あしたゆふ 図 朝夕。あさゆふにたなじ。

あしたらひ 図 足鹽。せんそくだらひにたなじ。

あしたたは 図 尾宿。東の方に見ゆる尾。

あしたわび 図 朝語。後朝の別れがわびし。

あしたを 図 足駄緒。あしたのはなを。

あしたをは 図 他人より頼まれて、物を買ふ時、その價を高くしたるは。他人より頼まれて、物を買ふ時、その價を高くしたるは。

あしな 図 足半。形、馬のわらちの如く、短きわり脊。人の足の半ばかりなるもの。

あしなが 図 長足。あし、非常にながき人。あしなが。

あしながも 図 足長蜘蛛。虫の名。あしたかぐもにたなじ。

あしながた 図 足長蛸子。たこの一種。足の、殊に長きもの。あしながた。

あしなふ 図 足蹇。足がなへて、拙かぬやうになる。あしなふ。

あしなへ 図 跛者。足のなへたる人。蹇。

あしなへ 図 脚鍋。脚のある鍋。酒のかんをするに用ゐる。

あしなへ 図 足並。隊を組みて歩むとき、足並りのそろふこと。歩調。

あしなゆ 図 足蹇。あしなふにたなじ。

あしならし 図 足蹇。あゆみかたの蹇古。

あしなる 図 足蹇。あゆみなる。

あしに 図 葦荷。葦の束れたるもの。

あしぬ 図 足拭。足をふき清むるに用ゐる布。

あしのあら 図 足蹇。あしうらにたなじ。

あしのかふ 図 足甲。足くびの表の方。

あしのきり 図 葦錐。あしがひにたなじ。

あしのくび 図 足首。あしくびにたなじ。

あしのひ 図 脚氣。病の名。かっけにたなじ。

あしのつ 図 葦角。あしかびにたなじ。

あしつはりて、中間にありて、利を食ふこと。

あしつかに 図 足序。あさきついでに。みちついで。

あしつかに 図 足遣。踊り、又は歩く時の、足の動かしかた。

あしつかに 図 草の名。のりの類。清き川の石、又は葦なかに附着して産す。

あしつかに 図 足付。あしつかにたなじ。二足のかたち。

あしつかに 図 足繼。ふみつきにたなじ。

あしつかに 図 葦葎。葎の節のなかにあるあま皮。

あしつかに 図 葎角。あしかびにたなじ。

あしつかに 図 葎津緒。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎手。文字をくづして、葎なごの生れたる様にかきなすもの。水の流るるさまにかきなすを、水手といひ、歌の心を、葎にかきて、文字にかへたるを、葎津緒といふ。中古に行はる。

あしつかに 図 葎手書。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎手形。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎手搦。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎手纏。妻子なご、已に關係ある者の纏。

あしつかに 図 葎手文字。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎手止。一人の、他に出でゆくを、止まらすこと。あしつかにたなじ。

あしつかに 図 葎取。あしつかにたなじ。



(あしあ)

あしあは けくきか そせしき だつちた のねにた

あしあは けくきか そせしき だつちた のねにた

あじろ 足拭。あしぬぐひにたなじ。
あじろ 葦葺。葦にてふきたる屋根。「の。騎。
あじろ 葦駢。馬の四足の、膝より下の毛色の白きも
あじろ 葦船。葦をつみのせたる舟。
あじろ 葦足踏。足のふみまき。あしむり。
あじろ 葦邊。海邊なるの、葦の生じたるをいふ。「稱。
あじろ 葦足偏。漢字の距離なるの、左にある足の字の
あじろ 葦間。葦のあひだ。「まかせて。
あじろ 葦かせた 葦足任。歩まるるにまかせて。足の進むに
あじろ 葦 葦標槍。たはむらぐりにたなじ。
あじろ 葦ひ 葦。虫の名。水中に住む。頭は、蛇の如く、
身は、細長くして、長さは、一丈に達す。
あじろ 葦ひ 葦足。あしてまきひにたなじ。二虫
の名。あしまつひにたなじ。葦。
あじろ 葦ひ 葦按摩。あんまにたなじ。①
あじろ 葦ひ 葦足憑。あしがかりにたなじ。
あじろ 葦ひ 葦足下。足のほごり。あしのそは。
あじろ 葦 葦屋。あしのやにたなじ。
あじろ 葦 葦屋者。たふしにたなじ。
あじろ 葦 葦屋。宰相に次ぐいふ義。大納言の唐名。
あじろ 葦 葦屋釜。筑前國葦屋といふ地にて鑄たる
釜。松竹梅の壽文あり。多く、俗書舟の筆になる。茶室にて珍
あじろ 葦 葦足休。足をやすむること。「直す。

あじろ 葦 葦足憊。足がいたむ。足がつかる。
あじろ 葦 葦阿蘭梨。あきりにたなじ。
あじろ 葦 葦阿從。たまわりしたがうこと。
あじろ 葦 葦阿足結組。机なるの脚の飾りをするも
の。種種の糸を組み合せて造る。
あじろ 葦 葦阿修羅。梵語「佛敎の語。「佛になること
をいふ。しゆら。二あしゆらかしの聲。
あじろ 葦 葦阿修羅界。佛敎の語。阿修羅のいる世
界。六界の一。
あじろ 葦 葦阿修羅道。佛敎の語。阿修羅界へ行く
道。
あじろ 葦 葦阿修羅王。佛敎の語。阿修羅の王。カ
強くして、梵天帝釋と争ひ、正法を亡ぼさんとするもの。
あじろ 葦 葦惡米。質のわるき米。
あじろ 葦 葦足弱。あしのよわき人。二婦人、見供なら
をいやしてていふ。「あしき東。
あじろ 葦 葦足弱車。進みの早からぬ車。はしり
あじろ 葦 葦接遇。あしらふこと。もてなし。
あじろ 葦 葦接遇。あしらふこと。もてなし。
あじろ 葦 葦網代。一水魚をならんために、冬、川の瀬に、竹、
又は、木を編み列ねて網の代りにするもの。
二ひのきのへぎ、又は、竹、葦などを編みて、
網の目の如くしたるもの。三あじろぐるま
あじろ 葦 葦網代編。あじろにあむこ
をいふ。又、そをつくる人。



あじろ 葦 葦網代編。あじろにあむこ

あじろ 葦 葦網代打。あじろを、川に組みたつること。
あじろ 葦 葦網代垣。あじろにてゆひたる垣。
あじろ 葦 葦網代駕籠。あじろにて張りたる駕籠。
あじろ 葦 葦網代笠。あじろにて造りたる笠。
あじろ 葦 葦網代形。あじろの形をなせるもの。
あじろ 葦 葦網代木。水魚を捕ふる爲めのあじろに用ひ
あじろ 葦 葦網代組。あじろあみにたなじ。「たる木。
あじろ 葦 葦網代車。あじろにて張りたる車。
あじろ 葦 葦網代輿。青竹のあじろにて、外を張りたる輿。
あじろ 葦 葦網代簀。水魚を捕ふるために、あじろの如く
につくりたる簀。
あじろ 葦 葦網代張。一凡て、あじろあみの物を張り
て、作りたるもの。二あじろがさの一種。形、或者笠、市女
笠を折衷したる如きもの。赤くぬり、へりは、上の方へそり
かへれ。①
あじろ 葦 葦網代人。水魚を捕ふるための、あじろの番
あじろ 葦 葦網代屏風。あじろにて張りたる屏風。
あじろ 葦 葦網代帆。竹を編みて造りたる帆。ささほ。
あじろ 葦 葦網代守。あじろあみにたなじ。
あじろ 葦 葦葦芽。あしがひにたなじ。②
あじろ 葦 葦葦分。障り多き事を、葦の繁りたる中を押し
分くるにたとへていふ。
あじろ 葦 葦葦分機。足の、こりはつしの出来
あじろ 葦 葦葦分機。足の、こりはつしの出来
あじろ 葦 葦葦分機。足の、こりはつしの出来

あじろ 葦 葦葦分小舟。葦の繁りたる中を漕ぎ分
あじろ 葦 葦葦草。葦の穂。①
あじろ 葦 葦葦草。葦の穂。かいたにたなじ。
あじろ 葦 葦葦結。葦の足に結びつくる結。
あじろ 葦 葦葦洗足。葦者、又は、船較なるものか、そ
の社會を脱す。②
あじろ 葦 葦葦わらひ。わらひの結ならにて、足をそごなふ。③
あじろ 葦 葦葦足桶。足をふみ入る桶。冬、河の中ならに
て働く時に、足の凍むために用ゐる。
あじろ 葦 葦葦足出。足踏みも知らぬ程にあわてて。④
あじろ 葦 葦葦足折。足折れ掛けたる人。
あじろ 葦 葦葦明日。けふの次の日。翌日。
あじろ 葦 葦葦浅。俗に、あせる。あさくなる。衰ふ。
あじろ 葦 葦葦くづれたる岸。がけ。⑤
あじろ 葦 葦葦飛鳥味。古、大和國の飛鳥より出だせ
あじろ 葦 葦葦彼處。かのこころ。あしこ。⑥
あじろ 葦 葦葦羅漢松。木の名。あすはひのきにたなじ。
あじろ 葦 葦葦羅漢松。木の名。あすはひのきの聲。
あじろ 葦 葦葦羅漢松。木の名。あすはひのきの聲。
あじろ 葦 葦葦羅漢松。木の名。あすはひのきの聲。
あじろ 葦 葦葦遊。あそびの聲。
あじろ 葦 葦葦阿修羅。梵語あしゆらかしの約。⑦
あじろ 葦 葦葦阿修羅王。あしゆらかしの約。⑧

あじろ 葦 葦葦分機。足の、こりはつしの出来

あせ 汗。一熱する時に、動物の皮膚より分泌する水。二血を云ふ。瘡の忌詞。

あせ 吾兄。人を親みて呼ぶ稱。

あせ 田。田のへだてに、土を盛りたる堤の如き處。くる。

あせ 田。田のたていさを懸る具。

あせ 田。なにゆゑに。なせ。

あせ 田。汗。汗にぬる。汗濡りたつ。

あせ 田。汗。かしくき人。聖人につぐ人。

あせ 田。汗。襦のたていさを懸るに用ゐる糸。

あせ 田。汗。ふき糸。細き糸を以て、織地に、たかひくをあらはしたる織物。

あせ 田。汗。汗のいて易き人。

あせ 田。汗。あせあゆにたなじ。

あせ 田。汗。草の名。いねがらしをいふ。

あせ 田。汗。草の名。りんたうをいふ。

あせ 田。汗。古代の建築法にて、方形の材を、横に組みあせて造りたる倉。又倉。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 汗。一熱する時に、動物の皮膚より分泌する水。二血を云ふ。瘡の忌詞。

あせ 吾兄。人を親みて呼ぶ稱。

あせ 田。田のへだてに、土を盛りたる堤の如き處。くる。

あせ 田。田のたていさを懸る具。

あせ 田。なにゆゑに。なせ。

あせ 田。汗。汗にぬる。汗濡りたつ。

あせ 田。汗。かしくき人。聖人につぐ人。

あせ 田。汗。襦のたていさを懸るに用ゐる糸。

あせ 田。汗。ふき糸。細き糸を以て、織地に、たかひくをあらはしたる織物。

あせ 田。汗。汗のいて易き人。

あせ 田。汗。あせあゆにたなじ。

あせ 田。汗。草の名。いねがらしをいふ。

あせ 田。汗。草の名。りんたうをいふ。

あせ 田。汗。古代の建築法にて、方形の材を、横に組みあせて造りたる倉。又倉。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせういあ かくきか そせすしき ことつちた ねぬにな

あせ 汗。一熱する時に、動物の皮膚より分泌する水。二血を云ふ。瘡の忌詞。

あせ 吾兄。人を親みて呼ぶ稱。

あせ 田。田のへだてに、土を盛りたる堤の如き處。くる。

あせ 田。田のたていさを懸る具。

あせ 田。なにゆゑに。なせ。

あせ 田。汗。汗にぬる。汗濡りたつ。

あせ 田。汗。かしくき人。聖人につぐ人。

あせ 田。汗。襦のたていさを懸るに用ゐる糸。

あせ 田。汗。ふき糸。細き糸を以て、織地に、たかひくをあらはしたる織物。

あせ 田。汗。汗のいて易き人。

あせ 田。汗。あせあゆにたなじ。

あせ 田。汗。草の名。いねがらしをいふ。

あせ 田。汗。草の名。りんたうをいふ。

あせ 田。汗。古代の建築法にて、方形の材を、横に組みあせて造りたる倉。又倉。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 汗。一熱する時に、動物の皮膚より分泌する水。二血を云ふ。瘡の忌詞。

あせ 吾兄。人を親みて呼ぶ稱。

あせ 田。田のへだてに、土を盛りたる堤の如き處。くる。

あせ 田。田のたていさを懸る具。

あせ 田。なにゆゑに。なせ。

あせ 田。汗。汗にぬる。汗濡りたつ。

あせ 田。汗。かしくき人。聖人につぐ人。

あせ 田。汗。襦のたていさを懸るに用ゐる糸。

あせ 田。汗。ふき糸。細き糸を以て、織地に、たかひくをあらはしたる織物。

あせ 田。汗。汗のいて易き人。

あせ 田。汗。あせあゆにたなじ。

あせ 田。汗。草の名。いねがらしをいふ。

あせ 田。汗。草の名。りんたうをいふ。

あせ 田。汗。古代の建築法にて、方形の材を、横に組みあせて造りたる倉。又倉。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせ 田。汗。あせあし。

あせういあ かくきか そせすしき ことつちた ねぬにな

あたる

あたいえ 図直。姓の二。あたへ。①
 あたひき 図徒彈。琴、三味線などを、正しき音律によらずして、戯れにひくこと。②
 あたひなし 図無價。うはきもの。こころのさだまらぬ人。①限りもなくたふさし。②「得。なしならぬ。うちなし。極めて賤し。」
 あたふ 図能。あてはまる。通當す。①二する事をあたふ 図能。俗に、あたへる。つかはす。やる。②
 あたふ 図戯。たはふる。あざる。①
 あたふし 図徒臥。男、女、何れか、ひざりにて、いたづらに寝ころぶこと。②
 あたふた 図「たくさん。①二うろたへて。②正平千何「あたふた」のみな聲をいそがれて」
 あたへ 図直。姓の名。あたひ。①
 あたふ頭。一「左魂の義」かしろの頂上。天窓。二「すて。物の最上のところ。三事の始まり。四髪の手。あたまの手。あたまかへて 図頭。頭巾の一種。元祿の頃、僧侶、老女などの用いたるもの。②
 あたふかす 図頭敷。ひごかす。①
 あたふかち 図天窓勝。一體にくらべて、頭のかみ大なること。二物事の、始めのみ大きくして、末の小まきこと。②
 あたふくの 図徒枕。かりそめ、いたづらふし。かりね。①
 あたふのはち 図天窓鉢。かしろのいただき。頭蓋骨。あたまわり 図頭割。人数にあてて、物事を割りつくること。②見口。

あたる

あたまをかへ 図搔頭。かう入をかくにたなじ。①
 あたまをかへ 図低頭。頭を垂る。屈服す。②
 あたまをかへ 図臆頭。思ひわづらふ。考へこせ。あたまをはる 図臆頭。思ひわづらふ。考へこせ。②
 あたむ 図草蘆薈。草の名。蘇州地方に産す。葉は、形、大根の葉をとり去りたるが如く、兩邊に、刺あり。花は、青、又は、淡紅色にして、中心よりのびて、長き莖に開く。①
 あため 図圖徒。一「あだあだしく見ゆ。好色めく。二情に溺れ易くあり。うはきになる。」
 あだもの 図徒物。はかなきもの。つまらぬもの。①
 あだもの 図阿那者。たをやめ。あかねけのしたる女。②
 あだや 図徒矢。的にあたらぬ矢。むだや。①
 あだゆき 図仇忌。人を、あたがたきの如く悪むこと。②
 あだり 図可憎。をしきみ。をしむべき事を示すに用ゐる。あつたら。①「あたら明月を雲がかくした」
 あたらあたら 図新新。常に新しく。②
 あたらし 図可憎。をしきみ。をしむべき。①
 あたらし 図新。俗に、あたらしい。古くなし。しんきなり。②
 あたらし 図可憎。をしきみ。をしむべき。をしむ。①
 あたらし 図新船。新しく造りたる船。②
 あたらし 図可憎。をしきみ。をしむべき。をしむ。①
 あたらし 図可憎。をしきみ。をしむべき。をしむ。①
 あたらし 図可憎。をしきみ。をしむべき。をしむ。①

あはうい木 かくきき せすしき ちつちた になぬの

あたる

あたらよ 図惜夜。をしきみ。をしむべき夜。①
 あたり 図邊。一「ほりにたなじ。二そのころ。その時分。②
 あたり 図當。一「あたりのこと。二探察の手がかり。③
 あたりあたり 図此處彼處。そこそこ。あつち「あつち」か
 あたりあふ 図當合。わたりあふ。たたかふ。①
 あたりあふ 図當芋。すりいもをいふ。東京の風詞。②
 あたりあつち 図。あてが定まる。③
 あたりあつち 図。あたりに「たなじ。東京の風詞。④
 あたりあつち 図當木。すりいもをいふ。東京の風詞。⑤
 あたりあつち 図邊近所。わが住居のきんべん。あた
 り。⑥「多き狂言。」
 あたりあつち 図當狂言。芝居にて、評判よく、入りの
 あたりあつち 図當苦。たち並び難し。あたりがたし。⑦
 あたりあつち 図。一何日あたり。二「あたりにあたり。⑧
 あたりあつち 図當障。さしあひ。影障。⑨
 あたりあつち 図當年。一「作物などの、よく育りたる年。二
 物事の、思ひのままにゆくこと。⑩
 あたりあつち 図邊隣。近きとなり。近所。⑪
 あたりあつち 図無當。駭かふきものなし。⑫
 あたりあつち 図當箱。すりいもをいふ。東京の風詞。⑬
 あたりあつち 図當鉢。すりいもをいふ。東京の風詞。⑭
 あたりあつち 図當鉢。成功し、失敗。⑮
 あたりあつち 図當棒。すりいもをいふ。東京の風詞。⑯

あたる

あたりあつち 図當日。然あるべき時にあたれる日。①
 あたりあつち 図當振舞。一「ある出来事について、舞臺に
 たもつ時、紀念のために、人などを招きて、舞臺するもの。②
 あたりあつち 図近邊。あたりとなりたなじ。③
 あたりあつち 図當前。一「よのつね。なみなみ。普通。④
 や然あるべきこと。あつち。⑤
 あたりあつち 図當肉。すりいもにてすりたる魚肉。東京の風
 詞。⑥
 あたりあつち 図當蜜柑。覆りたる蜜柑。きすつきたる
 蜜柑。東京の風詞。⑦
 あたりあつち 図中物。食へば、身の毒となるもの。⑧「業。
 あたりあつち 図當物。思ひのままにあたりて、利益の多き事
 あたりあつち 図當屋。さんばつをいふ。東京の風詞。⑨
 あたりあつち 図拂四邊。勢はげしく、あたりに近寄
 られること。⑩
 あたる 図當。一「強くふる。ふじかる。二「いたる。むか
 ふ。三「ゆきあふ。出て合ふ。四「あてはまる。通當す。五「こ
 なはる。毒を受く。六「思ふが如くなる。成就す。七「火にあ
 たたまる。火にむかふ。八「變な心を創る。東京の風詞。九
 する(塵)にたなじ。東京の風詞。十「試みに、ちうすをうかがふ。
 「先方にあたる」十一「仇をなす。邪見にする。十二「くあたる」
 あたる 図徒業。無益なるしわざ。むだごと。①
 あたる 図徒笑。いたづらに笑ふこと。さらわらひ。②
 あち 図彼方。そなた。かなた。あちち。③
 あち 図鶉。鳥の名。あちがもの。④

あはふは ちみむも めやよ ちるるる わるる

あぢ 旨味。 一食物の、舌に觸るる感じ。あぢはひ。二凡ての事に關しての感情。なまぢき。三怪むべきこと。不審なること。たつ。へん。四手際よくすること。東京の語。「あぢなまぢをやる」。「あぢはひひりよまぢ」。

あぢ 鱈。 魚の名。海にすむ。大き三寸より、一尺に至る。鱈に似たり。さげの如き鱈、腹の下より、尾まで、直線に連なり生ず。夏秋の交、多く獲す。味美なり。種類多し。竹炭魚。

あぢ 鴨。 鳥の名。鴨に似て小さく、嘴、脚は黒く、頭は青綠色にして、襟色を帯び、翅は灰色、胸は、襟紫色にして、黒斑あり。常に、群をなして飛ぶ。あぢ。

あぢ 無味氣。 あぢきなき。あぢきな世に。あぢきな。俗に、あぢきな。一たもしろくなし。ものうし。つらし。二かひなし。むやくなり。

あぢ 彼方此方。 一あへんへにたなじ。二國あなたこなた。

あぢ 賣子木。 木の名。ちさのきにたなじ。

あぢ 味酒。 味のよきさけ。うまき酒。美酒。

あぢ 紫陽花。 木の名。葉は、對生し、その周りに、刻みあり。夏の初め、莖の末に、白き四瓣の花群り開く。その状、手鞠の如くにして、後、うすあめ色に變ず。梅。

あぢ 無味。 うまくなし。たもしろみなし。

あぢ 旨味。 味をこころぢ。

あぢ 巧みに。 手ぎはよく。うまく。東京の語。

二意味ありけに。いぶかし。へんに。たつに。東京の語。

あぢ はひ 旨味。 あぢにたなじ。

あぢ はひ 旨味。 一食物の味を試む。二物事の意味を深く考ふ。三國語。俗に、あぢはひる。前後のあぢはひにたなじ。

あぢ 蒲菜。 木の名。あぢまさは横切ち、びらうなれども、實際は蒲菜を云ふ。びらうは蒲菜は、全然別品なれども、古くより取り来れり。

あぢ 豆。 あぢのよき豆。あぢまめ。あぢまめの類。

あぢ 鴨群。 あぢがもの、群集せるもの。

あぢ 鴨群駒。 つきひ。光陰。

あぢ 支那人を呼ぶ語。 肥前國長崎の方言。

あぢ 大根、蓮根、すんき、牛蒡なまぢをききみて、酢酒、醬油などに漬けたるもの。

あぢ 彼方。 あなた、かなた。

あぢ 此方。 あへんへにたなじ。國あなたこなた。あぢこぢ。

あぢ 占味。 一一度食ひ味ひて、そのうまさを感じ。二占領す。獨りじめをす。

あぢ 旨味。 あぢをしむにたなじ。

あぢ 當。 俗に、あてる。一あたらしむ。二思ひのまにす。三たしはかりて斷定す。推量して決す。中。國語。密ならしむ。あてはむ。

あぢ 厚。 あつきを意を示すに用ゐる。「あつがしら」

のねにた ごとつちた そせすしき こけくきか たぬういあ

あつ 熱。 あつきを意を示すに用ゐる。

あつ 熱。 度をこえて、女を愛すること。

あつ 厚。 厚げに。厚まきに。

あつ 厚板。 絹の、生糸を織して、ねり糸を織して、地紋をたりに出したる織物。多く、帯などの料子。厚まき。

あつ 礮。 あつものにたなじ。「礮」。

あつ 癩疾。 ひきうすにたなじ。

あつ 厚葉。 次條の語の變。

あつ 厚葉紙。 鳥の子紙の、厚くすきたる紙。

あつ 束草。 草を束ねたるもの。祭などの時、しきものに用ゐる。

あつ がしら 厚頭。 髪の毛の密生せるもの。

あつ がは 厚皮。 一厚まきは。二つらの皮の厚まきに。はぢ知らず。厚頭。

あつ がは 厚。 わづらはし。扱ひがたし。

あつ がは 厚。 あつくるしにたなじ。

あつ がは 厚。 一あつかふこと。二あつかひにんの聲。

あつ がは 厚。 あつかひのたね。

あつ がは 厚。 一十分に、あつかひ盡すこと。二先方のあつかひ次第にすること。

あつ がは 厚。 あつかひにんにたなじ。

あつ がは 厚。 すべて、無事をこりあつかふ人。

あつ がは 厚。 あつかひにんにたなじ。

あつ がら 厚。 一せむをやく。二りさばく。三むらふ。たうわくす。

あつ がら 厚。 熱にわづらふ。

あつ がら 厚。 俗に、あつかまし。恥しらすなり。はぢを

あつ がら 厚。 厚く貼り合せたる紙。いたがみ。

あつ がら 厚。 酒の、燗を強くしたるもの。あつき燗。

あつ がら 厚。 あつものにたなじ。

あつ がら 厚。 あつしと思ふこと。あつがる人。

あつ がら 厚。 一あつかること。二ひきうけてまもる人。三院の御厨子所、進物所、御臺所、又は、武者所などの頭。四あつかりたるまき、その勝負を、行司の、決せすにたなじ。苦情をこりたるまき、その勝負を、行司の、決せすにたなじ。

あつ がら 厚。 預りたるまき、その手数料として取る賃錢。

あつ がら 厚。 充分に、預人の後目を盡すこと。

あつ がら 厚。 一あつかりて居る人。二他にあつかられたる人。

あつ がら 厚。 あつかりにんにたなじ。

あつ がら 厚。 あつかりちんにたなじ。

あつ がら 厚。 預りてあるもの。

あつ がら 厚。 あつがる人。

あつ がら 厚。 通常よりも、暑さを感ず。暑しと思ふ。

なるあわ りれるり の よゆや もめんむみま ほへふはひ

あひかる 團圓預。一種まわてはまゐる。わち手にひきまわす。二相撲の語。昔情たこりて勝負決せずしたく。
あひかる 團圓興。くみす。なかまになる。かかりあふ。
あひかる 團厚着。着物を多くかさねて着る。①
あひかる 團小豆。草の名。枝葉すんで、さざげに似て小さし。種類多し。普通には、實の赤き小豆をいふ。②
あひかる 團小豆餅。草の名。うぐひすのきにならぬ。③
あひかる 團赤豆草。なめしがはの一種。厚くして、あじき色なるもの。④
あひかる 團小豆粥。赤き小豆を交ぜてきたる粥。多くは、正月十五日に、祝して食す。⑤
あひかる 團小豆梨。木の名。葉は、みねはりの如くに圓く、その周りに、鋸齒あり。豆、白き花を開きて、秋、小豆に似たる實をむす。⑥
あひかる 團厚絹。あつたにななじ。⑦
あひかる 團小豆飯。あつきを交ぜて炊きたる飯。あひかる 團小豆餅。餅に、あつきのあんをつけたるもの。⑧
あひかる 團厚預。俗に、あつき。あつからしむ。香粧の。⑨
あひかる 團厚綬。あつき。⑩
あひかる 團熱苦。俗に、あつくるしい。暑さ甚しくして。⑪
あひかる 團厚巻。その書中にありて、最もすぐれたるもの。⑫

あひめ 團中暑。暑氣に犯されたる病。中暑。
あひめ 團預。あつくる。⑬
あひめ 團預金。あつくる金錢。あつけたる金錢。
あひめ 團厚化粧。ふたに、たしむるなまを、濃くつけて化粧する。⑭
あひめ 團預物。預けてあるもの。⑮
あひめ 團厚肥。厚くふくらみてあり。⑯
あひめ 團厚棗。木の名。あかめがしにななじ。⑰
あひめ 團厚榨。たしてしほること。⑱
あひめ 團厚棗。棗弓をひきならして、神たらしむる。⑲
あひめ 團厚弓。棗の木にて造れる弓。⑳
あひめ 團厚薄。暑さを避くること。㉑
あひめ 團厚淡泊。あはく。㉒
あひめ 團厚紫陽花。草の名。あぢきにななじ。㉓
あひめ 團厚過止。さむさを避くること。㉔
あひめ 團厚熱。俗に、あつ。①
あひめ 團厚熱。俗に、あつたかな。②

あひめ 團厚。俗に、あつ。③
あひめ 團厚。粗末ならずあり。④
あひめ 團厚。病む。⑤
あひめ 團厚。病む。⑥
あひめ 團厚。病む。⑦
あひめ 團厚。病む。⑧
あひめ 團厚。病む。⑨
あひめ 團厚。病む。⑩
あひめ 團厚。病む。⑪
あひめ 團厚。病む。⑫
あひめ 團厚。病む。⑬
あひめ 團厚。病む。⑭
あひめ 團厚。病む。⑮
あひめ 團厚。病む。⑯
あひめ 團厚。病む。⑰
あひめ 團厚。病む。⑱
あひめ 團厚。病む。⑲
あひめ 團厚。病む。⑳

あひめ 團厚。病む。㉑
あひめ 團厚。病む。㉒
あひめ 團厚。病む。㉓
あひめ 團厚。病む。㉔
あひめ 團厚。病む。㉕
あひめ 團厚。病む。㉖
あひめ 團厚。病む。㉗
あひめ 團厚。病む。㉘
あひめ 團厚。病む。㉙
あひめ 團厚。病む。㉚
あひめ 團厚。病む。㉛
あひめ 團厚。病む。㉜
あひめ 團厚。病む。㉝
あひめ 團厚。病む。㉞
あひめ 團厚。病む。㉟
あひめ 團厚。病む。㊱
あひめ 團厚。病む。㊲
あひめ 團厚。病む。㊳
あひめ 團厚。病む。㊴
あひめ 團厚。病む。㊵
あひめ 團厚。病む。㊶
あひめ 團厚。病む。㊷
あひめ 團厚。病む。㊸
あひめ 團厚。病む。㊹
あひめ 團厚。病む。㊺
あひめ 團厚。病む。㊻
あひめ 團厚。病む。㊼
あひめ 團厚。病む。㊽
あひめ 團厚。病む。㊾
あひめ 團厚。病む。㊿

あひらむも 國語。あてこすること。
あひらする 國語。當接。面前にて、接まはしむ。その人の非をめぐ。覆す。◎
あひらむ 國語。一たのみにならぬこと。あてて。こりゆ。◎。二あててのたなじ。
あひらむ 國語。あてこするにたなじ。
あひらむ 國語。當込。たのみにす。
あひらむ 國語。當障。あたりまはりあり。さしあふ。◎
あひらむ 國語。一國語にてあてて書く漢字。二聯手に造りたる字。フネ字。
あひらむ 國語。當寸法。あててなしに、事をすること。◎
あひらむ 國語。當推量。理由もなきたしはかりこと。◎
あひらむ 國語。當附。俗に、あてつけ。一あてたこと。ふ。わらしく。二あてこするにたなじ。
あひらむ 國語。當所。心あててするところ。目的にするもの。◎
あひらむ 國語。宛名。手紙にしるす先方の人名。受書者の名。◎
あひらむ 國語。無當。あててもなく。あててもなく。
あひらむ 國語。爲當。たのみにたなじ。
あひらむ 國語。當飲。一他人の酒を、あてにして飲むこと。◎。二あててなくして、徒にくらし居ること。◎
あひらむ 國語。高貴。あてやかにたなじ。
あひらむ 國語。當量。たしはかりにたなじ。
あひらむ 國語。當量。ほむよはまる。
あひらむ 國語。當。俗に、あてはめる。過不及なくはまらし

あひらむ 國語。高貴。あてやかに見ゆ。◎
あひらむ 國語。高貴人。たふさき人。◎
あひらむ 國語。高貴。あてはむにたなじ。◎
あひらむ 國語。宛文。その人にあてたる文書。
あひらむ 國語。當振。作法もなく、氣儘にする所。◎
あひらむ 國語。當設。ころがけるなす。用差す。
あひらむ 國語。當身。一柔術の語。こぶしにて、相手の急所をつき、一時、その人の呼吸を止むること。二物を買ひたる價を、他人にたてかへしむること。維新前の芝居の隠語。
あひらむ 國語。當物。一まじりにたなじ。二上夫して、何なにかを、ひあつあつもの。中物。
あひらむ 國語。馬術の語。あてにたなじ。一く。◎
あひらむ 國語。高貴。あてなる様に。みぢやかに。品よく。◎
あひらむ 國語。當繪。たしるにたなじ。◎
あひらむ 國語。跡。一過ぎ去りたる後、又は、その前。二物事の過ぎ去りたる後まで、残るし。三しきたり。ためし。四足の方。しりへ。うしろ。五をばり。する。し。ひ。六筆のあ。書きたるもの。筆跡。
あひらむ 國語。阿堵。むに錢の異名。
あひらむ 國語。能狂言にて、しての次なる役者の稱。わき。
あひらむ 國語。何。いかに。な。な。東國の古の方言。
あひらむ 國語。後脚。馬の四つ足の中で、尻に近き方の二本。うしろあし。
あひらむ 國語。去月。あこ月の、その前の月。

あひらむのねねにたなじ。てつちた。そせすしき。こけくきか。たねういあ。

あひらむ 國語。後語。なぞなぞなりとも、物語の應答なり。こ。又、かげやなりとも。◎
あひらむ 國語。國語。他人のはなしに乗り、調子を合はす。◎
あひらむ 國語。後押。しんがり。にたなじ。
あひらむ 國語。後押。一他人のうしろだてとなりて、扶助すること。後援。二車を、あこよりたす人。◎
あひらむ 國語。何。あてにたなじ。東國の古の方言。
あひらむ 國語。跡形。あてに残りたるし。こんせき。
あひらむ 國語。後肩。稜の後方をつつかかき。あてし。◎
あひらむ 國語。跡片付。凡て、物事のをはりを始末するに。◎
あひらむ 國語。跡形見。あてのしるし。残れるかたみ。
あひらむ 國語。後金。總領の金圓のうち、若干を渡したきた。◎
あひらむ 國語。後裔。しそん。後胤。◎。一。發金。◎
あひらむ 國語。後覆。うしろむきに。こんはがへりすること。補者。◎
あひらむ 國語。跡淨。葬式を出したるあこの室内をきよめ。◎
あひらむ 國語。後口。一物を飲み食ひしたる跡まで、口に殘る。二物事の残り部分。
あひらむ 國語。去月。せんげつ。にたなじ。一なし。
あひらむ 國語。幼。俗に、あてけない。をさなし。わるき

あひらむ 國語。踏。またぎ。◎
あひらむ 國語。前後。あてに、あま。ま。つ。し。る。先後。
あひらむ 國語。後産。のちさん。にたなじ。
あひらむ 國語。跡式。あてにたなじ。
あひらむ 國語。後巡。一あてに退くこと。二出の名。あてに。たなじ。巡。◎
あひらむ 國語。後手段。あてにてする手だて。
あひらむ 國語。後尻。遊女屋の店、勝手このしきりにたつ。障子。東京吉原の遊廓の語。
あひらむ 國語。後巡。あてしきりにたなじ。
あひらむ 國語。後窄。あての方の、すはまれること。
あひらむ 國語。後備。中軍の後方に備ふる軍勢。
あひらむ 國語。跡絶。一俗に、あてたなる。二あてを、極ぐ人なくなる。
あひらむ 國語。垂跡。俗に、あてたれる。神佛の跡が、この世に。◎
あひらむ 國語。跡繼。一家の跡目を相續すること。又相續する人。あて。◎。二疑問、技藝などの系統を、引きつくること。また、ひきつくる人。
あひらむ 國語。印跡。一足あてをつく。二書きし。◎
あひらむ 國語。後付草履。こんすわらにたなじ。
あひらむ 國語。跡所。あての。ふ。さ。き。所。◎
あひらむ 國語。後世の手本。なす。
あひらむ 國語。吊跡。死者のあてを。◎。

あひらむをるるり。よゆ。もめんむみ。ほふひは。

あなせ ① 偏。中国の船人の稱。
あなせ ② 彼方。一あちら。あのかた。二過ぎし時。以前。
 三あなた。たまへさま。
あなせ ③ たもて彼方面。あちらのかは。④
あなせ ④ 彼方。一あなた。あちら。ほかのかた。
 二あなたたち。君たち。諸君。
あなせ ⑤ たな彼方此方。あちらこちらにわたる。
あなせ ⑥ 嗟責。あなたふさまかな。
あなせ ⑦ 赤色の玉ならんごいふ。⑧
あなせ ⑧ 穴痔。くされて、穴の生ずる痔。はやく。
あなせ ⑨ ぱり穴這入。あくしよるひにわたる。
あなせ ⑩ 悔。恨らるべくあり。かるがるしくみら
あなせ ⑪ 悔。あなごるにわたる。⑫「てあり。⑬
あなせ ⑬ 悔。あなごるにわたる。⑭「てあり。
あなせ ⑭ 鳳梨。印度語 Ananas、木の名。熱帯地方に生
 ず。葉は、根より發生して、實は、松の實に似て大なり、食用と
 する。⑮
あなせ ⑮ 麻柱。一あなごごご。⑯「あししるにわた
あなせ ⑯ 助。たすけたまふ。補助。⑰
あなせ ⑰ 嗚呼。あゝあゝかな。あゝにくらしをか
 な。生憎。
あなせ ⑱ あゝあゝかな。あゝあゝしかな。⑲

あなせ ⑳ あなごにやしにわたる。㉑
あなせ ㉑ 穴鼠。鼠の名。田鼠の類。あなごにすむ鼠。
あなせ ㉒ 穴蜂。虫の名。うちはちちにわたる。⑳
あなせ ㉓ 穴織。あやはごりにわたる。㉔
あなせ ㉔ 穴腹。あゝ腹いたまかな。㉕
あなせ ㉕ 穴。足のかぶ。㉖
あなせ ㉖ 穴掘。あしなゆにわたる。㉗
あなせ ㉗ 穴掘。一死人を葬るための穴を掘る人。二あ
 なほり穴掘。あしなゆにわたる。㉘
あなせ ㉘ 穴掘大工。一穴を掘る大工。二あ
 なほり穴掘大工。二穴の掘る大工。㉙
あなせ ㉙ 穴。あなごにわたる。㉚
あなせ ㉚ 穴。あなごにわたる。㉛
あなせ ㉛ 穴。あなごにわたる。㉜
あなせ ㉜ 穴。あなごにわたる。㉝
あなせ ㉝ 穴。あなごにわたる。㉞
あなせ ㉞ 穴。あなごにわたる。㉟
あなせ ㉟ 穴。あなごにわたる。㊱
あなせ ㊱ 穴。あなごにわたる。㊲
あなせ ㊲ 穴。あなごにわたる。㊳
あなせ ㊳ 穴。あなごにわたる。㊴
あなせ ㊴ 穴。あなごにわたる。㊵
あなせ ㊵ 穴。あなごにわたる。㊶
あなせ ㊶ 穴。あなごにわたる。㊷
あなせ ㊷ 穴。あなごにわたる。㊸
あなせ ㊸ 穴。あなごにわたる。㊹
あなせ ㊹ 穴。あなごにわたる。㊺

あなせ ① 兄弟。あにごにわたる。きやうだい。
あなせ ② 兄弟。一あにの尊稱。二あににわたる。三他の
 男を親みて呼ぶ。③
あなせ ③ 兄弟。一仲間より尊ばれる身分の男。但し。
あなせ ④ 兄弟。他人の兄弟の尊稱。令兄。⑤
あなせ ⑤ 兄弟。引手宗屋、舟宿などの、むすこを呼ぶ。⑥
あなせ ⑥ 兄弟。すゑの兄。⑦
あなせ ⑦ 兄弟。兄である人。あにび。⑧
あなせ ⑧ 兄弟。我れより前に、同じ師につき、そ
 の弟子となりたる人。⑨「外に。
あなせ ⑨ 兄弟。思ひもよらず。思ひがけなく。意
 計。⑩
あなせ ⑩ 兄弟。あにの尊稱。⑪
あなせ ⑪ 兄弟。假に定めたる兄。義兄。
あなせ ⑫ 阿娘。漢字の吳音。あね。⑬「只。
あなせ ⑬ 阿娘。兄の妻。
あなせ ⑭ 阿娘。英語 Aniline、紫色なまに用ゐる結
 晶。⑮
あなせ ⑮ 阿娘。あるまじき。不適當なる。不相應なる。⑯
あなせ ⑯ 阿娘。同じ親に生れたる、年のうへの女。いろね。⑰
あなせ ⑰ 阿娘。また、妻の姉、又、兄の姉。⑱他の女を、したして呼
 ぶ。
あなせ ⑱ 阿娘。一あねの尊稱。⑲
あなせ ⑲ 阿娘。一あねの尊稱。⑳
あなせ ㉑ 阿娘。博徒、俠客などの妻にて、仲間のもの
 のるに尊ばれる身分の稱。

あなせ ㉒ 阿娘。あにの尊稱。二われより年うへの女を
 よぶ。⑳
あなせ ㉓ 阿娘。他人のあねをよぶ尊稱。㉔
あなせ ㉔ 阿娘。鳥の名。鶴に似たる水鳥、灰色な
 り。㉕
あなせ ㉕ 阿娘。一姉を尊びていふ稱。二女の形に造り
 たる人形。女の親。㉖
あなせ ㉖ 阿娘。女見の遊戯。あねさまごの
 遊戯。㉗
あなせ ㉗ 阿娘。鳥の名。形、まなごるに似て、腹
 黒く、背、脚をは、うすくろし。腹に、長き毛を垂れ、頭に、灰
 色の羽毛あり。袈裟。㉘
あなせ ㉘ 阿娘。あねの尊稱。㉙
あなせ ㉙ 阿娘。假に定めたる姉。義姉。
あなせ ㉚ 阿娘。姉のむすこ。
あなせ ㉛ 阿娘。二人以上ある娘のうちにて、最も年長
 なるむすめの稱。長女。
あなせ ㉜ 阿娘。かのにわたる。
あなせ ㉝ 阿娘。歩むまご。あしなご。㉞「黒あり。
あなせ ㉞ 阿娘。貝の名。はいに似て、小さく、殻厚くして、紫色の
 殻のたけ。阿娘多羅。「梵語佛敎の稱。このうへな
 きは、㉟
あなせ ㉟ 阿娘多羅。阿娘多羅三藐三菩
 提。梵語佛敎の稱。あのかたらさかみやくさんばだの親

あなせ

あなせ

あひだに 圖間。たまさかに。時として。まれに。ⓐ
あひだのむ 圖相頼。たのみあふ。互にたのむ。
あひだの 圖阿鼻地獄。佛教の語。八大地獄の一。最
 も苦惱の多き處といふ。あひ。無間地獄。
あひつ 圖合圖。號旗言證なきの暗號を以て、味方同志の消
 息を通ずること。
あひつり 圖相造。てつだひのすけ。
あひつり 圖相植。一互にうちあはする種。二話の調子を
 合すること。ⓑ
あひつち 圖相手。人のことばに、口をあはす。人の説に同
 ずりて。相共に、事をする一方の人。あひかた。
あひた 圖相弟子。同じ師につきて學ぶ人。てしなかま。
あひた 圖相手取。あひてこなす。かたきこなす。
あひた 圖爲相手。一事を共にす。まじはる。關
 係す。二あらしむ。いさみまは。からかふ。
あひた 圖相殿。あひたのたなじ。
あひた 圖相殿。たなじやしらに、ふた柱以上の神を、合
 祀すること。
あひた 圖相訪。互に、いひあふ。
あひた 圖相共。もろもろに。こももろに。
あひた 圖相投。角力の語。四十八手の一。一方が、上手
 にて投げんことを、さしきりて、すりこみ、背負ひて投ぐる
 こと。ⓓ
あひた 圖無間。へたてなし。あひたなし。區別なし。
あひた 圖相嘗。あひなめまつりの器。

あひた 圖相嘗祭。あひたのまつりにたなじ。
あひた 圖相馴。互になれあふ。
あひた 圖相贊。あひなめにたなじ。ⓔ
あひた 圖のまつり 圖相贊祭。神名式に相嘗がある社に、
 十一月の上の卯の日に、神祇より幣帛を奉らるる祭。ⓕあ
 ひたのまつり。
あひた 圖相寝。男女、ごもれをなす。 「あ
あひた 圖相盗。共に、たらかなるわざをすること。
あひた 圖相狂言。龍の間に、行ふ滑稽なる處
 ありのまつり。ⓖ
あひた 圖相楔。材、材とのあひだに打つくさ
 び。二定まれる事をなす間に隙を見てなす、他のわざ。あひ
 のつなぎ。
あひた 圖間子。一異なる人種の、まじはりてうみたる
 子。二これにあらす、それにもあらぬこと。ⓗ「ある里。
あひた 圖相宿。街道の宿屋、宿屋とのあひだに
あひた 圖相樂。あひのつなぎ。
あひた 圖相植。あひのつなぎ。「たなじ。
あひた 圖相間繫。一物、物とのつなぎになるも
 の。二定業の間に、なす他のわざ。ⓘ
あひた 圖相手。あひのつなぎにたなじ。二うたご
 うたごの間に、なす音曲。あひのつなぎ。
あひた 圖相飲。互に、飲みあふ。
あひた 圖相乗。一車なごに、共に乗ること。二あひのり
 ぐるまの器。

あひた 圖相乗車。二人にて乗らるる人力車。二
あひた 圖合例。判符の用に捺す印。 「人乗。
あひた 圖相番。一共に番すること。二共に番をする相
あひた 圖相火。互に、同じ火を用ゐること。 「手。
あひた 圖相日。ひまのある日。定まりたる仕事のなき日。
あひた 圖相引。一互に引きあふこと。二勝負をせすに、
 互にひき返ること。三男女の、密會して、情を通じあふこと。
 四互に、かたはひて、密かに助けあふこと。五務のものだち。
あひた 圖相引緒。務の、ひきあはせの緒。
あひた 圖相奉行。同様の奉行。
あひた 圖相節。あひたのまつり。加勢。
あひた 圖相棒。一かつかきのあひた。二轉じて、あひて
 したなじ。三心のあひたたるものだち。
あひた 圖相惚。男女の、互にしたひあふこと。
あひた 圖相間。あひた。あひ。すま。ひま。
あひた 圖相枕。あひたのたなじ。ⓐ
あひた 圖相舞。互に舞ふこと。 「いへ。
あひた 圖相見互。互に、扶けあふこと。わたがひ
あひた 圖相見。一互にみる。二互に逢ふ。あひ
あひた 圖相婿。妻の、姉妹の夫。 「あふ。
あひた 圖相嘗。あひたのまつりの祭。ⓑ
あひた 圖のまつり 圖相嘗祭。あひたのまつりにたな
 じ。
あひた 圖相持。一共にまつること。二共に、等分に負擔す
 ること。ⓓ

あひた 圖相魚。しほづけにしたる魚。
あひた 圖相役。同じ役をつとむるもの。同寮。
あひた 圖相舅。嫁、婿、双方の舅、舅が、互によぶ稱。
あひた 圖相宿。共に、同じ宿屋にやますること。同宿。合
あひた 圖相宿。あひのつなぎにたなじ。 「宿。
あひた 圖相鎗。一人の敵に對して、二三人の味方共
 に、鎗を以て戦ふこと。
あひた 圖相嫁。夫の兄弟の妻。 「あり。家門。
あひた 圖相鷲。鳥の名。形、かもに似て、大きく、足に、水かき
あひた 圖相鳥の名。あひのの轉訛。 「ふ。ⓔ
あひた 圖相阿附。一つらひつこと。二こびしたるがうら。
あひた 圖阿父。たなじのまつり。
あひた 圖相合。一かたはひ、これら、あひた、二つになる。二
 かなふ。適合す。圖相合。俗に、あひた。一ひつにす。あ
 はしむ。ⓕ二あはせまじふ。(食物にちよ)
あひた 圖相婚。男女相交はる。夫婦となる。契りを結ぶ。
あひた 圖相逢。人に、面をあはす。互に相みる。 「ふ。ⓖ
あひた 圖相製。酒、肴などを出だしてもてなす。ふるま
あひた 圖相致。たふ。しひてなす。推してなす。
あひた 圖相蝮。虫の名。蛇に似て、大きく、常に牛馬なごにつき
 て、血を吸ふ。種類多し。
あひた 圖相浴。俗に、あひた。湯、又は、水なごを我が身に
 注ぎかく。沐浴す。

あぶき扇。あぶきて、風を起し、涼を取るに用ゐる。竹又は木などを骨とし、かためにて束ね、末を廣げ、紙をはりて、をりたたくべく造りたるもの。すゑひろ。せんす。

あぶきあはせ扇。扇の形に開くあぶき。四手網の類。こりあはせて、勝負を定むる遊戯。

あぶきあひ扇。扇の形に開くあぶき。四手網の類。あぶきあひ扇掛。扇を、ひらきてかけたもの。

あぶきあひ扇貝。貝の名。一甲はなはだ厚く、外面に扇の如きみぞ五條あり。内面は白く滑かなり。形ほそながし。二玉たてがひにたなじ。三あひまきにたなじ。

あぶきあひ扇紙。あぶきに張る紙。扇の地紙。

あぶきあひ扇切。刀のつかに、扇を立て、その扇の、未だ地に落ちぬ間に、早く刀を抜きて、扇を切ること。

あぶきあひ扇棚。床の間に、扇の形の如くつる棚。

あぶきあひ扇垂木。あぶき形に開きたる垂木。神社などの軒に用ゐる。四方、六角、八角などの種類あり。た。

あぶきあひ扇使。扇を用ゐること。又、扇のつかひかあぶきあひ扇包。一扇を包む一種の仕方。二扇を包む二あぶきあひ扇包。

あぶきあひ扇面。開きたる扇の形に似たる顔。あぶきあひ扇の形をなせるもの。

あぶきあひ扇加。なすびの一種。形、扇くして、あぶきあひ扇の形をなせるもの。

あぶきあひ扇形。扇を開きたるが如き形。

あぶきあひ扇地紙。一あぶきあひにたなじ。二あぶきあひの形したる紋所。

あぶきあひ扇手風。扇にてあぶき風。あぶきあひ扇箱。扇を入れる箱。

あぶきあひ扇引。たたまたる扇の両端を二人して、拵指の食指にてはさみ、ひきあふ古の遊戯。

あぶきあひ扇拍子。扇をうち鳴らして、器また拵指の拍子をたたくこと。

あぶきあひ扇屋。扇を賣る家、また、その人。

あぶきあひ扇屋染。三角、四角、丸など、その他、種種の形の中に、花、鳥、人物などを染め出したる染模様。元祿のころ流行せり。今のいたじめの類。

あぶきあひ扇仰。一うへにむく。上のかたをみる。二たふこ。へりくたたる。

あぶきあひ扇扇。扇子、團扇など、その他、すべて薄き平たきものを、うちふりて、風を出す。

あぶきあひ扇搏。くゆる。けがる。

あぶきあひ扇泡。あむにたなじ。

あぶきあひ扇泡錢。男せすして得たる金錢。

あぶきあひ扇逢期。あぶき時。あぶき機。

あぶきあひ扇逢坂草。草の名。高さ七八寸ばかり、莖の節黒し。夏、赤、または、白の花を開く。

あぶきあひ扇遺。あぶきの類。

あぶきあひ扇強。しひて。あなごちこ。あぶきあひのもの。

あぶきあひ扇押字。名乗の字を、一種の草體に寄して書き、甲

あぶきあひ扇のねにな きてつちた せせすしき こけくきか たなういあ

あぶきあひ扇壓状。一人を嚇して、むりに書かす文。

あぶきあひ扇處。くはみ。こみ。

あぶきあひ扇押署。印をたし名をかきしする。

あぶきあひ扇遺。あぶきの類。

あぶきあひ扇浴。俗に、あぶせる。一水、又は、湯なを注ぎかく。二張ひて、人に負はす。張ひて、人にかぶらす罪を、他人にあぶせて。

あぶきあひ扇。土なを寄ひ運ぶ具。

あぶきあひ扇頰浮陀陀。佛敎の調。入寒地獄の中に、木の名。高さ、一丈餘に達す。葉は、南天に似て、周りに刻みあり。夏、五葉の、淡紫色なる花簇り開き、尤き實を結ぶ。せんだんの木。二葉は紫、葉は淡紫なるかさね

あぶきあひ扇棟陰。あぶきの木の下かげ。「の色目。

あぶきあひ扇棟原。あぶきの林。「なるい。

あぶきあひ扇押着。わがままにて、正直ならぬこと。狡猾あぶてり押丁。監獄署にありて、罪人をこりあつかふ人。看守の次の殺人。

あぶきあひ扇踏來。またき来る。

あぶきあひ扇危危。危く思ひながら。

あぶきあひ扇危。俗に、あぶない。あぶふしにたなじ。

あぶきあひ扇仰。あぶのくに。

あぶきあひ扇仰。あぶのくに。

あぶきあひ扇。草の名。一高き三四尺ばかり、葉は、五稜をな

して、周りに、刻みあり。春、五葉の花を開く。後、實を結ぶ。種類多し。二かもしあぶにたなじ。三かもしあぶにたなじ。四かまねの色目。葉は薄青く、葉はうすむらさきなるもの。ただ、葉なりともいふ。五徳川氏の定紋。園内に葵の葉三つを組み合せたるもの。六そはをいふ。女の調。

あぶきあひ扇。貝の名。あはひにたなじ。

あぶきあひ扇葵葉。かさねの色目。あぶにたなじ。

あぶきあひ扇葵葉。一かもしあぶを、冠にさし、又は、みずのかざりなみに用ゐる。

あぶきあひ扇。徳川時代に、奥女中なさが、四月の一日の酉の日にかしらに、葵の花をさすこと。

あぶきあひ扇葵貝。貝の名。形たこぶねに似て、紋の筋しげく、かもしあぶの如き形をなす。

あぶきあひ扇葵草。草の名。かもしあぶにたなじ。

あぶきあひ扇葵草。草の名。葉は、れんぜんさうに似て小さく、節毎に、一葉一花をつく。花は、五葉にて、小さし。

あぶきあひ扇葵座。兜の裏座の形の名。

あぶきあひ扇葵醬。あはひを、ほろぎりにしたるもの。

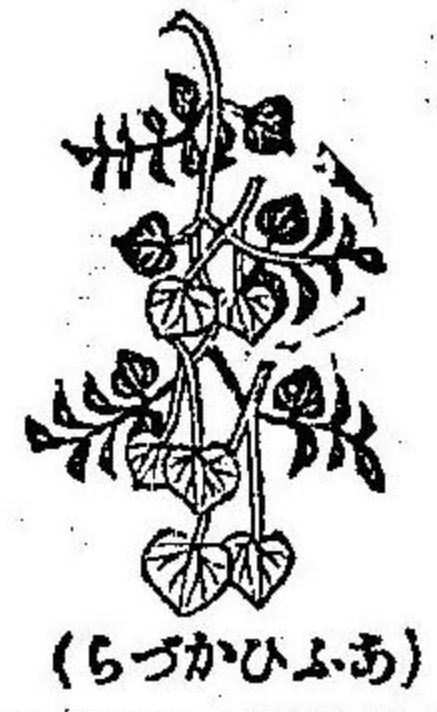
あぶきあひ扇葵鏡。葵の花の如き形をしたる、刀のつば。

あぶきあひ扇葵祭。山城國高梁の神社の祭。陰曆四月の中の酉の日に行ふ。「葵の紋あり。

あぶきあひ扇葵豆。いんげんまめの類。細辛の葉に似て、

あぶきあひ扇葵柄。馬りたかぶさる。敬徳。尊大。

あぶきあひ扇。足踏の響くら馬に乗るとき、足をふみかくる馬具。



(らづかひふあ)

あぶきあひ扇のねにな きてつちた せせすしき こけくきか たなういあ

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡紫陽花。草の名。あぶらあじの一種。花のつくところ。表。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江表。近江國蒲生郡近江より産する。表。

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡頭。後頭部の方のさしひいてたる頭。

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡瓦。あぶらあじの如き形をしたる瓦。からくさかばら。

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡貝。貝の名。あぶらあじに似て、殻厚く、色大津より産す。根、大なるは、直徑七八寸に至る。根の先端は、三つに分岐す。すわりかぶら。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江蚊帳。近江國飯田郡より産する。かや。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江鏡。あぶらあじの形をしたる鏡。草を刈る時に用ひる。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江晒布。近江國より産する。さらし織。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江菅笠。近江國より産する。すげ笠。

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡磨。馬の腹腹の、あぶらあじのあたる部分の。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江路。近江國のみち。「調。承經肉。

あぶらあじあぶらあじ 図 鏡釣。馬具の名。あぶらあじをつる鏡。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江節。近江國の始めたる俗講の節。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江鮒。魚の名。近江國琵琶湖に産する。鮒。源五郎鮒。

あぶらあじあぶらあじ 図 近江令。天智天皇の時、唐制に准じて制定せられ、持統天皇の時に頒布せられし法令。

あぶらあじあぶらあじ 図 仰。上にちく。あぶらあじ。調。調。調。俗に、あぶらあじ。あぶらあじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 亞芙蓉。草の名。けしにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 阿芙蓉油。あぶらあじより取りたる油。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂。すく、動物の體中より出づる、滑かなる液。

あぶらあじあぶらあじ 図 油。一種物の種子なからより絞りたる滑かなる液。燈火に用ひ、又は食用、藥用など。二田の名。あぶらあじ。あぶらあじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油揚。すく、油にてあげたるもの。二時。あぶらあじ。あぶらあじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂足。足の底に、あぶらあじの多く出づるもの。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂汗。苦しき時にいづる汗。

あぶらあじあぶらあじ 図 油石。礦物。「黒褐色にして、油の如き光澤ある石。美濃國に産す。二せきたんにたなじ。三揚きたる米の中にまじはれる、黄色の小さき石。

あぶらあじあぶらあじ 図 油痛。あぶらあじにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油飯。麻油を以て炊きたる飯。

あぶらあじあぶらあじ 図 油熬。すく、食物を、油にていりつくこと。又、そのいりつけたる食物。

あぶらあじあぶらあじ 図 油入。油を入るる器。

あぶらあじあぶらあじ 図 油色。種油の如き赤はみたる黄色。

あぶらあじあぶらあじ 図 油賣。油をうる商人。二なまけものにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油落。礦物。すく、黄色にして、黒點あり、柔かなる石。

あぶらあじあぶらあじ 図 油滓。菜種より、油をしぼりたる残り。

のねぬにな ごとつちた そせすしき こけくきか ねぬういあ

あぶらあじあぶらあじ 図 回脂上。「醫藥にのみて、身體が、充分に發達す。二事をなすに、氣が加はる。

あぶらあじあぶらあじ 図 油紙。油をひきたる紙。

あぶらあじあぶらあじ 図 油瓶。油を入るる瓶。

あぶらあじあぶらあじ 図 油萱。草の名。葉は、すすきに似て、小さく、色は、黄緑色にして、しほれば、油のにほひあり。夏赤く黄ばみたる根を出だす。みぢや。

あぶらあじあぶらあじ 図 油體。あぶらあじの多き身體。

あぶらあじあぶらあじ 図 油木。木の名。あぶらあじにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油菊。草の名。菊の一種。野生す。葉、葉、葉、葉にして、黄色の花をひらく。野菊。

あぶらあじあぶらあじ 図 油虫。虫の名。はたわりの一種。色、黒褐色なり。

あぶらあじあぶらあじ 図 油絹。油をひきたる布帛。

あぶらあじあぶらあじ 図 油桐。木の名。桐に似て、葉に尖あり。葉は、圓く扁く、捲りて、桐油を製す。やまぎり。ど、やまぎり。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂多。脂多くなり。二脂の如き汗が。

あぶらあじあぶらあじ 図 油氣。あぶらあじの氣。油の味。しつ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油揚。あぶらあじの製。

あぶらあじあぶらあじ 図 油糸。油をひきたる麻糸。

あぶらあじあぶらあじ 図 油濃。俗に、あぶらあじ。あぶらあじ。あぶらあじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油胡麻。二葉の黄色なるもの。

あぶらあじあぶらあじ 図 油尺。油を量るに用ひる尺。「しつ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油注。油を、油皿に注ぐに用ひる器。あぶらあじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 燈蓋。油をもち、燈心を入れて、火をこもすに用ひる皿。

あぶらあじあぶらあじ 図 油芝。草の名。あぶらあじをいふ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油染。物に、油のしみつくこと。又、油のしみつけたる物。

あぶらあじあぶらあじ 図 油祝。嫁せし娘のまごに、慶喜に、麻の油を送る時、女の家に、餅をつきて祝ふこと。岩代國栗川邊の風俗なり。

あぶらあじあぶらあじ 図 油捲。油をしぼりたる具。

あぶらあじあぶらあじ 図 油障子。雨を防ぐために、障子の紙に、食ふべからず。

あぶらあじあぶらあじ 図 油障子。雨を防ぐために、障子の紙に、油をひきたるもの。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂尻。鳥の尻のこころにある肉なりといふ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油蟬。虫の名。なはせみにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂玉。脂のこけたるが、水ならに浮びて、玉の如き様をなすもの。

あぶらあじあぶらあじ 図 油樽。油を入るる樽。「ねんじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 油地獄。罪人などが、油にていりつけらるる地獄。

あぶらあじあぶらあじ 図 油注。あぶらあじにたなじ。

あぶらあじあぶらあじ 図 脂著。つややかなる。

あぶらあじあぶらあじ 図 油轆。車なかごの、油をわりたるもの。

あぶらあじあぶらあじ 図 油壺。油を入るる壺。

あぶらあじあぶらあじ 図 油手。あぶらあじの多き手。

をふあわ ろれるり ぶゆや もめんむみ ぼへふひほ

あぶらひの油手。油によじられた手。①
あぶらひの油照。曇りて、風なく、むし暑く照りつくる。②
あぶらひの油德利。油を入るる德利。③
あぶらひの油菜。草の名。みつなり類。葉互生す。春の末、四葉の花をひらき、實より油を搾りたる。④
あぶらひの油主油司。古、官内省に屬して、諸國より調進する油を司りし役所。後、内膳司に合併せらる。⑤
あぶらひの油棚砂。硝物。あぶらけを含みて、色の黒きやつし。⑥
あぶらひの油火。こぼし油に、燈心を浸してこぼす燈火。⑦
あぶらひの油脂肉。肉の、あぶら多き部分。⑧
あぶらひの油油塵。金具なきを油にて、滑らかにみぢ。⑨
あぶらひの油油虫。虫の名。①長さ一寸ばかり、口に、利齒あり。全身、油色にて、臭氣を帯ぶ。つのもじ。②ありまきをいふ。東京の語。③こがねむしをいふ。東京の語。④すて、人につまみこひて、妨をなす人。⑤五すけんにたなど。⑥す油を持つ提者。⑦
あぶらひの油油守。古、殿中にて、燈火を司りし女官。⑧
あぶらひの油油屋。①油をあきなふ家、またその人。②子供の衣服をけがすを防ぐために、胸の邊よりまきふ布。③
あぶらひの油油綿。①髪にかりて、光澤をいだす油。②油のしみたる綿。③
あぶらひの油油繪。まのぐに、みつたの油を加へて、布などに染がく一種の繪。西洋より傳ふ。④

あぶらひの油油取。わが上に立つ者の見ぬ處にて、後を盗む。①
あぶらひの油油取。一人を賣めて苦ましむ。②
あぶらひの油油取。二馬の兩端を繋ぐ具。多く、草しめて後來を注意す。③
あぶらひの油油。①あぶらひの油。②馬の兩端を繋ぐ具。多く、草にて製す。③
あぶらひの油障泥烏賊。魚の名。いかの一種。形、大きく、肩邊に、肉のへりあり。味、美なり。④
あぶらひの油焙籠。あぶらひの油。①西南に位す。②
あぶらひの油焙籠。火桶の上にたはひて、沾りたる衣類を乾し、又、温むるに用ゐる籠。ふせこ。③
あぶらひの油炙子。物を炙り焼く用ゐる鐵の網、又は鐵。④
あぶらひの油焙殺。火あぶらにして殺す。やきこつす。⑤
あぶらひの油炙出。紙に、酒又は橙の汁を用ひて、蓋なきをかきたき、火に炙れば、その蓋の現はるるやうにせるもの。⑥
あぶらひの油安不利戸。うすき板の戸なりといふ。⑦
あぶらひの油焙豆腐。やき豆腐をいふ。徳川時代のあぶらひの油。炙りたる矢の籠。⑧
あぶらひの油炙物。炙りたる魚肉、やきやかな、やきもの。⑨
あぶらひの油押領使。古、盜賊等を鎮むるために、諸國に遣はされたる使の官人。⑩
あぶらひの油。籠をふみて、馬を登がす。⑪

あぶらひの油 せすしき こけきか ねういあ

あぶらひの油燭。①扇子、團扇、その他、うすくひらたき物を動かして、風を起す。②風をたくりて、火勢をさかんにする。③ただつ。せんだうす。④酒を多く飲む。暴飲す。⑤團扇ひるがへる。風に動く。⑥
あぶらひの油燭。俗に、あぶらひの油。あまりうすくはなれり。⑦
あぶらひの油燭。火にて乾かす。⑧
あぶらひの油燭。①俗に、あぶらひの油。②あぶらひの油。③二燈に燃る。不用になる。④
あぶらひの油燭。利益のなきこと。手の内の、空しくなること。⑤
あぶらひの油燭。秋の頃の蚊。⑥
あぶらひの油燭。一定の住所、又常職なくして、無法なる事をのみなす人。やぐさの。⑦
あぶらひの油燭。酒肴ならしてたすこと。⑧
あぶらひの油燭。あぶらひの油。⑨
あぶらひの油燭。顔のむがの。⑩
あぶらひの油燭。あぶらひの油。⑪
あぶらひの油燭。①はたもちにたなじ。駿河國安倍川邊の名物。②餅をやき湯にひたし、砂糖を入れたるきなごにまぶしたるもの。③
あぶらひの油燭。息を切らす。つかれて、せはしく呼吸す。④
あぶらひの油燭。あぶらひながら。あぶらひつ。⑤
あぶらひの油燭。はたいた。さかねた。うらうら。⑥
あぶらひの油燭。ひしはたな。⑦

あぶらひの油燭。①答ふ。あひさつす。②もてなす。③あつたふ。④蒸す。⑤三つりあはす。⑥蒸す。⑦あつたふ。⑧木の名。くねんはにたなじ。⑨
あぶらひの油燭。あぶらひの油。⑩
あぶらひの油燭。魚肉を切り交へたる料理。なた。⑪
あぶらひの油燭。せりこ。⑫
あぶらひの油燭。はりあひなし。かひなし。たのみな。⑬
あぶらひの油燭。共につらぬく。交へつらぬく。⑭
あぶらひの油燭。魚に、鱗節を削り交へて、酒にひたせる料理。⑮
あぶらひの油燭。けしの實の汁を取り、乾して製したる刺。麻酔性の臭氣、及び、はげしき苦味を帯ぶ。精製すれば、もろひなる。⑯
あぶらひの油燭。鴉片を入れて製したるたはこ。人身に害あり。⑰
あぶらひの油燭。あによめ。⑱
あぶらひの油燭。もろをいふ。豊後國の方言。⑲
あぶらひの油燭。あふこにたなじ。⑳
あぶらひの油燭。あふひにたなじ。㉑
あぶらひの油燭。海にて、漁りを業とする人。漁人。泉郎。㉒
あぶらひの油燭。二女の法師。二女をのしりていふ稱。㉓
あぶらひの油燭。かまのの煙のかかる處。㉔

あぶらひの油 せすしき こけきか ねういあ

あまのつみのつみ 雨乞使。古、神泉廻にて、あまのつみに、五階塔を行はせられたり。その時使者にたつ者。六位の禪人、これを務む。

あまのつみのつみ 雨乞蟾蜍。虫の名。あまのつみに同じ。

あまのつみのつみ 雨乞祭。雨乞のために行ふ祭。

あまのつみのつみ 雨籠。雨のために、外に出でずして、家に籠る。

あまのつみのつみ 天衣。天人の着る衣。①「り居る」のつみ。

あまのつみのつみ 尼衣。僧人の着る衣。

あまのつみのつみ 雨装束。雨のふる時の装束。雨の日のよ。

あまのつみのつみ 雨道。さかさまにたなじ。

あまのつみのつみ 天離。遙かに、遠くはなる。遠き方にあ。

あまのつみのつみ 鳥の名。さぎの一種。形、通常の鷺より、やや小。

あまのつみのつみ 青柑。草の名。さかさまにたなじ。

あまのつみのつみ 甘酒。飯に、麹を交せて、蒸して醸せる酒。味、甘くして、酔ふことなし。さかさまにたなじ。

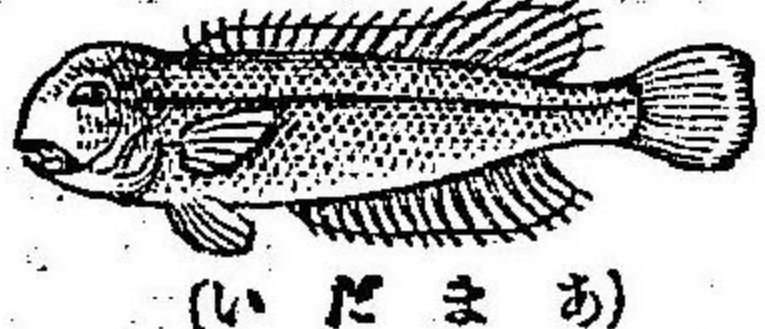
あまのつみのつみ 雨障。雨に妨げられて、家にいれず、雨にさらすこと。

あまのつみのつみ 雨刺。餘りさの器、あまのつみにたなじ。

あまのつみのつみ 雨曝。物を、雨のかかるに、うち任せたくこと。

あまのつみのつみ 甘。俗に、あまじ。砂糖の味あり。しほの味、すくなく。二におし。よむし。三つよからすあり。堅からす。

あまたたひ 數多度。たびたび。しはしは。いくさも。あまたたひ 數多所。澤山の處。たほくのころ。あまたたひ 甘鯛。魚の名。一鯛の類。大は一尺ばかり。鯛に似て、口尖り、鱗小さし。二たひをいふ。畿内、西國の方言。あまたたひ 天玉。礫物。こはんに同じ。あまたたひ 數多夜。多くの夜。あまたたひ 天足。みちたり給ふ。あまたたひ 雨滴。あまじたりたなじ。あまたたひ 承露。あまたたりをさくこと。あまたたひ 甘。俗に、あまたたる。あまたの、見供の動作に、二におし。



いだまあ

あまたたひ 雨滴。あまじたりたなじ。あまたたひ 雨垂落。あまたたれの落ちる處。あまたたひ 天路。そのみち。大ま。あまたたひ 甘茶。一きあまぢや、又は、きあまぢやの葉を煎じたる汁。四月八日の灌佛に用ゐる。二草の名。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 天津磐境。神をいはひまつる處。

あまたたひ 天津風。大空をふく風。天上の風。

あまたたひ 天津金木。ちひさき木の枝。①

あまたたひ 天津神。天にいます神。あめの神。

あまたたひ 天津雁。空をこぶ雁。あまたたひ 天津狐。古、東方より、西方に流れて、その所の賢龍の如くなりきいひ妖鬼。①あまたたひ 天津霧。その霧。②「はら。あまたたひ 天津雲居。わはせらにたなじ。あまたたひ 天津位。天皇のみくら。あまたたひ 天津漬。鹽を小量に入れ甘くしてつけたる漬物。あまたたひ 天津聲。天よりくたる聲。神、または、天人な。

あまたたひ

あまたたひ

あまたたひ 雨支度。雨にたなれたりの用度。あまたたひ 雨滴。雨の軒たより落ちるもの。①あまたたひ 雨霏。雨のしづく。雨じたり。あまたたひ 雨淡鹽。鹽氣のうすき。②「の露」のつみ。

あまたたひ 雨濕。雨にて、物のしめること。雨天に物、あまたたひ 雨餘者。もてなやむ程の、ちるまもの。二あまたたひ 雨障子。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨装束。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨餘。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨尼姿。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨御前。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨尼削。髪を肩の程にて切りたこと。

あまたたひ 雨天簾。葉の高く舞わたること。

あまたたひ 雨雨滴。雨のしたたり。雨のしづく。

あまたたひ 雨天簾。空中にそびゆ。

あまたたひ 雨尼刺。あまたたひにたなじ。

あまたたひ 雨數多。多くのたぐさんに。甚しく。たひ。あまたたひ 雨數多返。いくへんも。いくさも。あまたたひ 雨數多具。多くのそろひ。一そろひになりたる裝束などの多くあること。①

あまたたひ 天津雁。空をこぶ雁。あまたたひ 天津狐。古、東方より、西方に流れて、その所の賢龍の如くなりきいひ妖鬼。①あまたたひ 天津霧。その霧。②「はら。あまたたひ 天津雲居。わはせらにたなじ。あまたたひ 天津位。天皇のみくら。あまたたひ 天津漬。鹽を小量に入れ甘くしてつけたる漬物。あまたたひ 天津聲。天よりくたる聲。神、または、天人な。

あまたたひ 天津雁。空をこぶ雁。あまたたひ 天津狐。古、東方より、西方に流れて、その所の賢龍の如くなりきいひ妖鬼。①あまたたひ 天津霧。その霧。②「はら。あまたたひ 天津雲居。わはせらにたなじ。あまたたひ 天津位。天皇のみくら。あまたたひ 天津漬。鹽を小量に入れ甘くしてつけたる漬物。あまたたひ 天津聲。天よりくたる聲。神、または、天人な。

あまたたひ

あまのつばき 天津祝詞。のりこの尊調。
あまのつばき 雨燕。鳥の名。「形、あまよりより大きく、翅は、尾よりながし。全身黒く、足短かし。空くもれば、群飛して、小壺をとりて食ふ。」あまよりにたなじ。
あまのつばき 天日。こもりん。ひ。太陽。
あまのつばき 雨粒。あまよりにたなじ。
あまのつばき 天津日嗣。天皇のみくらゐ。天位。
あまのつばき 天津人。あまよりにたなじ。
あまのつばき 天津神籬。ひもろぎの尊調。
あまのつばき 天津領巾。天女のひれ。なほ。
あまのつばき 雨粒。あめのつば。
あまのつばき 天津星。そらのほし。天上の星。
あまのつばき 天津朝。みかきの尊調。皇朝。
あまのつばき 天津雲星。あまよりにたなじ。
あまのつばき 天津水。あめ(雨)の雲調。①ひ。②あまのつばき 天津御量。あまつかみの御はから
あまのつばき 天津宮事。あまつかみのしわざ。
あまのつばき 天津女。あまつかみのむすめ。
あまのつばき 天津社。あまつかみの社。
あまのつばき 案摩面。器物につけたるこりて。
あまのつばき 甘葛。一草の名。深山に生ず。葉は、藤園にて、銀色あり。蔓の末に、小さき白花集まり開く。あまより。干散。あまのつばきを煎じたる汁。古砂羅に代へて用ゐる。

あまのつばき 天津少女。一天上にすむとていふ雲像のこめ。てんによ。三五節の時のまひひみの綱。
あまのつばき 尼寺。尼の居る寺。
あまのつばき 天照。あまてるの尊調。圓圓天が下さしめし給ふ。
あまのつばき 天照。空にてる。
あまのつばき 雨戸。家のめやりにたつる。
あまのつばき 雨胴服。あまはたりにたなじ。
あまのつばき 天飛。あまよりにたなじ。「たなをまに
あまのつばき 雨鳥。鳥の名。燕に似て、腹、黄色に、翼の如き斑紋あり。雨のふらんとする時に、群飛す。
あまのつばき 甘菜。凡て、味の甘き蔬菜の類。なづなの類。
あまのつばき 山慈姑。草の名。葉の形、水仙に似て、葉の同より、莖をたし、莖の末に、六瓣の白き花を開く。
あまのつばき 甘納豆。ゆであつたを、砂糖にて煮つめ、白砂糖にてまぶしたる菓子。
あまのつばき 圓圓諾。聞きさる。うたなふ。うけひく。①圓圓諾 仲をよくせしむ。②あまのつばき 圓圓遍。行き渡りてあり。至らぬ處なし。
あまのつばき 圓圓遍。あまねくせしむ。あまねくす。①あまのつばき 天野。あまのつばきの野。②あまのつばき 天磐船。神代に、楳にて造りたる舟。天上にての御舟。

あまのつばき 天石橋。堅牢なる神代の橋。
あまのつばき 天岩戸。あめのいはやにたなじ。
あまのつばき 天磐船。堅牢に造りたる神代の船。
あまのつばき 天磐靱。堅牢に造りたる、神代のつばき。
あまのつばき 天浮橋。天地の間にかかれりこいふ。①神代の橋。紙にて作り、山形に、鱗の形をさげるものなり。②あまのつばき 天垣田。周圍に、限りをつけたる、神代面の如き畑ある、矢の羽。
あまのつばき 天河。小き遊星が集まりて、秋の晴れたる夜の空に、一帯の河の如く見ゆるもの。銀河。
あまのつばき 天河津。あまのがはの津。①あまのがはの河の河口。②あまのがはの河守。あまのがはの河守り。
あまのつばき 天河原。あまのがはのかはら。
あまのつばき 蟹子。あまにたなじ。①漁夫の子。②漁夫の子。あまにたなじ。
あまのつばき 天逆手。上代に、呪の時の拍子の作法。
あまのつばき 天逆鈴。神代のほこの名。「酒。
あまのつばき 天野酒。河内國天野といふ地より産する酒。一人の意に逆ひて、わが心のままにふるまふ。①二兩金剛の踏まへたる悪鬼の稱。あまのつばき。
あまのつばき 天狹田。周圍の狭き、神代の田。①

あまのつばき 天小夜橋。あまの河にかけてありしやうし。
あまのつばき 釣蒙駝。虫の名。長さ一寸ばかり。形、むかでの如く、黄白色なり。頭は、赤黒し。常に、地上に、小光を造りて接ぎ。にふたうむし。むむし。
あまのつばき 蟹拾草。漁夫が、焼き捨てたるものしほの灰。①は。②あまのつばき 蟹栲繩。蟹の、網につけたるたくなあまのつばき 天甜酒。神代の酒。味のよきもの。①あまのつばき 天血垂。あまのみすにたなじ。②あまのつばき 蟹刀禰。漁人のをさ。③あまのつばき 天長田。周圍のひろき、神代の田。④あまのつばき 蟹繩手繰。漁人の如く、栲繩をたぐりて。古今集「あまのなはたき漁りせん」とは「あまのつばき 天瓊矛。玉にて飾れる、神代の矛。①あまのつばき 天羽衣。一人の着る衣。②神の御衣。③天皇が、神事のため、御身を、湯にて淨め給ふ時の御服。
あまのつばき 天羽袖。天の羽衣のそで。①あまのつばき 天羽鞆。神代、ふいこの如くにして用ひたるものなりといふ。
あまのつばき 天羽裳。神の御衣の裳。②あまのつばき 天原。昔く、天上をさしていふ稱。たはぞ

あまのつばき 天原のつばき

あまのつばき 天原のつばき

あんかけらん

あんかけらん 餡掛餛飩。あんかけにしたるうぜん。
 あんかけらん 餡掛豆腐。あんかけにしたるうぜん。
 あんかのち 安家之資。ふちをあてがふこと。
 あんがふ 暗合。物事の期せずして自然にあふこと。
 あんかんき 安閑。なすことなして。
 あんき 安気。こころやすきこと。うれひのなきこと。
 あんき 暗記。そらたはる。きなく。
 あんき 安行脚。「字の宋音」佛敎の語。僧の、暗圖をあぐりて、佛道を修行すること。
 あんき 安行脚僧。行脚をする僧。
 あんき 安居。あんきにくだすこと。
 あん 暗愚。甚しく、たろかなること。ほか。
 あん 行宮。「字の宋音」天皇の行幸のとき、所在に、かりに設けらるるかりみや。行在所。
 あん 暗君。たろかなる主君。「じふ」
 あん 行火。他に心をうははれて、茫然と、口を開くさまに。「字の宋音」足を暖むる道具。あしあが
 あん 安臥。やすらかにふすこと。「り」
 あん 案外。かねての懸想にちがひて。思ひのほかに。存外。意外。
 あん 鞍橋。くらぼねにわたすこと。吟味。

あんざん

あんざん 案件。こごらをかんがへしらぶること。
 あんざん 暗剣殺。九星の中の、ある星の指す方の種。極めて悪しき方位なりこと。
 あんざん 暗黒。あんざんにわたすこと。
 あんざん 暗黒。くらきこと。くらみ。
 あんざん 暗黒餅。餅の上に、餡をかりつけたるもの。二かかみに倒れて、全身泥まみれになること。
 あんざん 安座。安らかにすわりをること。二あぐらをかきてをること。
 あんざん 案罪。罪を考へしらぶること。
 あんざん 行在。「字の宋音」あんざんにわたすこと。
 あんざん 暗行在。あんざんにわたすこと。
 あんざん 暗殺。人しれず殺すこと。やみうち。「暗」
 あんざん 按察。こころしらぶること。吟味。足利時代の
 あんざん 按察使。あざんにわたすこと。
 あんざん 暗算。「心の中に見らるること。二胸の中にて計算すること。むなざん。心算。
 あんざん 安産。安らかに、子をうむこと。

あんざん

あんざん 案山子。かかしに木なじ。
 あんざん 安産樹。木の名。熱帯地方に産す。葉は、よめなに似て、小さく厚し、枝は、分岐して、内方に巻き屈む。俗に、産婦これを所持すれば、安産すこと。
 あん 案紙。したがきに用ゐる紙。原稿用紙。
 あん 案。一考へあんすること。二氣づかふこと。
 あん 案室。あんじつのかみ。
 あん 案室。光線が、少しも通はぬやうに作れる。
 あん 案室。世をのがれたる人のすまゐ。いほり。
 あん 安身。身に、つらきことのなきこと。あんらく。
 あん 安心。心配のなきこと。心の安らかなること。二佛敎の語。生死のさしりをひらきて、心に、たそれの無きこと。
 あん 安針手。磁石の針を按じて、船の進路をあんしりあめり。安立命。佛敎の語。生死のさしりを明きて、來世の安心をはかること。
 あん 安射。そらにさし示すこと。「にめるもの」
 あん 安行者。僧になるべき人の、未だならずして、寺あんらくく。暗弱。身體よわくして、性質のたろかなること。
 あん 安草。草の名。西洋種の石竹の一種。長大にして、八重の紅白の花をひらく。
 あん 安主。たろかなる主人。
 あん 安主。廃室のあるじ。

あんた

あんた 案主。記録のこごらをかざる武家の後名。
 あんた 暗誦。佛敎の語。あんじょうにわたすこと。
 あんた 暗誦。そらよみによむこと。
 あんた 暗誦。佛敎の語。佛敎のみをならひて、教相を知らざる禪師。
 あんた 杏子。宋音。木の名。幹、枝、葉、ともに、梅に似て、花は、淡紅なり。葉は、梅に似て、味、甘く酸し。からも。配す。きつか。
 あんた 杏子梅。木の名。梅の一種。花は、一重にして、その色、淡紅なり。實は、酸味すくなこと。
 あんた 安静。たろついであること。
 あんた 安生。安らかに生活すること。
 あんた 暗礁。海面の下にかくれてある礁石。「暗」
 あんた 安全。つつがなきこと。無事息災なること。安
 あんた 安全燈。かなあみにて、周りを封じたる燈。鐵山などに用ゐる。
 あんた 安鼠。鼠の名。むぐらもち。
 あんた 安息。葉をなさせして、やすらかに休むこと。
 あんた 安息香。熱帯地方に生ずる樹の脂なり。むぐらもち。また、防腐、消毒などに用ゐる。
 あんた 安息日。耶敎の語。日曜日の稱。
 あんた 安んた。あなたにわたすこと。京都、大阪の語。

あんだ

あんだ 図 安妥。このふるごと。

あんだ 図 安藤。あんだら。京都、大阪の語。

あんだ 図 安藤。罪人、又は、手負人など

を乗せて荷ふに用ゐる具。藁は、竹をあ

みてざるなどの如くに造る。

あんだ 何乎。なにこか。なんだ。

関東の方言。

あんだ 図 安泰。恙なきこと。平安。

あんだ 図 安。うんでれ。あんだ。京都、大阪の語。

あんだ 図 安。はかばかしにたなじ。京都大阪の語。

あんち 図 安。すまなくこと。

あんち 圖 闇地。それさなく。ひそかに。

あんち 図 兄人。あにぢやひごにたなじ。

あんち 図 安質母尼。英語 Antimony, 礦物。白

色にして、錫の如き金屬。

あんち 図 闇中。くらやみのなか。

あんち 図 菴住。いほりに住むこと。又その人。

あんち 図 味甘。あちよくの音便「あんはいよく。上

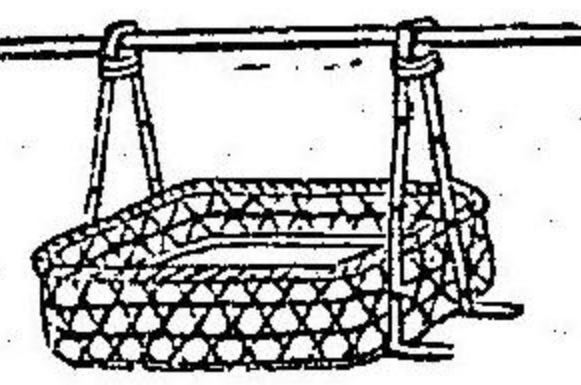
手に。京都、大阪の語。

あんで 図 安定。その場所にちちつくこと。

あんで 図 行殿。「字の宋音あんでにたなじ。

あんで 図 安堵。圖を安らかにすること。

あんで 図 安堵。心のちちつくこと。



(だんあ)

あんのほか

あんのほか 図 行燈。あんのほかにたなじ。「あすき。

あんのほか 図 安藤。伊勢國の津にて造る陶器。あこ

あんのほか 図 安堵奉行。將軍の代がはりの時、臣下

等に所領を改めて賜ふことあり。その事なきをつかさどりし

武家の後。

あんのほか 図 行燈。字の宋音「木にて、わくを造り、紙を

はり、中に油皿をたきて、燈火をさす具。

あんのほか 図 彼様。あのやうなる。かのこき。

あんのほか 図 案内。一文案のなかにある意味。事案。二物

事の内情。三つびき。みちびき。四しらせ。たごつれ。置ま

ねき。招待。

あんのほか 図 案内者。てびきをさする人。

あんのほか 図 案内状。「事をつけしらす書。二人を

招待する時のてびき。

あんのほか 図 足牛。あしなかの駝。

あんのほか 図 案。かねてよりの考に。推量に。

あんのほか 図 如案。推量の如くなる。案。

あんのほか 図 杏仁。「字の宋音」あんのほかにたなじ。

あんのほか 図 遊女。うかれめをいふ。伊勢國山田の方言。

あんのほか 図 安寧。やすらかなること。安泰。安全。

あんのほか 図 姉。一姉をいふ。九州の方言。二下婢をいふ。

九州の方言。

あんのほか 図 案内。あんのほかにたなじ。

あんは 図 鞍馬。鞍をきたる馬。

あんは 図 按排。「物事を、順序よく定むること。二料理

のあちかげん。鹽梅酢。三病氣の容體。

あんは 図 鹽梅酢。かげんして、味をつけたる酢。

あんは 図 安否。かはりあること。なきこと。

あんは 図 餡餅。あんを入れたるもち。

あんは 図 安不。あんにたなじ。

あんは 図 按摩。腹をもみさするわざ。

あんは 図 安分。我が本分に満足して居ること。

あんは 図 魚肉。はんべんのやうにこしらへたるもの。

又、尤く、平たきはんべんのやうなる物に、葛だまりをかけた

あんは 図 安平。かはりなきこと。「あをいふ。

あんは 図 砂糖なまを包むに用ゐる。

あんは 図 安本丹。「たろかなる人の稱。まねけ。は

か。のろま。二魚の名。かきいをいふ。東京の語。

あんは 図 按摩。「身體をもみさすりて、惡血なまをちら

し、病を療治する法。二あんまじりの器。

あんは 図 鞍馬。あんにたなじ。

あんは 図 按摩取。あんまの療治を業とする人。

あんは 図 餘。あまりの語。

あんは 図 庵摩勒。木の名。花は、朝明き、夕に萎む様、

たなじ。

あんのほかにたなじ。春、粟粒のこころを黄花を閉きて、蜂を結ぶ。

あんのほかにたなじ。やすらかに眠ること。やすやすと眠る

こと。うま。

あんのほかにたなじ。ひかりのなきこと。くらやみ。

あんのほかにたなじ。唇のうらなひの法の一。

あんのほかにたなじ。凡て、もち類をいふ。見供の語。

あんのほかにたなじ。一餅の中に、餡をつつみたるもの。二

あんのほかにたなじ。見供の語。二餅でして、足さる。見

供の語。

あんのほかにたなじ。「梵語」あんにくわにたなじ。

あんのほかにたなじ。苦勞のなきこと。

あんのほかにたなじ。椅子の一種よりかかれは、

脚のかたの動くやうにつくり、又は、腰に長くして、臥すべく

つくたるもの。

あんのほかにたなじ。なんすな。なんすな。

あんのほかにたなじ。佛敎の語。二へんて

たなじ。

あんのほかにたなじ。

あんのほかにたなじ。

あんのほかにたなじ。

あんのほかにたなじ。

あんのほかにたなじ。

あんのほかにたなじ。

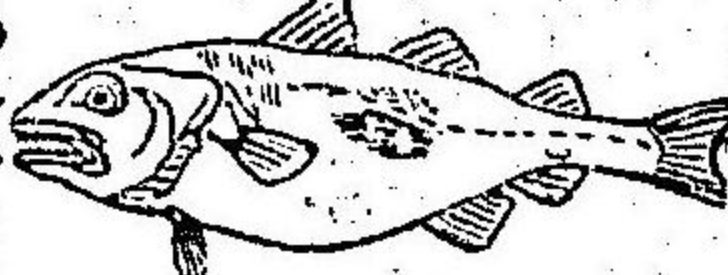
あんのほかにたなじ。

あゝあ

あいらむ 安蘭花。木の名。春の末、桃色の花をひらく。...

あゝあ

あゝあ 安蘭花。木の名。春の末、桃色の花をひらく。...



(をうめあ)

あゝあ 安蘭花。木の名。春の末、桃色の花をひらく。...

あゝあ 安蘭花。木の名。春の末、桃色の花をひらく。...

あめのむらさきのつるぎ 天叢雲劍。三種の神器の一。
 あめのやすのかは 天安河。天上にありこいふ河の名。
 あめのやすのかはら 天安河原。天上にありこいふ河原の名。
 あめのやちまた 天八衢。天上にありこいふたはくの
 あめのをはり 天尾羽張。神代の鳥の名。
 あめはらびき 餉寶引。餉屋が買人に餉をひかして、
 取りたる餉をさること。江戸時代の末に行はれたり。
 あめびと 天人。一てんにんにたなじ。二みやこびに
 たなじ。三萬葉集「あまさかひなのやつこにあめびとの
 かんこひすらは」
 あめふり 雨降。雨の名。一形、あはびに似て、雲なし。
 陸奥國の山中にすみて、雨のふる時に出づといふ。二なまこの
 類。海に産し、頭に二本の角あり。角物にふる時は、紅紫
 色の汁を出だして、身をかくす。
 あめふり 雨降。あめのふる日。雨中。
 あめす 斑。魚の名。あめのうををいふ。東國の方言。
 あめす 斑。あめうしの、まだらなるもの。三
 あめす 斑。英語 Almond の訛。一木の名。はだんきやう
 にたなじ。二からももにたなじ。
 あめんぼ 虫の名。あめんぼの「にたなじ」
 あめんぼ 虫の名。あめんぼをいふ。馬鹿。
 あめんぼ 雨模様。あまもやうにたなじ。
 あめんぼ 雨。雨のふる時。あまもよも助辞。

あめや 餉屋。餉を造り、又は、賣る家、又、その人。
 あめりか 亞米利加洲。六大洲の一。南北に分る。
 あめをなめす 甘言をもて、人を欺きたこと入る。三
 あも 天。あめの轉。四
 あも 母をいふ。東國の古の方言。
 あも 餅をいふ。京都、大阪の語。
 あも ちちはは(父母)をいふ。東國の古の方言。
 あも 海獸の名。わさせいの子の稱。
 あも 東國の古の方言。
 あも 天降。あまくだるにたなじ。三
 あも 文。一物のたもてに現はれたる種種の模様。二くふ
 う。だて。三文章のかざり。修辭。四あやを織り出だした
 る、うつくしき細織物。綾。五あやらしの畧。
 あも 漢。一漢人が綾なまをもち來たれるよりいふ支那の
 朝廷の名。かんにたなじ。
 あも 鳴呼。あんにたなじ。
 あやいろ 文色。あやめ(文理)にたなじ。
 あやわり 綾織。あやの織物。
 あやがき 綾垣。一あやのこぼり。二遊樂なごの時に、特
 に地上に張る幕の類。三すぢめ。しやんつ。
 あやかし 妖怪。一海中に居る妖怪。二魚の名。こは
 んぞめにたなじ。
 あやかし 危。あやしにたなじ。

あはうい木 かきくこ せすしを たつちつた なにぬの

あやがき 綾甲斐絹。綾織の甲斐絹。
 あやかりもの 骨物。あやかりたる物。似たる物。
 あやかる 骨。一物に觸れて似る。物に感じて、同じ
 のの如くなる。二他のものに似たことを願ふ。
 あやせ 綾絹。あやたりの絹織物。
 あやせ 間切。こぎるること。
 あやせ 綾葛。葛の皮にて織りたる布の、あやせ織
 あやせ 賤。あやしきもの。見ゆるしきもの。三
 あやせ 怪。俗に、あやし。一常にかはりてあり。疑ふ
 へくもあり。二ごとの轉。三源氏花の名は、入めきて、か
 う、あやしき垣根にたなさはたりける」
 あやせ 怪。うたがはしくたもふ。一見ゆ。
 あやせ 怪。うたがはしく見ゆ。あやしきまに
 あやしび 怪。あやしにたなじ。
 あやしび 怪火。一あやしき火。二火元の分らぬ火災。三
 誤して。つひにたなじ。
 あやしび 怪。あやしにたなじ。四
 あやしび 怪。あやしにたなじ。五
 あやしび 怪。あやしにたなじ。六
 あやしび 怪。あやしにたなじ。七
 あやしび 怪。あやしにたなじ。八
 あやしび 怪。あやしにたなじ。九
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十一
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十二
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十三
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十四
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十五
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十六
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十七
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十八
 あやしび 怪。あやしにたなじ。十九
 あやしび 怪。あやしにたなじ。二十

綾杉ありて有名の古木なり。
 あやち 綾地。綾わりにしたる織物の地。
 あやし 彼奴。一人をのしりてよ稱。あやのつ。や
 つ。二なんぢにたなじ。對馬國の方言。
 あやし 綾槻。もくめの美しき樹の材木。
 あやし 綾棒。木の名。つばきの一種。
 あやし 操縦。一あやしにたなじ。二あやしにたなじ
 うの畧。
 あやし 操縦。くりあはせをして、仕事を
 あやし 操縦。人形に、ほそき糸を仕掛
 け、音曲にあはせて、その人形を踊らしむる器。
 あやし 操縦。一しかけて、物を動かす。二かけひ
 きをなす。あやなす。
 あやし 操縦。紐を、手首にかけて、さまざまに組み合
 せ、五にたりたりする子供の遊戯。
 あやし 文取師。古、織部司に思して、織事を司
 りし役。
 あやし 操。あやしにたなじ。
 あやし 無文。あやなしの畧。
 あやし 無文。益なし。陸なし。しるしなし。
 あやし 無文鳥。鳥の名。ほそき糸の異名。
 あやし 操。一程よくあしらふ。巧に扱ふ。二文章
 を、美しくかゝる。
 あやし 操。あやしにたなじ。三
 あやし 操。あやしにたなじ。四
 あやし 操。あやしにたなじ。五
 あやし 操。あやしにたなじ。六
 あやし 操。あやしにたなじ。七
 あやし 操。あやしにたなじ。八
 あやし 操。あやしにたなじ。九
 あやし 操。あやしにたなじ。十
 あやし 操。あやしにたなじ。十一
 あやし 操。あやしにたなじ。十二
 あやし 操。あやしにたなじ。十三
 あやし 操。あやしにたなじ。十四
 あやし 操。あやしにたなじ。十五
 あやし 操。あやしにたなじ。十六
 あやし 操。あやしにたなじ。十七
 あやし 操。あやしにたなじ。十八
 あやし 操。あやしにたなじ。十九
 あやし 操。あやしにたなじ。二十

あはうい木 かきくこ せすしを たつちつた なにぬの

あひひ

あひひあひひ 互にゆづりあふ。
あひひのすず 脚帶鈴。あひひのかざりに附くる鈴。
あひひあひひ 結足。あひひをつく。まやはんをばく。

あひあひ

あひあひ 荒。あはき、あふるなどの意を示すに用ゐる。
あひあひ 新。あたらしき、あたらなるなどの意を示すに用ゐる。
あひあひあひあひ 粗粗。さつさつ、たはよそに。大層に。大概に。

のねぬにた ざつちた そせすしき こけくきか わねういあ

あひあひ

あひあひあひあひ 荒糠。かねてより。まへかたよ。
あひあひあひあひ 荒糠。一はねをり仕事。あはきかせぎ。
あひあひあひあひ 粗方。あはまし。たはよそ。大層。大概。

あひあひ

あひあひあひあひ 荒水。たはみづにたなじ。
あひあひあひあひ 荒行。修験者などのする、くるしき修業。
あひあひあひあひ 新木弓。幾度も成かざる弓。

をるわ ろれるり の よゆや もめんむみま ほへふひは

あらかし 粗飽子。あらかしに用ゐるかな。
あらかし 荒男。あらかしをする。荒しき男。二つと
ひつ。あらかし。軍卒。
あらかし 荒仕事。あらかしにたなじ。
あらかし 荒稻。一穂につきたるままでのもの。二つか
さる稻。
あらかし 荒嵐。あらかしにたなじ。
あらかし 荒嵐末。一嵐のふきゆくする。かきまき
二あらかしの吹きたるあらかし。
あらかし 荒嵐底。嵐のふくした。
あらかし 荒嵐枕。あらかしの爲めに、眠りのまじ
あらかし 荒嵐羽。嵐の羽にふく。
あらかし 荒嵐潮。あらかしの潮。
あらかし 荒島。荒海にあひだにある島。
あらかし 荒島風。島をふく、荒き風。
あらかし 荒注連。あたらしきしめなほ。
あらかし 荒新所帯。新に持たるしよたい。
あらかし 荒男。あらくれたる男。あらかし。
あらかし 荒。一衰へしむ。勢はずにたく。こはす。二
あらかし。たひやくす。三大いに物を喰ふ。暴食す。
あらかし。いな。しからず。
あらかし 荒。耕新田。新しき田をたがらす。
あらかし 荒。かたすみになじ。
あらかし 荒。芝居の語。その日に芝居の語。

あらかし 争。あらかしにたなじ。
あらかし 争。對手に勝たんと競ふ。互に、まをら
あらかし 桃花染。うす赤なる染色。桃色。
あらかし 新田。新しき田。
あらかし 荒田。耕作せぬ田。あれたる田。
あらかし 新新。あたらあたりにたなじ。
あらかし 新鷹。野に育ちたる鷹。
あらかし 新。いすいす。鷹あきらかに。
あらかし 新。あたらしにたなじ。
あらかし 荒立。あらかしなる。いかる。あらかし
たる振舞。俗にあらたたるあらかし。あ
だてては、反りてきあり。
あらかし 新。しんきに。あたらしく。
あらかし 荒灼。あたらかにたなじ。
あらかし 荒妙。あらかしにたなじ。
あらかし 荒魂。武勇、強健、暴戾なをつかさざる、人
の靈魂の一部。
あらかし 荒玉。未だ、みがかね玉。
あらかし 荒改。一かはる。うひる。二新しくなる。な
ほ。よくなる。
あらかし 荒改。俗に、あたらため。一新になす。あた
らしくなす。二しんをなす。吟味す。三新を新して、よき
になす。なほ。
あらかし 改。一新しくする。二しんをなす。

あらかしにたなじ してつちた そせすしき こけくきか ねわういあ

あらかし 新代。あたらまりたる世。一新したる御代。
あらかし 荒男。あらかしにたなじ。
あらかし 荒造。一未だ、全く出来あがらぬもの。した
らぬ。二いかに手をかけて、つくらぬもの。
あらかし 荒暴。あらかしにたなじ。
あらかし 荒積。みはからひ。積置。
あらかし 荒手。一新しき兵隊。いまだ戦にあづからぬ兵。
生兵。二あらかしに、仲間に加はれる人。
あらかし 荒手組。荒く組む。まはらにつくる。
あらかし 荒手結。つがひを見よ。
あらかし 荒砥。面のあらかし砥石。あらかしに用ゐる。
あらかし 荒砥石。あらかしにたなじ。
あらかし 荒研。荒砥にて研きたるままでのこぎ。
あらかし 荒床。死者を、暫時、ねさせたくころ。
あらかし 荒新床。あたらしき床。
あらかし 荒繩。なひめのあらかし繩。
あらかし 荒浪。あらかしなみ。たほなみ。
あらかし 荒新和積。みなづきのたほはらへ。
あらかし 荒野。あらかしにたなじ。
あらかし 荒不有思。あらかしにたなじ。
あらかし 荒糖。あらかしにたなじ。
あらかし 荒不有方。なほはねかた。意外なる方。
あらかし 荒不有事。一意外なる事。二無實なるうはさ。

あらかし 不有様。思ひがけぬさま。
あらかし 不有筋。道理にかなはぬいはれ。
あらかし 不有物思。あらかしなみ。たほなみ。
あらかし 荒塗。したぬり。最初のぬり。
あらかし 荒野。あれたる野。開拓せぬ野。
あらかし 荒野。あらかしにたなじ。
あらかし 阿羅波。荒野のいろは。
あらかし 新双。新に作りたる双物の双。
あらかし 新双。木の名。かへての二。葉は、七つにさけ、葉に、
白き毛あり。花は、枝の末にさきて、隨のかたちをなす。下野
園日光山に多し。
あらかし 現。あらかしにたなじ。
あらかし 現。喪服の稱。
あらかし 新走。新酒の、最も早きものの稱。
あらかし 現。一あらかしにたなじ。かくれなくす。二書を
つく。著述す。
あらかし 新肌。未だ男子に接せぬ女の肌。
あらかし 荒畑。あれたるはたけ。
あらかし 荒動。あらかしにたなじ。あらかしにたなじ。
あらかし 荒動。あらかしにたなじ。あらかしにたなじ。
あらかし 不現法令。表だたれ法令。古、
天皇、及び、三后の親戚、若くは、三位以上の人の、死罪を犯し
たる時、直に處分せず、まづ議して、罪を減すること、天皇に
請ひしこと。議罪。

あらかしにたなじ してつちた そせすしき こけくきか ねわういあ

あらかに 現。つつまきに。まきたしに。
あらかに 顯露事。人間界の理。⑤
あらかに 洗。あらはし。すすぐ。あらはし。⑥
あらかに 露臥。ふらふら着ずにすすむ。⑦
あらかに 顯。俗に、あらはれる。①あらはになる。明らくなる。②顯現。發露す。
あらかに 顯。あらはるる時までも。③
あらかに 洗。①すすぎ。あらはし。②夏魚のさしみを、水にさらし、肉を締めしめたる料理。
あらかに 洗革。桃色にそめた革。
あらかに 洗衣。あらはたる衣。
あらかに 洗馬。馬を洗ふ時にかくくつわ。
あらかに 洗熊。獸の名。熊の一種。凡ての食物を、水にて洗ひて食する性質をそふ。
あらかに 洗粉。白あじきを、粉にしたるもの、その他、さきまあり。物を洗ふに用ゐる。
あらかに 洗。あらはながす。⑤
あらかに 洗。あらはにしたるこひの肉。
あらかに 洗血。血なまを洗ふ血。はいせん。
あらかに 洗晒。衣服なまたび洗ひて、地も色も鮮く白けたるもの。
あらかに 洗。ありだけ。獲らす。悉く。⑥
あらかに 洗。粗製ひしほ。
あらかに 洗。あらあらしき行をなす備。

あらかに 洗。あらひにしたるすき肉を、酢にひたせる料理。①
あらかに 現人神。現世に、人となりてあらはれたる神。②
あらかに 洗海苔。海草の名。あまのりの一種。出雲國より産す。
あらかに 洗張。①衣服の類を洗濯し、板にはり、日に干して乾かすこと。②又それを葉とする家又は人。
あらかに 洗張屋。あらはりにたれなじ。洗白家。
あらかに 洗時。水に浸さずに洗ひたるままたて、もみを田にまくこと。
あらかに 洗米。洗ひ清めたる米。神前ならに添ふるもの。せんまい。
あらかに 洗。①物を、水にすすぎて、清くする。②こひの味。③味。④味。⑤味。⑥味。⑦味。⑧味。⑨味。⑩味。⑪味。⑫味。⑬味。⑭味。⑮味。⑯味。⑰味。⑱味。⑲味。⑳味。㉑味。㉒味。㉓味。㉔味。㉕味。㉖味。㉗味。㉘味。㉙味。㉚味。㉛味。㉜味。㉝味。㉞味。㉟味。㊱味。㊲味。㊳味。㊴味。㊵味。㊶味。㊷味。㊸味。㊹味。㊺味。㊻味。㊼味。㊽味。㊾味。㊿味。
あらかに 洗。俗に、あらはる。①あれたつ。はげしくなる。②あらはなる。まさほになる。③萬葉集「あらはる君をみるが悲しむ」
あらかに 洗。あらあらしき武士。たくましき武士。
あらかに 洗。されかうへにたれなじ。
あらかに 洗。甚しく、骨をりする仕事。
あらかに 洗。魚類を、すまきにしたるもの。苞魚。④
あらかに 洗。田を耕さず、種子をまくこと。
あらかに 洗。①あらまき。②あらまき。③あらまき。④あらまき。⑤あらまき。⑥あらまき。⑦あらまき。⑧あらまき。⑨あらまき。⑩あらまき。⑪あらまき。⑫あらまき。⑬あらまき。⑭あらまき。⑮あらまき。⑯あらまき。⑰あらまき。⑱あらまき。⑲あらまき。⑳あらまき。㉑あらまき。㉒あらまき。㉓あらまき。㉔あらまき。㉕あらまき。㉖あらまき。㉗あらまき。㉘あらまき。㉙あらまき。㉚あらまき。㉛あらまき。㉜あらまき。㉝あらまき。㉞あらまき。㉟あらまき。㊱あらまき。㊲あらまき。㊳あらまき。㊴あらまき。㊵あらまき。㊶あらまき。㊷あらまき。㊸あらまき。㊹あらまき。㊺あらまき。㊻あらまき。㊼あらまき。㊽あらまき。㊾あらまき。㊿あらまき。
あらかに 洗。あらあらし。あらくまし。

あらかに 洗 すすぐ あらはし

あらかに 現露事。かねて、思ひはかりたくこひ。
あらかに 新町。新に出来たる町。①「てがぎの刀」
あらかに 新刀。①新にきたへたる刀。②きたへしまたに
あらかに 荒御影。人のなかを、うごくなす神。⑤
あらかに 荒神。あらみかげにたれなじ。⑥
あらかに 荒神。あらみさきにたれなじ。⑦
あらかに 荒溝。ひろきほり。⑧
あらかに 荒魂。あらびたまふ神。⑨
あらかに 荒道。あらみかち。険しき道。
あらかに 荒。穀物の名。からすむぎにたれなじ。
あらかに 荒武者。①たけき武者。あらあし。②凡て、荒き行をなすこと。③
あらかに 荒。あみめのあらきやしろ。
あらかに 荒。草の名。田野ならの濕地に生ず。
あらかに 荒布。海草の名。ひろめの類。海底の石につきて生ず。①根より露生す。②長くして、色黒し。③晒して、食用にす。④滑。⑤
あらかに 荒布妹。海草の名。ひじきにたれなじ。
あらかに 荒目。舞のをさし方の名。糸目を、粗くしてをひせるもの。
あらかに 新。米をつく時に、くだけたる屑。⑥
あらかに 新物。凡て、新しきもの。
あらかに 荒物。ざる、桶等、すべて臺所道具及び草鞋、

あらかに 荒者。性質のあらき人。
あらかに 荒物屋。荒物をあきなふ家。
あらかに 荒山。①険阻なる山。②神佛ならのたたりあり湯。湯かへりて、畏しきやうなる温泉。
あらかに 荒湯。わかつて、未だ人の入らざる風呂湯。さら
あらかに 新弓。新しき弓。①
あらかに 新。あらあらし。②あらあらし。③あらあらし。④あらあらし。⑤あらあらし。⑥あらあらし。⑦あらあらし。⑧あらあらし。⑨あらあらし。⑩あらあらし。⑪あらあらし。⑫あらあらし。⑬あらあらし。⑭あらあらし。⑮あらあらし。⑯あらあらし。⑰あらあらし。⑱あらあらし。⑲あらあらし。⑳あらあらし。㉑あらあらし。㉒あらあらし。㉓あらあらし。㉔あらあらし。㉕あらあらし。㉖あらあらし。㉗あらあらし。㉘あらあらし。㉙あらあらし。㉚あらあらし。㉛あらあらし。㉜あらあらし。㉝あらあらし。㉞あらあらし。㉟あらあらし。㊱あらあらし。㊲あらあらし。㊳あらあらし。㊴あらあらし。㊵あらあらし。㊶あらあらし。㊷あらあらし。㊸あらあらし。㊹あらあらし。㊺あらあらし。㊻あらあらし。㊼あらあらし。㊽あらあらし。㊾あらあらし。㊿あらあらし。
あらかに 荒。あらあらし。あらくまし。

あらかに 洗 すすぐ あらはし

あるまじき歩 歩歩。ゆきながら。あるまじう。ゆく。

あるまじき 行違。ゆきながら。行き違ひになる。

あるまじき 歩行習。小児の歩行をならぶこと。

あるまじき 歩行習。あるまじうにたれをむ。

あるまじき 歩行。あつむにたれ。

あるまじき 酒精。亞刺比亞語 Alcohol、酒を蒸餾したる液。その性、よく燃ゆるをもち、燈油の代りに用ゐる。

あるまじき 酒精洋燈。酒精を、油の代用として、火をともすらんぶ。

あるまじき 主人。一家のよし。酒肴を以て、人をもてなすこと。あるまじく。

あるまじき 主人方。主人の方。(王冠を分つ時の器)

あるまじき 主人柄。あるまじう。主人の様子。

あるまじき 主人関白。主人の、傲慢なることならんか。

あるまじき 變設。變遷の設をなすこと。もてなしの

あるまじき 或。あるまじうにたれ。

あるまじき 或。英語 Alphabet、西洋文字の字母。例へば、英國の ABC など二十六文字の稱。

あるまじき 或。または。あるまじう、それならすは。二何ぞか。

あるまじき 有平細工。あるまじうにして、種種の細工をしたる菓子。

あるまじき 有平糖。砂糖を煮つり、煉りて、蛤の如くにし、種種の形につくりたる菓子。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 生繼。生れ来てうけつぐ。

あるまじき 彼體。あれは。あれはかり。

あるまじき 回非我。われをもめて。正氣を失ひ

あるまじき 荒野。荒れたる野。あるまじう。

あるまじき 阿禮驛。古、葦中の驛院にて、正月十七日、月をみそをなす時に、立てられたり。

あるまじき 阿禮驛。古、葦中の驛院にて、正月十七日、月をみそをなす時に、立てられたり。

あるまじき 阿禮引。葦茂の祭の時、阿禮につけたる綱をひく。

あるまじき 彼程。あれは。あれはかり。

あるまじき 荒間。破れたるところ。

あるまじき 荒間。荒れたる家にやめるところ。

あるまじき 荒感。甚だ荒れたり。荒れに荒れたり。

あるまじき 阿練若。「梵語 佛教の語。六般若の一。

あるまじき 彼等。あれは。あれはかり。

あるまじき 阿禮女。さいふんにたれ。

あるまじき 主人。あるまじうにたれ。

あるまじき 草蘆薈。あだんにたれ。

あるまじき 泡起。あちす。泡があがり。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 有平糖。あるまじうにたれ。

あるまじき 白鹽。純白なる厚き鹽。

あるまじき 惶急。俗に、あつたたい。あつたたる様

あるまじき 周章。俗に、あつたる。うつたへさわぐ。

あるまじき 周章者。うつたふる人。驚きやすき人。

あるまじき 沫吹蟲。虫の名。樟などの枝、葉の間に生じ、沫をふきて、その中に棲む。後、化して、くさきものなる。

あるまじき 泡盛。琉球産の焼酎。白米にてかもし、瓶の中に入れ、密封して、いくたびも蒸みて、五六年をへたるもの。

あるまじき 泡盛草。草の名。あははの類。高さ一二尺。葉は、深緑にして、光あり。夏、白き花を開く。

あるまじき 泡盛鯛。鯛の上に、鰈卵の白身をかけて、蒸したる料理。

あるまじき 沫雪。春なごになつて、降る雪。沫の如く軽くして解け易きもの。

あるまじき 沫雪豆腐。軽く柔らか、あつたたる。

あるまじき 幼見を懸けために、そのものいふ口を、手にしたとき、あつたたる。

あるまじき 食沫。あつたたる。

あるまじき 吹沫。不意をうたれて失望す。

あるまじき 泡藍。一葉は、互生し、鱗に似たり。高さ一二尺ばかり。

あるまじき 泡藍。夏、枝の末毎に、藍の如き花を開く。たであら。あつたたる。

あるまじき 泡藍。夏、枝の末毎に、藍の如き花を開く。たであら。あつたたる。

あるまじき 泡藍。夏、枝の末毎に、藍の如き花を開く。たであら。あつたたる。

あめしりの藍。三つあじの藍。
 あめしりの藍。青よりは濃く、紺よりはうすき色。
 あめしりの藍草。藍にて染めたる草。昔、葉菜に用ひき。
 あめしりの藍返。小紋などのある上を、更に藍にて染め返したる染色。
 あめしりの藍紙。うつくさなにて染めたる紙。こんがみ。あめしり。
 あめしりの藍瓶。染屋にて、藍汁を貯へ置くに用ゐる瓶。
 あめしりの藍氣。やや、藍色を帯びたる染色。「色」。
 あめしりの藍氣風。やや、藍色を帯びたる風色の染色。
 あめしりの藍媚茶。やや、藍色を帯びたるこひ茶色の染色。
 あめしりの藍細美。紺がすりの細子。
 あめしりの藍鮫。魚の名。鮫の一種。伊豆國、駿河國の近海に産す。皮は、刀鉋の柄、又は、鞘に用ゐる。
 あめしりの藍汁。藍の葉を煮して、とりたる汁。藍色を染むるに用ゐる。
 あめしりの藍墨。あめしりにたなじ。
 あめしりの藍摺。山藪にて、花鳥などの模様を描り出たせる布。事件の時の衣服などに用ゐる。あめしり。「の」。
 あめしりの藍染。藍にて染むること。又その染めたるもあめしり。「の」。
 あめしりの藍草。草の名。「あめしりにたなじ」。
 あめしりの藍玉。あめしりを乾じ、水分を去りて、丸く固めたもの。あめしり色を染むるに用ゐる。

あめしりの藍葎。あめしりにたなじ。
 あめしりの藍草。藍色に染めたる、なめしがは。
 あめしりの藍鼠。あめしりの鼠。
 あめしりの藍煙。あめしりにたなじ。
 あめしりの藍花。「あめしりの表面に浮ぶ花」。二草の名。うつくさなにてたなじ。
 あめしりの藍棒。あめしりにたなじ。「うの染色」。
 あめしりの藍水松茶。濃くして、黒みあるもの。
 あめしりの藍蠟。あめしりの泡を、乾して製したる輪貝。今、多くは、藍染の布を煮てたなじ。
 あめしりの藍。あめしりの藍。「一時たし空の如き色」。二つあじの藍にたなじ。三馬の毛色の名。くろにたなじ。國圖未熟なる、物置れぬなるの藍を示すに用ゐる。「あめしり」。あめしり。「あめしり」。
 あめしりの藍。二つあじの明きたる藍。袖は、くろにたなじするやうにうつくさなにてたなじ。三馬の藍をうけたもの。
 あめしりの藍。草の名。あかぎの一種。葉の色、初めは、灰白色にして、後、緑色となる。
 あめしりの藍青小豆。草の名。やうなりたなじ。
 あめしりの藍青嵐。「青葉を吹く風」。二月の土用の中に、驟れ渡りたる空を吹く風。
 あめしりの藍青。凡て青に。一説に青く。青草。
 あめしりの藍青。そはむぎの葉名。女の髻。

あめしりの藍。あめしりにたなじ。あめしりの藍。あめしりにたなじ。

あめしりの藍青息。蚊の時に發する氣息。
 あめしりの藍青白椽。きんぎんにたなじ。
 あめしりの藍青糸毛車。青き糸にて縫きたるしたる車。皇后、東宮などの乘る車。
 あめしりの藍青色。「かりやす」。「葉にて染めたる染色」。きんぎんにたなじ。
 あめしりの藍青萍。草の名。うすくさの一種。葉は、小かく、楕圓形にして、表裏共に、緑なり。
 あめしりの藍青海原。青青と見わたるうすなはら。あめしり。「の」。
 あめしりの藍白馬。「毛色の白くして、少し青はみたる馬」。
 あめしりの藍のせむぎの藍。
 あめしりの藍白馬節會。古、陰曆正月七日に行ひし節會。左右の馬寮より、二十一定の白馬を、庭中にひきいだすを、天皇御覽じ、又、庶民にも見せ給ふ。
 あめしりの藍白馬陣。白馬の節會の時に、馬寮の官人の並びある陣。
 あめしりの藍青梅。「未だ熟せざる梅の實」。二名香の名。すんの一種。
 あめしりの藍青瓜。「白瓜の、皮の青きもの。くる瓜。もみ瓜。二つあじのけしり」。京都の餅。
 あめしりの藍青垣山。垣の如くに立ち回れるあざ山。
 あめしりの藍青傘。あめしりに染めた。紙にて張りたる日傘。
 あめしりの藍青柏。枯れやして、未だ青き柏の葉の實。

あめしりの藍青糟毛。馬の毛色の青色を帯びたる糟毛。
 あめしりの藍青褐。かちいろの、青色を帯びたる染色。
 あめしりの藍青腸蕪。鳥の肉を、細かにしてすりびし。ほろなし、又その腸をよく叩きて交へ、煮にしたる料理。
 あめしりの藍青草。草の名。うつくさなにてたなじ。
 あめしりの藍青貝。あめしりにたなじ。「の」。
 あめしりの藍青貝細工。すへて、青貝にて細工したるもの。
 あめしりの藍青蛙。虫の名。あまがへるにたなじ。
 あめしりの藍青紙。こんがみにたなじ。
 あめしりの藍青唐紙。表は、縹、うすあざをく、背、唐紙にて、裏は青きかざの色目。
 あめしりの藍青芥。草の名。たかなに似て、柔かなる毛あり。葉の色、深青なり。
 あめしりの藍青枯。青くからぶ。青色のままにてあめしりにたなじ。表は黄色、裏は淡黄なるかざの色目。
 あめしりの藍青木。凡て、あをあをとしたる木。なまき。「木の名。常緑木にして、幹青く、葉は長く、その周りに刺みありて、對生す。夏の初め、小花を開きて、葉に似たる實を結ぶ。多、栗して、紅色となる。桃葉珊瑚」。
 あめしりの藍青白馬。毛色白く、少し青はみたる馬。
 あめしりの藍青啄木鳥。鳥の名。あをけらにたなじ。
 あめしりの藍青黄粉。あをに交へたるきなこ。また青豆を炒りて、白にて換ける粉。

あめしりの藍。あめしりにたなじ。あめしりの藍。あめしりにたなじ。

あざなな 木の名。櫛の異名。①

あざなな 青宮。 じろのみやにたなじ。

あざなな 青桐。 木の名。桐の一種。皮青く、葉は大き

くして、三尖なり。夏、五葉の黄白色なる小葉集まり開き、後

豆の如き實を結ぶ。

あざなな 青草。 あざなを生長したる草。

あざなな 青臭。 俗に、あざなをいふ。青草の如き、き

らば、時に臭ひあり。②いまだ熟せずあり。いまだ馴れずあ

る。あざなをいふ。あざなをいふ。あざなをいふ。あざなをいふ。

あざなな 青朽葉。 葉は青く、葉は朽葉色なるがまね

の色也。

あざなな 青雲。 青き色の雲。あざなをいふ。

あざなな 青黒。 一、表裏ともに青にして、葉は、あざ、黒ま

もの。又、葉は黄に、葉は、青の黒はゆる緑物にて、葉は、黄な

るかなりの色也。②青はみたる黒き色。

あざなな 青黒。 俗に、あざなをいふ。青はみて黒し。

あざなな 青啄木鳥。 鳥の名。啄木鳥の一種。頭、頬、尾

は、何れも赤く、背、腹は、淡緑にして、嘴、足は黒し。

あざなな 青粉。 一、あざのりの粉。②わははからしの葉を

乾かして、粉とせるもの。料理したる食物を、青く色づくるに

用ふる。

あざなな 青苔。 木石などに生ずる、青き苔の類。

あざなな 青虫。 虫の名。蝶に似て、短き翅あり、よく飛ぶ。腹の

邊青黒くして、大帯あり。春夏の頃出づ。

あざなな 青羊。 鹿の名。かもしかにたなじ。

あざなな 青鳥。 鳥の名。あざにたなじ。

あざなな 青柴。 柴の青きもの。なまきの柴。

あざなな 青白樺。 きくせんになじ。①

あざなな 青軟。 はなた色に染めたるしりがい。

あざなな 青簾。 あざなにたなじ。

あざなな 青裾濃。 すそに染めたる青色。

あざなな 青簾。 青竹のすだれ。

あざなな 青墨。 漆にて製したる器具。青き汁をすり

いたすに用ふる。あざな。

あざなな 青李。 一、熟しても、赤くならぬもの。青。

二、未だ熟せずもの。青。

あざなな 青摺。 あざなにたなじ。

あざなな 青鶴鶴。 鳥の名。せきれいの一種。形、

極めて小さし。

あざなな 青錢。 からかねにて鑄たる錢。

あざなな 青麻。 麻のあら皮。細なうつくろ。

あざなな 青石蓴。 のりの一種。海中の岩石に着きて生ず。色

青し。乾せば紫色となる。食ふべし。あざな。

あざなな 青天。 青青とされ渡れる空。

あざなな 青田。 稻の、青青とたひたる田。

あざなな 青魚の名。形、こぎう鯛に似て、小さく、腰の邊に大な

る刺あり。皮滑かにして、青色の横筋あり。きんちやくたひ。

あざなな 青見料を拂はずに、興行物なら見るこ。關西の方言。

あざなな 青駒。 毛色の青き駒。

あざなな 青草。 海藻の名。一、海中の石に生ず。形、さら

きりに似て、緑色なり。食用せず。石藻。②河藻の名。かは

もくづになじ。

あざなな 漬柿。 漬柿の、醗を去りたるもの。

あざなな 青鷲。 鳥の名。鷲の一種。背淡青し。冠毛は、

長くして黒く、腹は白し。みそぞろ。

あざなな 青驢駒。 青みを帯びたるつぎの駒。

あざなな 青差。 一、あざなにて造りたる鞍のさし。②

しつらに似たる鞍。③青差をいふ。田にてすり、糸の

くよりよりしたるものなり。いふ。栗子。

あざなな 青差羽。 鳥の名。鷹の一種。色青はみ、形

は、あざなに似て、小なり。

あざなな 青鱈。 魚の名。さばになじ。①

あざなな 青冷。 俗に、あざなをいふ。顔の色、青く

なる。

あざなな 青侍。 一、年若くして、事になれ侍。②公

家に奉公する侍。

あざなな 青珊瑚球。 珊瑚に似て、その色、緑な

る。あざなに似て、女児の、かきみの如くに着たるもの。

あざなな 青。 俗に、あざなをいふ。一、青き色なり。緑なる色なり。

二、なわやあり。未熟なり。

あざなな 青雀。 鳥の名。形、しんりに似て、頭、背ともに

黒く、腹は、淡黄にして、尾、嘴は黒し。

あざなな 青磁。 せびになじ。①

あざなな 青便輿。 あだになじ。①

あざなな 青大将。 虫の名。へびの一種。色青く

して、形大きく、人を害することなし。

あざなな 青道心。 なまなかの道心。

あざなな 青竹。 一、未だ枯れざる竹。なま竹。②ふしの

あざなな 青玉。 網玉石に似せたる人造の珠。一、異名。

あざなな 青地。 青き織地。

あざなな 青軸。 木の名。梅の一種。うてな、わかた、こ

もに、緑色なるもの。緑軸。

あざなな 青茶。 青色を帯びたる茶色。

あざなな 青燧。 燈火がまたたく。燈火のほが動く。

あざなな 青塚。 青き草の茂くたひたる塚。

あざなな 青葛。 草の名。あをかづらになじ。①

あざなな 青葛籠。 あをかづらを籠みて造りたる

あざなな 青椿。 木の名。つばきになじ。①藤。②

あざなな 青砥。 色青くして、あざな、まらごの間に用ひ

る砥石。

あざなな 青蝦蟇。 虫の名。こかげの一種。全身に、

青みあり。長さ四五寸ばかり。毒あり。

あざなな 青土佐。 紙の名。こたひになじ。①の。

あざなな 青蜻蛉。 虫の名。こたひの一種。色青きも

あざなな 青菜。 一、野菜類の類名。②二草の名。すすな

になじ。

あざな

あざな

あざな

あをなし 青梨。梨の實の形、相長くして、色青く、早く
あをなす 青茄子。茄子のあをなすもの。「梨するもの」
あをなす 青鱸。青みを加へたる鱸。
あをなみ 青波。青青と見ゆる波。大海の波。
あをなめし 青草。あをなめしにたなじ。
あをに 青丹。青くろまき土。①二土中にかたまりて
在り。成分は炭酸銅にして、黒びたる緑色なるを、上品とす。
緑色を染むるに用ふる繪具。②濃き青色に、黄を加へたる色。
③表は、濃き青色、裏は、薄き青色なるかさねの色目。
あをに 青煮。野菜類の色をかへりやうに煮たるもの。
あをに 青和幣。青色のにぎひ。
あをに 青二歳。年若くして、未だ世になれざるもの
のき、いぢしめて呼ぶ稱。
あをに 青雞。鳥の名。鶏の一種。形、雞に似て、
足長く、尾短く、全身青く、頭は、赤く茶色を帯ぶ。
あをに 青鈍。①青色を帯びたるはなた色。②表、裏の
色に、濃きになたるかさねの色目。
あをに 青鈍。あをにひにたなじ。「女房」
あをに 青女房。年若くして、未だ、もの馴れぬ
あをに 青瓊玉。あをにたまにたなじ。①
あをに 草の名。はこねささといふ。東京の稱。
あをに 仰。①あをせむにたなじ。②仰圖體
に、あをのけり。あをせむにたなじ。
あをのけり 仰。あをせむにたなじ。
あをのけり 仰。あをのけりまにたなじ。

あをのり 青海苔。のりの一種。磯邊の岩なかに生ず。
あをのり 青暖簾。女郎屋をいふ。京都の稱。
あをのり 仰。虫の名。あをにひしやうをいふ。東北地方の
方言。又あをのりち。
あをに 青葉。青青としたる葉。
あをに 青羽。鳥の青き羽。
あをに 青袴。染色の青き袴。
あをに 青肌。①毛を剃りたるあをのり、青青と見ゆる
もの。②あをせむにたなじ。
あをに 青幡。あをさはた。
あをに 青蜂。虫の名。じがけちの一種。長さ一寸は
かり、腰細くして、色青黒し。
あをに 青羽木兎。鳥の名。みみづくの一種。羽
の色、青黒くして、尾長く、口中、よく物を見る。
あをに 青鳩。鳥の名。はこねの一種。形、はこねより
大きく、全身、緑色にして、黒みを帯ぶ。腹は白く、緑色の斑あ
り。足は赤し。山に棲む。山はこねのこせはこね。
あをに 青羽鳥。動物。鳥の異名。
あをに 青花。①草の名。つきくまにたなじ。②うつ
しはなにたなじ。
あをに 青鼻。見供なるの垂らす青き鼻汁。
あをに 青花鸚哥。鳥の名。いんごの一種。全
身、緑色にして、翼の裏赤く、尾は黒し。

あをのりな せつちた せせすしき こけくきか ねういあ

あをのり 青葉簾。古、卯月朔日に、大内の兩の
角に、相對して、二本の櫛に懸け、その日の暮方に、こり入れら
れたる簾の稱。
あをのり 青葉笛。高倉院御秘藏の、有名なる笛の
あをのり 青葉山。青葉のしげりたる山。
あをのり 青蠟。虫の名。はへの一種。形、常のよりも大
きくして、全身青黒し。くろはこね。
あをのり 青。青色を帯ぶ。青色にたなす。
あをのり 青斑猫。虫の名。斑猫の一種。黒にこ
て、黄金色に光あり。またら虫。
あをのり 白麩者。青、雜兵は、槍を染めざりしよ
り「あをのり」をひやりにたなじ。
あをのり 竹刀。青竹にて造りたる刀。あか見の稱帯を
切りに用ふる。
あをのり 青光。青くひかるつや。「の方言」
あをのり 青蟾蜍。虫の名。あまがへみをいふ。肥前國
あをのり 青人草。たみ。たみくさ。①
あをのり 青。あをせむにたなじ。②
あをのり 青。青ひる。あをのり。③
あをのり 青。青ひれたる男。④
あをのり 青生草。青、青青と生ふる草。若草。⑤
あをのり 青脹。皮膚なるの、青く脹らむこと。
あをのり 青柴垣。あをのりにて、造りたる垣。⑥
あをのり 青淵。水が、かかして、青青と見ゆる淵。⑦

あをのり 青淵汁。さうろじを、鳥の肉にかけた
る料理。
あをのり 青表紙。①證故に備へたる記録。知行の田
畑、山林等の高を記せる書。②人の道を説きたる書。論語。孟
子なるの類。③
あをのり 青反吐。なまなましきへひ。苦しき時に吐く
あをのり 青豆。①大豆の實の、粒大きくして、色、青
きもの。②青きつみを含めるはわもの。③「たり」
あをのり 青豆貝。貝の名。その形、あをせむに似
あをのり 青豆腐。青豆をすりつぶして、豆腐
の形に固め造れるもの。
あをのり 青。吸物、刺身なるのあしらひに用ふる野菜。
あをのり 青出。草が、青青と萌は出づ。①源
氏「あををみいづる若草みわたたり」
あをのり 青蜜柑。木の名。たさはなの一種。實、青
き時より、食用せらる。
あをのり 青損。青をりて、黒くなる。瘡せて
あをのり 青脹。青くなりてつむ。①
あをのり 青水引。みづひきの、なかけを白く、他の
なかけを、紺色に染めたるもの。専ら凶事に用ふる。
あをのり 青線。①濃き緑色。②あをのり、きはだにこ
て染めたる染色。③草の名。昔の類。水の流みに生じ、色青
し。あをみさる。水綿。

あをのりな せつちた せせすしき こけくきか ねういあ

あをみなづき 青六月。 かなづきにたなひ。

あをみはる 青走。 あをみはるにたなひ。

あをみわたる 青渡。 青青と見わたる。 遠く青に。

あをむ 青。 青くなる。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青菱。 未だ稔せずして青き菱。

あをむさ 青仰。 上におく。 あをむく。 あをのく。 二

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむか 青。 青ささか。 青青。

あをむさ 青柳。 青青とした柳。

あをむさ 青柳草。 草の名。 やまうばらの一種。 花の無色なるもの。

あをむさ 青柳。 あをむさ。 二表。 表は青、裏は黄色なるもの。

あをむさ 青山。 草木のしげりて、青青と見ゆる山。

あをむさ 青山吹。 表は青く、裏は黄なるものなり。 また、表裏ともに、黄色なりとも、また、表は青く、裏は紫なるものなりともいふかきねの色月。

あをむさ 青茹。 野菜類を、青き色のかはらやうにゆて。

あをむさ 青花蒿。 草の名。 かはらよもぎにたなひ。

あをむさ 青童。 草の名。 よこむらにたなひ。

あをむさ 青童。 年わかくして、未だ世になれざる童。

あをむさ 青繪。 絹の具の名。 二(異類)にたなひ。

あをむさ 青蜻蛉。 虫の名。 さえんばにたなひ。

あをむさ 青女。 年若くして未だ世になれざる女。

い

い 五十音圖中、同行第二の音。 喉音の一。 舌を、下歯につけて、口を、ひらくと同時に、氣息を、喉に觸れしめて發す。

い 動物の體内にある機関。 肝臟の下部にあり。 形、ふくろの如くにして、その中に、胆汁を貯る。

のねにな いてつちた ぞせすしき こけくきか ねういさ

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

あをむさ 青仰。 あをむく。

をるむわ ろれるり けいや もめんむみま ほへふひは